

東京都国分寺市

羽根沢遺跡発掘調査報告書

第9・10次調査

—「(仮称) 日立製作所中央研究所新棟計画」工事に伴う調査 —

2018年4月

共和開発株式会社

例　言

1. 本書は、東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 280 番に所在する羽根沢遺跡（国分寺市 No. 5 遺跡）第 9・10 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

第9次調査は試掘調査であり、第10次調査は本発掘調査である。

2. 本調査は、「(仮称) 日立製作所中央研究所新棟計画」工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

調査は、株式会社日立製作所中央研究所の委託を受けて、国分寺市教育委員会の指導のもとに共和開発株式会社が実施したものである。

3. 本調査にかかる費用は、全て株式会社日立製作所中央研究所が負担した。

4. 発掘調査・出土品等整理作業・報告書作成作業は、下記の期間に実施した。

　試掘調査　　平成 28 年 5 月 30 日から 6 月 15 日

　現地発掘調査　　1 期（1 区・2 区）：平成 28 年 8 月 1 日から同年 8 月 31 日

　2 期（3 区～5 区）：平成 29 年 2 月 1 日から同年 4 月 27 日

　3 期（6 区）：平成 29 年 5 月 17 日

　出土品等整理作業　　平成 29 年 4 月 28 日から平成 30 年 1 月 31 日

　報告書作成作業　　平成 29 年 12 月 1 日から平成 30 年 4 月 27 日

5. 発掘調査・出土品等整理・報告書作成作業は以下の体制で実施し、発掘調査および出土品整理監理は国分寺市教育委員会の依田亮一・増井有真・島田智博が行なった。

　調査担当 林 徹

　調査員 伊庭彰一・川辺賢一・高林 均・中野高久

　現場代理人 羽吹潤一・伊藤洋平

6. 本書の編集は、林 徹が担当し、執筆部分は以下のとおりである。

　第 1 章：島田智博

　第 2・3 章：林 徹

　第 4・5 章：林 徹

　伊庭彰一（縄文土器）

7. 遺跡の略記号は「K 5—10」とし、図面・写真や出土遺物の注記等はこの表記を用いた。

8. 発掘調査における出土遺物および図面・写真等の記録類は、一括して国分寺市教育委員会で保管している。

9. 本書作成にあたり、以下の方々に御指導・御協力を賜った（敬称略・順不同）。

　小川 望（小平市教育委員会） 寺畠滋夫 藤波啓容（有限会社アルケーリサーチ）

10. 発掘調査および出土品等整理・報告書作成作業の参加者は、以下のとおりである。

阿部 優	阿部将大	井口正利	石村 崇	伊藤 潤	牛草 勉	江口真裕
扇田芳嗣	大津美衣里	小川有子	柏原康晴	川戸直子	北川万寿夫	黒田智和
小坂邦夫	後藤克樹	齋藤京子	齋藤正毅	酒井真之	佐藤 徹	清水広幸
杉山久晶	須賀きみ子	関森八重美	高田彩子	高橋広行	高森裕一	武内良太
田澤 真	寺本麗子	豊岡 仁	土田雅美	中山弘人	西野 宏	野上亨介
野村雅美	福井泰弘	堀井政宏	松本雄三	丸岡 祐	村野正広	室賀明子
本山真一	矢野聖次	結城 真				

凡 例

1. 遺構の表記は、以下の略号を用いた。また、縄文時代の遺構については、集石を除き末尾に「J」を付した。
S I : 穴住居 S D : 溝状遺構 S K : 土坑 S S : 集石土坑
S X : 性格不明遺構 P : 中世以降小穴 P J : 縄文時代小穴

2. 遺構平面図・断面図で使用した標高はT. P. (Tokyo Peil) である。国家座標について世界測地系座標を使用している。
3. 調査区のグリッドは、国家座標系に合せて3m×3mで設定し、南北はアルファベット、東西はアラビア数字で表記した。
4. 実測図の縮尺については、それぞれの図に記した。

5. 遺構平面図・断面図で使用した線種は以下のとおりである。
----- 推定線 ----- 現在 オーバーハング

6. 挿図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



7. 遺構・遺物に関する表において、() は推定値、〔 〕は残存値を表す。また、単位には特に記載のないものはすべて「cm」、重さは「g」である。
8. 遺構観察表において、< は遺構の新旧関係を表す記号である。「S K 1 <」と記号の前に遺構名がある場合は、対象遺構より古い遺構があることを表し、「< S K 1」と記号の後ろに遺構名がある場合は対象遺構より新しい遺構が重複することを表す。
9. 集石土坑の礫の被熱度は以下の基準で分類した。
極度：礫のほぼ全面に著しい赤化・暗赤化の見られるもの。
中度：礫の全面ないし一部に顕著な赤化・桃色化の見られるもの。
軽度：礫の一部に薄い赤化・桃色化の見られるもの。
10. 遺物実測図および遺物写真に付した番号は、掲載番号 遺物記号、番号の順で表記し、「1 JE01」の様に記載した。

11. 遺物記号は以下のとおりである。

歴史時代
須恵器 PK 土師質土器 PL 中世陶器 PT 女瓦 KD
鉄製品 MM ガラス製品 PZ

縄文時代
土器 前期 JD 中期前半 JE 中期後半 JF 土製円盤 DE
尖頭器 AA スクレイパー AD 打製石斧 AG 磁器 AJ
敲石 AK 磨石 AL スタンプ形石器 AN

旧石器時代

ナイフ形石器 FA

目 次

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 調査地区の概観	3
第1節 遺跡の立地と地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡	3
第3節 基本層序	12
第3章 調査経過	15
第1節 調査方法	15
1. 発掘調査の工程	15
2. 調査結果の記録方法	15
第2節 調査経過	15
第3節 整理作業の方法	16
第4節 整理作業の経過	18
第4章 遺構と遺物	21
第1節 旧石器時代	21
1. 遺構	21
(1) 土坑	21
2. 遺物	23
(1) 石器	23
第2節 縄文時代	24
1. 遺構	25
(1) 壁穴住居	25
(2) 集石土坑	28
(3) 陥し穴	34
(4) 土坑	37
(5) 小穴	39
2. 遺物	46
(1) 縄文土器	46
(2) 石器	50
第3節 奈良・平安時代	74
第4節 中世以降	76
1. 遺構	77
(1) 溝状遺構	77
(2) 土坑	90
(3) 不明遺構	92
(4) 小穴	97
2. その他の遺物	99
第5章 総括	101
引用・参考文献	103
写真図版	
報告書抄録	
奥付	

挿図目次

第 1 図 試掘トレンチ配置図（第9次調査）	2	第 37 図 石器石質別分布図	55
第 2 図 調査地点位置図	4	第 38 図 磨石質別分布図	56
第 3 図 調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地	5	第 39 図 道構外出土遺物（1）	57
第 4 図 羽根足遺跡・恋ヶ窪遺跡・恋ヶ窪東遺跡における既往の発掘調査状況	7	第 40 図 道構外出土遺物（2）	58
第 5 図 周辺地形	11	第 41 図 道構外出土遺物（3）	59
第 6 図 基本順序（5区-28号トレンチ北壁）	12	第 42 図 道構外出土遺物（4）	60
第 7 図 調査区設定図および上層堆積確認地点	13	第 43 図 道構外出土遺物（5）	61
第 8 図 上層堆積状況	14	第 44 図 道構外出土遺物（6）	62
第 9 図 道構配図図（全時代）	19	第 45 図 道構外出土遺物（7）	63
第 10 図 S K 8 P 土坑	21	第 46 図 道構外出土遺物（8）	64
第 11 図 旧石器時代道構・遺物分布図	22	第 47 図 道構外出土遺物（9）	65
第 12 図 旧石器時代出土遺物	23	第 48 図 道構外出土遺物（10）	66
第 13 図 磐文時代道構分布図	24	第 49 図 道構外出土遺物（11）	67
第 14 図 S I I J 住居	25	第 50 図 道構外出土遺物（12）	68
第 15 図 S I I J 住居小穴・炉	26	第 51 図 泰良・平安時代道構外出土遺物	74
第 16 図 S I I J 住居遺物分布図	26	第 52 図 泰良・平安時代遺物分布図	75
第 17 図 S I I J 住居出土遺物	27	第 53 図 中世以降道構配図図	76
第 18 図 S S 1 集石土坑	30	第 54 図 S D 1・2・5・6溝状道構	79
第 19 図 S S 2 集石土坑（1）	31	第 55 国 S D 11～15溝状道構	81
第 20 国 S S 2 集石土坑（2）	32	第 56 国 S D 5溝状道構出土遺物	83
第 21 国 S S 3・4集石土坑（1）	33	第 57 国 S D 5溝状道構出土遺物	83
第 22 国 S S 3・4集石土坑（2）	34	第 58 国 S D 11溝状道構出土遺物	84
第 23 国 S K 3 J 陥穴	35	第 59 国 S D 3・4溝状道構	85
第 24 国 S K 4 J 陥穴	36	第 60 国 S D 7・8溝状道構	86
第 25 国 S K 6 J 陥穴	36	第 61 国 S D 9・10溝状道構	87
第 26 国 S K 1 J・2 J・10 J・12 J・14 J 土坑	38	第 62 国 S D 16～19溝状道構	89
第 27 国 S K 12 J 土坑出土遺物	39	第 63 国 S D 20・21溝状道構	90
第 28 国 P J - 1～3・24～40 小穴	40	第 64 国 S K 7・9・13 土坑	91
第 29 国 P J - 41～47・54～71 小穴	41	第 65 国 S X 1 不明道構	93
第 30 国 P J - 72～96 小穴	42	第 66 国 S X 1 不明道構出土遺物（1）	94
第 31 国 P J - 97・98・100～113 小穴	43	第 67 国 S X 1 不明道構出土遺物（2）	95
第 32 国 小穴出土遺物	44	第 68 国 S X 2 不明道構	96
第 33 国 磐文時代遺物分布図	47	第 69 国 S X 2 不明道構出土遺物	97
第 34 国 前期土器分布図	49	第 70 国 P 4～23・48～51・53・99 小穴	98
第 35 国 中期土器分布図	51	第 71 国 近代以降道構外出土遺物	99
第 36 国 石器種別分布図	54	第 72 国 中世以降道構分布図	100

表目次

第 1 表	周辺道路一覧表	6	第 17 表	遺構外出土甕文土器觀察表(1)	68
第 2 表	羽根沢道路(国分寺市 No. 5) 調査履歴表(昭和 52 年~平成 29 年度)	8	第 18 表	遺構外出土甕文土器觀察表(2)	69
第 3 表	恋ヶ窓東道路(国分寺市 No.57) 調査履歴表(昭和 52 年~平成 28 年度)	8	第 19 表	遺構外出土甕文土器觀察表(3)	70
第 4 表	恋ヶ窓道路(国分寺市 No. 2) 調査履歴表(昭和 49 年~平成 29 年度)	9	第 20 表	遺構外出土甕文土器觀察表(4)	71
第 5 表	恋ヶ窓南道路(国分寺市 No. 3)・ 花沢道路(国分寺市 No. 8)・ 武藏國分寺跡(国分寺市 No.19) 調査履歴表	10	第 21 表	遺構外出土甕文土器觀察表(5)	72
第 6 表	旧石器時代石器觀察表	23	第 22 表	遺構外出土上石器觀察表	72
第 7 表	S I I J 住居出土甕文土器觀察表	27	第 23 表	遺構外出土石器觀察表(1)	73
第 8 表	S I I J 住居出土石器觀察表	27	第 24 表	遺構外出土石器觀察表(2)	74
第 9 表	出土標石真一覧表	28	第 25 表	遺構外出土上器觀察表	74
第 10 表	出土遺存度一覧表	29	第 26 表	S D 1 構造遺構出土甕文土器觀察表	83
第 11 表	出土礫被熱度一覧表	29	第 27 表	S D 1 構造遺構出土石器觀察表	83
第 12 表	出土礫付着他物一覧表	29	第 28 表	S D 5 構造遺構出土瓦器觀察表	83
第 13 表	S K 12 J 土坑出土甕文土器觀察表	39	第 29 表	S D 11 構造遺構出土上製品觀察表	84
第 14 表	小穴出土上器觀察表	44	第 30 表	S D 11 構造遺構出土陶器觀察表	84
第 15 表	甕文時代小穴一覧表(1)	44	第 31 表	S X 1 不明遺構出土甕文土器觀察表	95
第 16 表	甕文時代小穴一覧表(2)	45	第 32 表	S X 1 不明遺構出土陶器觀察表	95
			第 33 表	S X 1 不明遺構出土上石器觀察表	96
			第 34 表	S X 2 不明遺構出土甕文土器觀察表	97
			第 35 表	S X 2 不明遺構出土鐵製品觀察表	97
			第 36 表	中世以降小穴一覧表	97
			第 37 表	遺構外出土遺物觀察表	99

写真図版目次

1-1	調査区俯瞰(上が北)	6-1	S S 1・2 集石土坑檢出状況(西から)
2-1	調査区遠景(南から)	6-2	S S 1・2 集石土坑完掘状況(西から)
2-2	調査区遠景(北西から)	6-3	S S 1 集石土坑檢出状況(西から)
3-1	1 区北側全貌(北から)	6-4	S S 1 集石土坑上削断面(北から)
3-2	1 区南側全貌(北から)	6-5	S S 2 集石土坑檢出状況(東から)
3-3	2 区奈良・平安確認面全貌(東から)	6-6	S S 2 集石土坑上削断面(東から)
3-4	2 区甕文確認面全貌(東から)	6-7	S S 3・4 集石土坑檢出状況(東から)
3-5	3 区奈良・平安確認面全貌(北から)	6-8	S S 3・4 集石土坑完掘状況(東から)
3-6	3 区甕文確認面全貌(北西から)	7-1	S S 3 集石土坑檢出状況(東から)
3-7	3 区田石器調査完了全貌(北西から)	7-2	S S 3 集石土坑上削断面(東から)
3-8	4 区奈良・平安確認面全貌(南西から)	7-3	S S 4 集石土坑檢出状況(東から)
4-1	4 区甕文確認面全貌(南西から)	7-4	S S 4 集石土坑上削断面(東から)
4-2	4 区旧石器調査完了全貌(南西から)	7-5	S K 3 丁階し穴完掘状況(北から)
4-3	5 区-14 トレンチ全貌(北から)	7-6	S K 3 丁階し穴上削断面(北から)
4-4	6 区遺構検出状況(西から)	7-7	S K 4 丁階し穴完掘状況(北から)
4-5	基本層序 5 区-26 トレンチ北壁(南から)	7-8	S K 4 丁階し穴上削断面(北東から)
4-6	S K 8 P 土坑完掘状況(南から)	8-1	S K 6 丁階し穴完掘状況(東から)
4-7	No. 1 (ナイフ形石器) 出土状況(西から)	8-2	S K 6 丁階し穴上削断面(南から)
4-8	No. 1 (ナイフ形石器) 出土状況近景(西から)	8-3	S K 1 J 土坑完掘状況(北から)
5-1	S I I J 住居完掘状況(東から)	8-4	S K 1 J 土坑上削断面(北から)
5-2	S I I J 住居土削断面 A (東から)	8-5	S K 2 J 土坑遺物出土状況(北から)
5-3	S I I J 住居土削断面 B (南から)	8-6	S K 2 J 土坑完掘状況(北から)
5-4	S I I J 住居 P-1 完掘状況(北から)	8-7	S K 2 J 土坑上削断面(北から)
5-5	S I I J 住居 P-2 完掘状況(北から)	8-8	S K 10 J 土坑完掘状況(南から)
5-6	S I I J 住居 P-3 完掘状況(西から)	9-1	S K 10 J 土坑上削断面(南から)
5-7	S I I J 住居炉完掘状況(北から)	9-2	S K 11 J 土坑完掘状況(南から)
5-8	S I I J 住居炉上削断面(北から)	9-3	S K 11 J 土坑上削断面(南から)

9 - 4	S K 12 J 土坑完掘状況（東から）	14 - 7	S D 20・21 溝状遺構（5区～48）完掘状況（東から）
9 - 5	S K 12 J 土坑上層断面（南から）	14 - 8	S D 20・21 溝状遺構上層断面B（南から）
9 - 6	S K 12 J 土坑遺物出土状況（南から）	15 - 1	S K 7 土坑完掘状況（西から）
9 - 7	S K 14 J 土坑完掘状況（南から）	15 - 2	S K 7 土坑遺物出土状況（西から）
9 - 8	S K 14 J 土坑上層断面（南から）	15 - 3	S K 9 土坑完掘状況（西から）
10 - 1	4区包含層No. 1出土状況（東から）	15 - 4	S K 9 土坑上層断面（東から）
10 - 2	1区包含層遺物出土状況（西から）	15 - 5	S K 13 土坑完掘状況（東から）
10 - 3	1区包含層出土状況（北から）	15 - 6	S K 13 土坑上層断面（東から）
10 - 4	3区包含層No.107出土状況（東から）	15 - 7	S X 1 不明遺構上部完掘状況（東から）
10 - 5	3区包含層No.113・114出土状況（東から）	15 - 8	S X 1 不明遺構上部断面（東から）
10 - 6	3区包含層No.113出土状況（南から）	16 - 1	S X 1 不明遺構下部断面（東から）
10 - 7	3区包含層No.114出土状況（東から）	16 - 2	S X 1 不明遺構下部完掘状況（西から）
10 - 8	1区包含層No.117出土状況（南から）	16 - 3	S X 1 不明遺構東壁近景（西から）
11 - 1	S D 1 溝状遺構北側完掘状況（南から）	16 - 4	S X 2 不明遺構完掘状況（東から）
11 - 2	S D 1 溝状遺構中央完掘状況（南から）	16 - 5	S X 2 不明遺構P-1・2完掘状況（東から）
11 - 3	S D 1 南側・5・6溝状遺構・ S X 1 不明遺構完掘状況（西から）	16 - 6	S X 2 不明遺構北側階段状臺り出し（南から）
11 - 4	S D 2 溝状遺構完掘状況（東から）	16 - 7	作業風景
11 - 5	S D 5 溝状遺構遺物（E）出土状況（東から）	16 - 8	作業風景
11 - 6	S D 1・2溝状遺構上層断面C（南から）	17 - 1	旧石器時代出土遺物
11 - 7	S D 5 溝状遺構上層断面F（西から）	17 - 2	S I 1 J 住居出土遺物
11 - 8	S D 6 溝状遺構上層断面F（西から）	17 - 3	S K 12 J 土坑出土遺物
12 - 1	S D 11～15溝状遺構完掘状況（北西から）	17 - 4	小穴出土遺物
12 - 2	S D 11溝状遺構完掘状況（北から）	18 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（1）
12 - 3	S D 12溝状遺構完掘状況（南から）	19 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（2）
12 - 4	S D 11・12溝状遺構上層断面B（南から）	20 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（3）
12 - 5	S D 13～15溝状遺構完掘状況（北東から）	21 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（4）
12 - 6	S D 13～15溝状遺構完掘状況（南から）	22 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（5）
12 - 7	S D 13・15溝状遺構上層断面D（東から）	23 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（6）
12 - 8	S D 14溝状遺構上層断面C（南から）	24 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（7）
13 - 1	S D 3・4溝状遺構完掘状況（南から）	25 - 1	縄文時代遺構外出土遺物（8）
13 - 2	S D 3・4溝状遺構上層断面B（北から）	25 - 2	奈良・平安時代遺構外出土遺物
13 - 3	S D 7・8溝状遺構完掘状況（西から）	25 - 3	S D 1 溝状遺構出土遺物
13 - 4	S D 7溝状遺構上層断面（東から）	25 - 4	S D 5 溝状遺構出土遺物
13 - 5	S D 8溝状遺構上層断面（南から）	25 - 5	S D 11 溝状遺構出土遺物
13 - 6	S D 9溝状遺構完掘状況（東から）	25 - 6	S X 1 不明遺構出土遺物（1）
13 - 7	S D 9溝状遺構上層断面（東から）	26 - 1	S X 1 不明遺構出土遺物（2）
13 - 8	S D 10溝状遺構完掘状況（東から）	26 - 2	S X 2 不明遺構出土遺物
14 - 1	S D 10溝状遺構上層断面（西から）	26 - 3	近代以前遺構外出土遺物
14 - 2	S D 16溝状遺構完掘状況（南から）	27 - 1	S D 1 溝状遺構出土遺物
14 - 3	S D 17溝状遺構完掘状況（北から）	27 - 2	S D 5 溝状遺構出土遺物
14 - 4	S D 18溝状遺構完掘状況（南から）	27 - 3	S D 13 溝状遺構出土遺物
14 - 5	S D 19溝状遺構完掘状況（北から）	27 - 4	S K 7 土坑出土遺物
14 - 6	S D 20溝状遺構（5区～44）完掘状況（南から）	27 - 5	S K 9 土坑出土遺物
		27 - 6	表土出土遺物（近世以降）

第1章 調査に至る経緯と経過

株式会社日立製作所中央研究所（以下日立中研）は東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目に所在し、三方を野川の開析谷に囲まれた野川源流域の舌状台地上に位置する。その敷地の大部分が旧石器時代から縄文時代・中世の遺跡として周知されている国分寺市No.2恋ヶ窪遺跡、No.5羽根沢遺跡の範囲に含まれる。野川の源泉を崖下に臨み、水利に恵まれた集落を営むに優れた当地周辺では、既往の調査で縄文時代中期を中心とする竪穴住居・土坑等の遺構・遺物が数多く出土している。

こうした環境にある日立中研内、「（仮称）日立製作所中央研究所新棟計画」工事が実施されることとなった。これに伴い、平成28年3月10・24日に国分寺市教育委員会（以下市教委）・日立中研・株式会社日立建築設計・株式会社大林組（以下大林組）が協議を行い、はじめに試掘調査を実施し、その結果により本調査を実施するかを判断する旨合意した。これにより日立中研から都教委宛に文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され（平成28年4月15日付国教教ふ取第31号）、市教委は4月19日付で工事に先立ち事前調査が必要な旨を明記した埋蔵文化財協議書を施工者の大林組に送付するとともに4月20日付で都教委へ同内容の意見を付して届出を進達し、4月26日付で都教委から事前に発掘調査をおこなう旨通知（28教地管理第244号通知）が日立中研及び市教委に返送された。日立中研と市教委は、平成28年5月27日付で「（仮称）日立製作所中央研究所新棟計画」工事に伴う埋蔵文化財の取り扱い（試掘調査）に関する協定書を締結し、これに基づき市教委が羽根沢遺跡第9次調査（K 5～9次調査）として試掘調査を実施した。調査期間は平成28年5月30日から同年6月15日まで、調査面積は304.5m²である。

試掘調査終了後は、7月7日付で市教委から小金井警察署宛に埋蔵物の発見届を提出し、東京都教育委員会（以下都教委）宛には埋蔵文化財保管証（国教教ふ第74号）の進達を行ない、7月27日付で都教委からは小金井警察署・市教委へ埋蔵物の文化財認定通知（28教地管理第244号の3、28国教教ふ取第430号）が送付された。

試掘調査の結果、歴史時代の溝状遺構、縄文時代の土坑・小穴、縄文土器等が出土したため、市教委と日立中研が協議し日立中研の費用負担による本発掘調査を実施することとなった。調査は日立中研が共和開発株式会社（以下共和開発）に委託して行なうこととし、共和開発が平成28年7月1日付で文化財保護法第92条に基づく埋蔵文化財発掘調査届出を都教委に提出し、それに対し都教委からは平成28年7月13日付で通知（28教地管理第244号の2）が返送された。

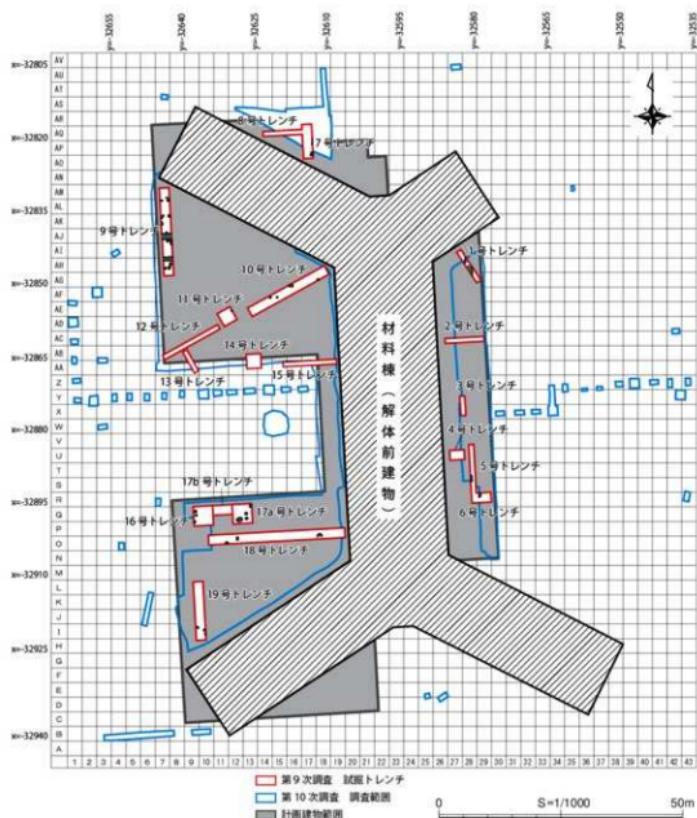
併せて日立中研・市教委・共和開発間で三者協定（平成28年7月1日付「（仮称）日立製作所中央研究所新棟計画」工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書）を締結し、市教委が発掘調査にかかる指示・指導を行なうこととした。本発掘調査の調査次数は羽根沢遺跡第10次調査（K 5～10次調査）とし、調査期間は大林組の工事の進行に合わせ、平成28年8月1日から平成28年8月31日と、平成29年2月1日から平成29年4月27日までの2期に分割して設定した。調査対象面積は2,647.75m²、調査面積は2,512.4m²である。

調査期間中は市教委職員が適宜現地を視察・確認し、設計・施工計画に変更等が発生した部分については隨時、日立中研・市教委・大林組・共和開発の四者で協議・調整を行ないつつ調査を進め、平成29年4月26日に現場作業を終了し、4月27日までに撤収作業をすべて終了した。

調査終了後は、5月8日付で共和開発から小金井警察署宛に埋蔵物の発見届、都教委宛に埋蔵文化財保管証を提出し、7月27日付で都教委からは小金井警察署・市教委へ埋蔵物の文化財認定通知（28教地管理第244号の3）が送付された。

また、9月6日に株式会社日立製作所中央研究所から国分寺市まちづくり条例第43条第1項に基づく事前協議書が提出され、同日付で同条例第43条第3項に基づき文化財保護法第93条に基づく都教委へ

の届出が必要であり、都教委からの指示に従う旨市から指示をしている。なお、前述の通り事前協議書提出時には都教委への届出は提出されており、都教委からの指示も通知済みである。（島田智博）



第1図 試掘トレンチ配置図（第9次調査）

第2章 調査地区の概観

第1節 遺跡の立地と地理的環境

今回の調査地点は国分寺市東恋ヶ窪一丁目280番に所在する株式会社日立製作所中央研究所の構内に位置し、羽根沢遺跡（国分寺市No.5遺跡）の中央西部に相当する（第3図）。ただし、調査区3区の南西端及び4区の西半部は隣接する恋ヶ窪遺跡に含まれる。

羽根沢遺跡は、関東南部の扇状台地である武藏野台地の南部を東流する野川の水源域に広がる遺跡群のひとつである。武藏野台地は関東西部の山地より東京湾に向かって東に緩やかに傾斜する、東西50km、南北40kmに及ぶ広大な台地である。その中央部から東方には湧水を集めた河川によって4万年以上前に開析された谷地形が数多く見られるが、特に南部では古多摩川の大規模な浸食によつて「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線が形成され、これを境に武藏野段丘と立川段丘が成立した。両段丘の比高差はその後に火山灰等の土壤堆積も追加され、現在10～20mに至っている。

この崖線に沿って湧水を集めて東流するのが多摩川の支流のひとつ、野川である。野川の源流は日立中央研究所の構内で、東側を南北に走る「さんや谷」と西方に伸びる「恋ヶ窪谷」の二股に分かれると、羽根沢遺跡は両者に挟まれた東西約600m、南北約400m、標高約76.5mの台地上（恋ヶ窪面）に位置する（第5図）。

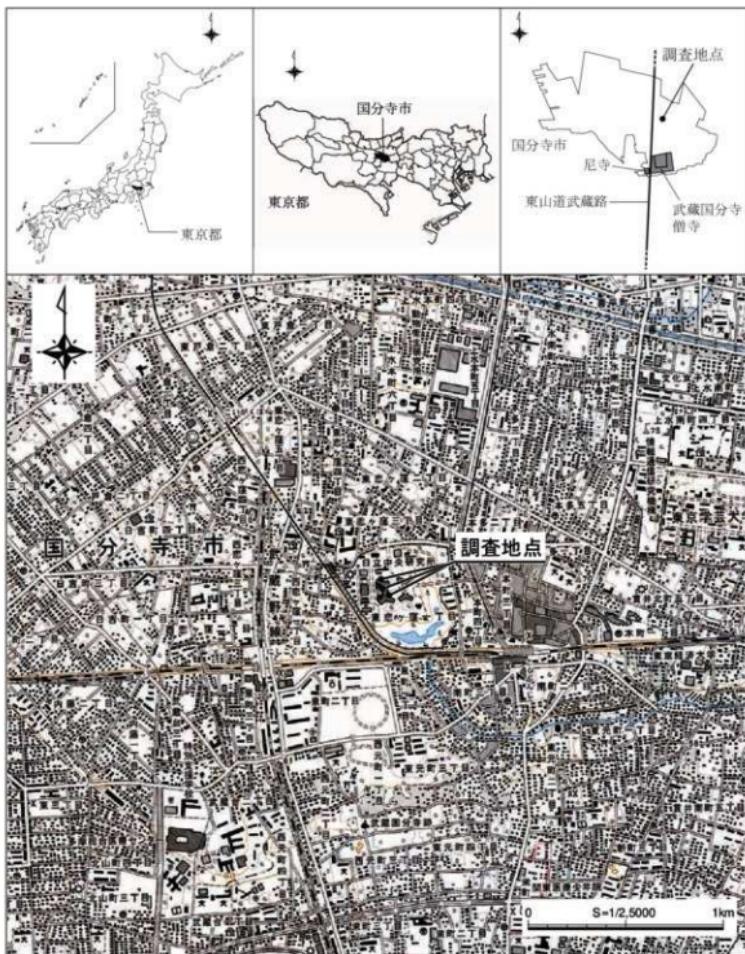
今回の調査範囲は恋ヶ窪谷から北へ約100m、さんや谷から西へ約150m入った平坦地で、現地表面では東西に傾斜はなく、南に向かってわずかに下る傾斜を見せる。ちなみに立川ローム第IV層上面で比較すると、南北の傾斜はより大きく、また東のさんや谷へ若干下る傾斜も確認できる（第8図）。

第2節 周辺の遺跡

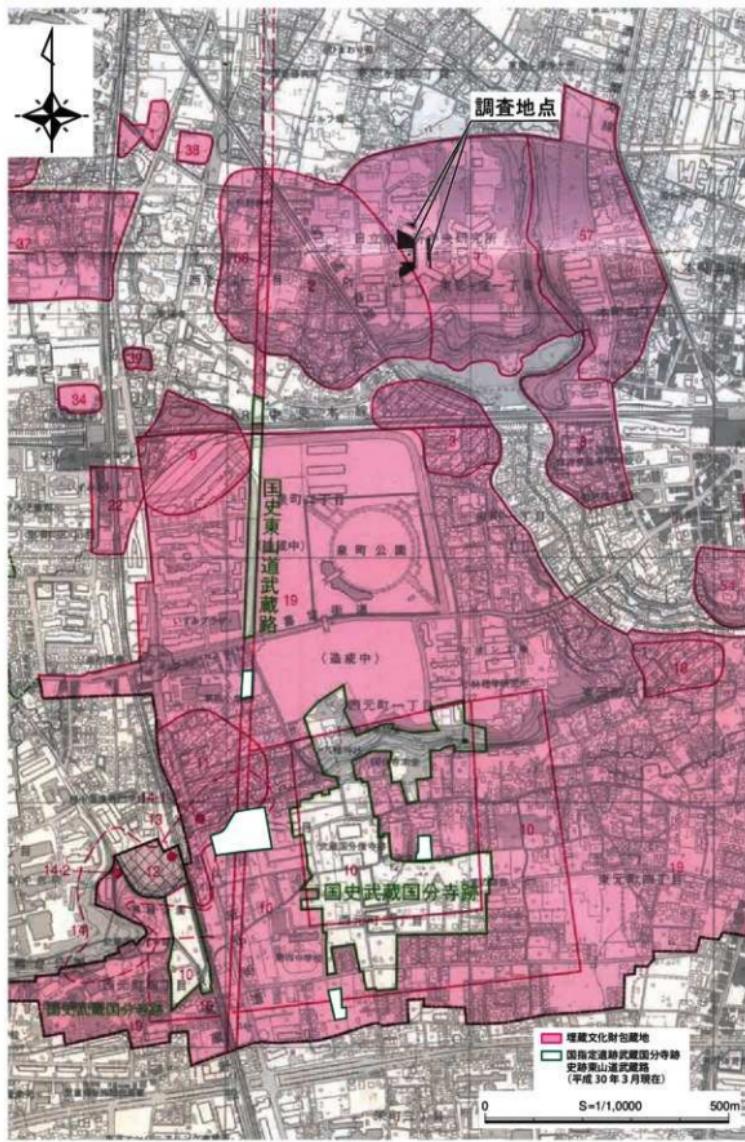
古くより水資源に恵まれたこの地域は動物や人間を惹き付け、その結果、周辺に数多くの遺跡が遺された。水以外にも多摩川起源の円礫や砂、粘土等の資源が谷底より豊富に得られることから、特に旧石器時代から縄文時代にかけた生活址が累積している。とりわけ縄文中期の集落址が広範かつ濃厚に分布しており、当該地域の先史時代遺跡では顕著な特徴と言えよう。

羽根沢遺跡と同じ恋ヶ窪面には、非公式ながら本邦初の旧石器発見地である熊ノ郷遺跡や縄文中期集落群の恋ヶ窪遺跡がある。さんや谷を東に越えた「本多面」台地にも恋ヶ窪東や花沢西・花沢東などの遺跡があり、特に恋ヶ窪東遺跡は縄文早期から後期にかけて長期にわたり営まれた大集落である。平成27年にはその南側で、大量の尖頭器を製造した旧石器時代の生活址も発見された（林他 2017）。また、恋ヶ窪谷の南に展開する「内藤面」台地にも日影山、恋ヶ窪南、多喜窪など、旧石器時代から縄文時代にわたる遺跡が濃密に分布する。

更に、奈良時代には立川段丘面に市名の由来でもある武藏国分寺が創建され、東山道武藏路を含む奈良時代から平安時代にわたる広域の遺跡群が崖線の上下に遺されている。それ以降の遺跡はあまり顕著には見られないが、今回の調査結果のように中世や近世以降の活動痕跡も少量ながら散見される。



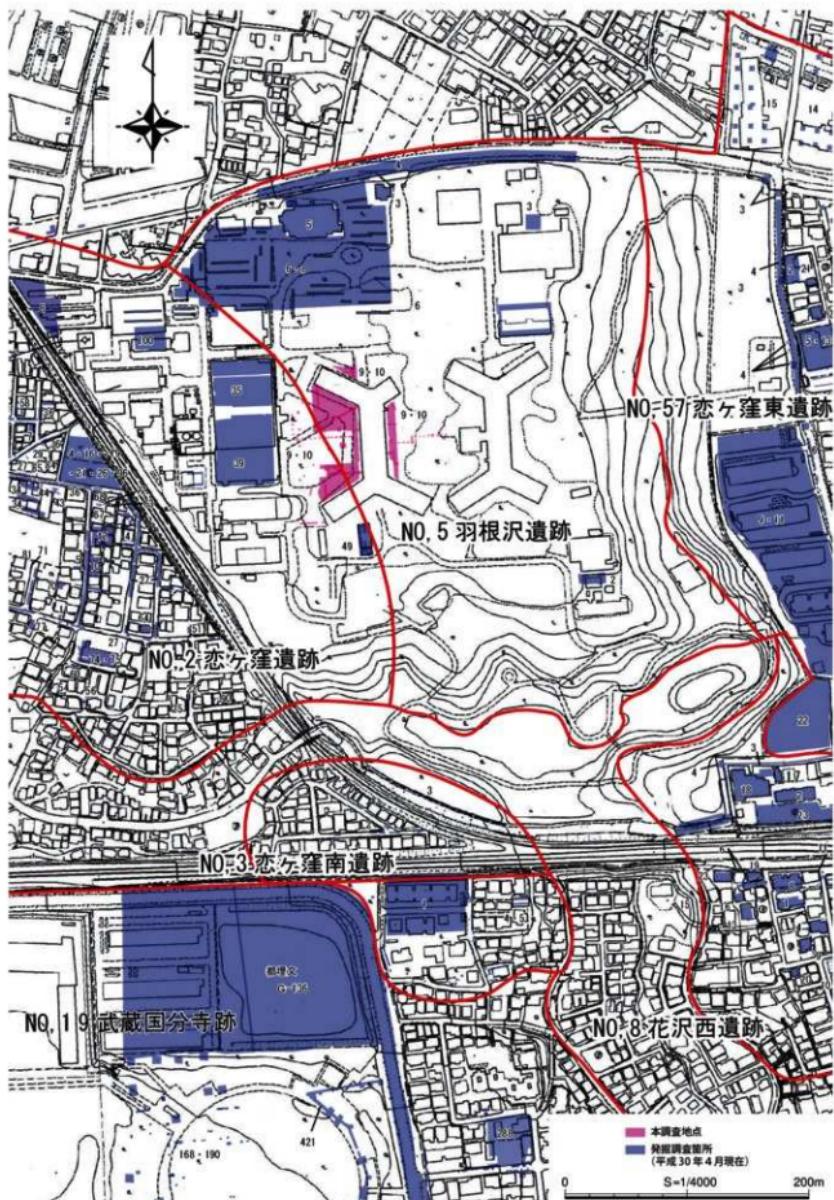
第2図 調査地点位置図



第3図 調査地点と周辺の埋蔵文化財包蔵地

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	所在地	時代
1	熊ノ郷道路	集落跡	西恋ヶ窪三丁目 19 西恋ヶ窪四丁目 1・6・7付近	旧石器・縄文
2	恋ヶ窪道路	集落跡	西恋ヶ窪一丁目 3・10～27、28～30・47 東恋ヶ窪一丁目付近、三丁目 20・21	旧石器・縄文（早・中・後）・中世
3	恋ヶ窪南道路	集落跡	恋ヶ窪一丁目 1～3・5・51、東恋ヶ窪一丁目 泉町一丁目 18・20～22、二丁目 7付近	旧石器・縄文（早・中）
5	羽根沢道路	集落跡	東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文（早・中）
8	花沢西道路	集落跡	南町三丁目 24・26～30 本町四丁目 2～6 泉町一丁目 14 東恋ヶ窪一丁目付近	旧石器・縄文・弥生
9	日影山道路	散布地	泉町二丁目 9 西恋ヶ窪一丁目 8・34・35付近	旧石器・縄文（中）・奈良・平安
10	武藏国分寺跡（僧尼寺）	寺院跡	西元町一丁目 1・2・13～15 西元町二丁目 1～7・11～14 西元町三丁目 2～28 西元町四丁目 1～5・9～11 東元町三丁目 9・18～20 東元町四丁目 6～10・19・20付近	奈良・平安
11	多喜窪道路	集落跡	西元町二丁目 7～16 西元町四丁目 10～12付近	縄文（中）・旧石器
12	伝祥応寺跡	寺院跡	西元町四丁目 12付近	歴史
13		塚	西元町四丁目 11付近	歴史
14	多喜窪横穴墓群	横穴墓	西元町二丁目 8～11付近～1号墓 西元町四丁目 10付近～2号墓	奈良
18	八幡前道路	散布地	東元町三丁目 13・14～16・24・25付近	縄文（中・後）
19	武藏国分寺跡	集落跡・道路跡	東元町三丁目 1～25・31・33・34 東元町四丁目 西元町一丁目～四丁目 泉町一丁目 11～18～21 泉町二丁目、三丁目 3・16付近 西恋ヶ窪一丁目 8	旧石器・縄文・奈良・平安・中世・近世
22	恋ヶ窪魔寺跡	寺院跡	泉町三丁目 17・27・30～33・35・36付近	縄文・平安～室町
37		散布地	西恋ヶ窪三丁目 1～3・5～18付近	旧石器・縄文・奈良・平安
38		散布地	西恋ヶ窪一丁目 49付近	縄文・奈良・平安
52		散布地	西恋ヶ窪三丁目 26～31・33～36 日吉町四丁目 12～13付近	旧石器
54	花沢東道路	集落跡	南町二丁目 14～16・18 南町三丁目 1・7～9付近	旧石器・縄文
57	恋ヶ窪東道路	集落跡	本町四丁目 4～11・14～25 東恋ヶ窪一丁目、二丁目 1・2付近	旧石器・縄文（草～後）
58	東山道武蔵路	道路跡	西恋ヶ窪一丁目 8・9・15～18・24・25・47 東恋ヶ窪三丁目 21	奈良・平安



第4図 羽根沢遺跡・恋ヶ窪遺跡・恋ヶ窪東遺跡における既往の発掘調査状況

第2表 羽根沢遺跡（国分寺市 No. 5）調査履歴表（昭和 52 年～平成 29 年度）

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m ²)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1		久番							
2	S61	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	170.9	SU3/S54/SK6/PJ64	広瀬	12	上村他 1992
3	S62	公共工事	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	204.5	SK1/PJ26	広瀬	1	未報告
4	S63	公共工事	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	210.9	SK1/PJ26	広瀬	1	未報告
5	H2	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	1037.1	PJ23	板倉	1	上村他 1992
6	H26	プラント	試掘	東恋ヶ窪 1 - 280	1480.0	SK28/P313 中世以降 SD22/SK1	共和開発	1	未報告
7	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	411.0	SK2	増井	1	増井・坂田 2017
8	H27	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	1374.4	ST7/SK1/S06/S9/SKJ83/PJ452 中世以降 SD29/SA1/SK15	共和開発	29	報告書作成中
9	H28	プラント	試掘	東恋ヶ窪 1 - 280	304.5	SK4/SD4/P29	共和開発	1	本報告書
10	H28	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	2512.4	SKP1/SJ11/SKJ9/S54/PJ86 中世以降 SK3/SD21/SX2/P26	共和開発 林	43	本報告書

第3表 恋ヶ窪東遺跡（国分寺市 No.57）調査履歴表（昭和 52 年～平成 28 年度）

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m ²)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
2	S59	公共下水道 中部 5 号幹線	本調査	本町 4	174.6	SI1/SKJ1	広瀬	1	上村他 1997
3	S60	公共下水道 中部 5 号幹線	本調査	本町 4	277.0	SKJ1	広瀬	1	上村他 1997
4	S62	電電地中線	本調査	本町 4 - 2810	12.1	SI1	広瀬	1	未報告
	S63	電電地中線	本調査	本町 4 - 2811	16.7	SU1/S53/P3	広瀬	5	未報告
5	H1	社員寮建設	本調査	本町 4 - 2874 - 3 + 8	836.2	SI2/S52/SKJ2/P73	広瀬	25	野野他 1990
6	H1	道路建設 (市道幹 6 号線)	本調査	本町 4 - 17 先	201.7	SI1/SU2/S51/SKJ4/P36	広瀬	4	未報告
9	H2 - 4	都営住宅	本調査	本町 4 - 17 ~ 19	5647.1	(11 次調査の頃夢現)	板倉	610	坂添他 2003
11	H6 ~ 8	都営住宅	本調査	本町 4 - 2810	6292.3	SB5/SI189/SU7/S561/SKJ341/ SKJ2 (P97) /SKJ4 (陽70) / SK35	上瀧	1406	坂添他 2003
13	H11	共同住宅	本調査	本町 2874 - 3 + 8	546.8	SKJ1/P40	上村	1	坂添他 2000
14	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪 2 - 1 - 1 他	271.5	P52	上村	1	未報告
15	H12	共同住宅	本調査	東恋ヶ窪 2 - 1 - 2 他	370.5	SS1/SKJ12/P120	上村	2	未報告
22	H26	集合住宅	本調査	本町 4 - 2820 - 1.2 4 - 2819 - 1.2.4 2819	2351.0	SS14/SK1/FP25/P118 / 歴史時代 SK1	共和開発 林	150	林他 2016

第4表 恋ヶ窪遺跡（国分寺市 No. 2）調査履歴表（昭和 49 年～平成 29 年度）

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m ²)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
4	S51	学術	確認調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 14 ~ 16	110.0	SI1/SK4	安孫子	11	永家他 1980
5	S52	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 19 - 10	20.0	SI3/SK1	安孫子	48	永家他 1980
7	S53	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 23 - 16	24.0	SI3	広瀬	3	永家他 1980
11	S54	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 19 - 2	16.0		広瀬	1	未報告
14	S55	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	366.0	SI8/SK1	広瀬	60	上敷賀他 1991-2008
16	S56	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	163.0	SI6	広瀬	28	上敷賀他 1991-2008
17	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	220.0	SI6/SX53	広瀬	40	上敷賀他 1991-2008
18	S57	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	220.0	SI8/SK4	広瀬	40	上敷賀他 1991-2008
19	S59	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	240.0	SI9/SK1	広瀬	65	上敷賀他 1991-2008
21	S60	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	243.5	SI9/SK2	広瀬	52	上敷賀他 1991-2008
22	S60	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 13	6.0	SI1	広瀬	4	吉田他 1996
25	S61	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 13 - 1	14.0	SI1	広瀬	2	未報告
26	S61	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22	222.0	SI6	広瀬	25	上敷賀他 1991-2008
27	H1	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 167 先	296.3	SI3/SK1/P15	広瀬	32	吉田他 1996
27	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 167 先	63.2	SI10/S54/SK8/P44	上村	10	吉田他 1996
27	S61	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 167 先	185.0	SI9/SU4/S52/SK16/P63	広瀬	9	吉田他 1996
27	S62	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 167 先	29.0	SI7/SK8/P98 歴史 SD1	広瀬	13	吉田他 1996
27	S63	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 - 167 先	206.7	SI1/P54	広瀬	33	吉田他 1996
29	S62	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 224 - 3	3.1	SI1	広瀬	2	未報告
34	H1	学術	本調査	西恋ヶ窪 1 - 18 - 9 ~ 11	216.0	SI10/S51/SK4	広瀬	21	未報告
36	H2	市下水道	試掘調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内			上村	1	吉田他 1997
36	H2	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	114.0	SI11/S51/SK1/P74 歴史 SK4	上村	18	吉田他 1997
36	H3	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	333.9	SI13/SK2/P8 歴史 SD3	上村	55	吉田他 1997
36	H4	市下水道	本調査	西恋ヶ窪 1 丁目地内	173.3	SI10/SK7/P39 歴史 SD1/SK1	上村	15	吉田他 1997
39	S57	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	1077.0		広瀬		星野他 1992
39	S58	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	2653.1	SI7/S51/SK17/P154	広瀬	43	星野他 1992
43	H4	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 18 - 9	21.3	P28	上村	3	未報告
44	H4	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 18 - 11-12	57.6	SI7/SK3/P3	上村	20	未報告
49	H5	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280	141.4	P9	上村	1	未報告
51	H6	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 21 - 4	4.0	SI1	上村	1	未報告
54	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 14 - 10-13-31	10.6		上村		未報告
56	H7	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 14 - 10-11	18.5	SK1/P1	上村	1	未報告
58	H7	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22 - 21	10.3		上村	1	未報告
60	H8	分譲住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 14 - 10-28	5.3	田石源輝一Ⅲ号	上村	1	未報告
63	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 48	0.7	P4	上村	1	未報告
64	H10	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 21 - 25	1.4		上村	1	未報告
67	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 54	2.7	SK1/P1	上村	1	未報告
68	H11	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 53	4.9	SK6/P2	上村	1	未報告
70	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 19 - 6.7.8	35.1	SI1/SK4/P7	上村	2	未報告
71	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 18 - 31.32	6.0	SK1/P2	上村	1	未報告
72	H12	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 47	3.4	SK1	上村	1	未報告
74	H13	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 14 - 9.33	34.0	P5 歴史 SD5	上村	1	未報告
75	H13	集合住宅	本調査	西恋ヶ窪 1 - 14 - 9.33	369.4	SS4/SK3/P51 歴史 SD1/SK3	上村	19	未報告
77	H16	道路工事	本調査	西恋ヶ窪 1 - 15 - 13.25	66.7	SK2 歴史 SD2	上村	1	未報告
81	H18	分譲住宅	確認調査	西恋ヶ窪 1 - 20 - 10	7.2	歴史 SD1/SK1/P3	立川	1	立川 2008
84	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22 - 15	10.0	P5 歴史 SD5	小野本	1	立川 2011
85	H21	個人宅造	本調査	西恋ヶ窪 1 - 22 - 18	2.3	SK1/P2	立川	1	立川 2011
90	H23	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1 - 1282 - 28	3.8		寺前	0	寺前他 2012
96	H27	分譲住宅	確認	西恋ヶ窪 1 - 22 - 2	21.1	PJ2	増井	1	増井他 2016
100	H29	プラント	本調査	東恋ヶ窪 1 - 280 地内	383.11	SI1/SK4/P1 歴史 SD1/SK3	鶴田	1	未報告

第5表 恋ヶ窪南遺跡（国分寺No.3）・花沢西遺跡（国分寺市No.8）・武藏国分寺跡（国分寺市No.19）調査履歴表

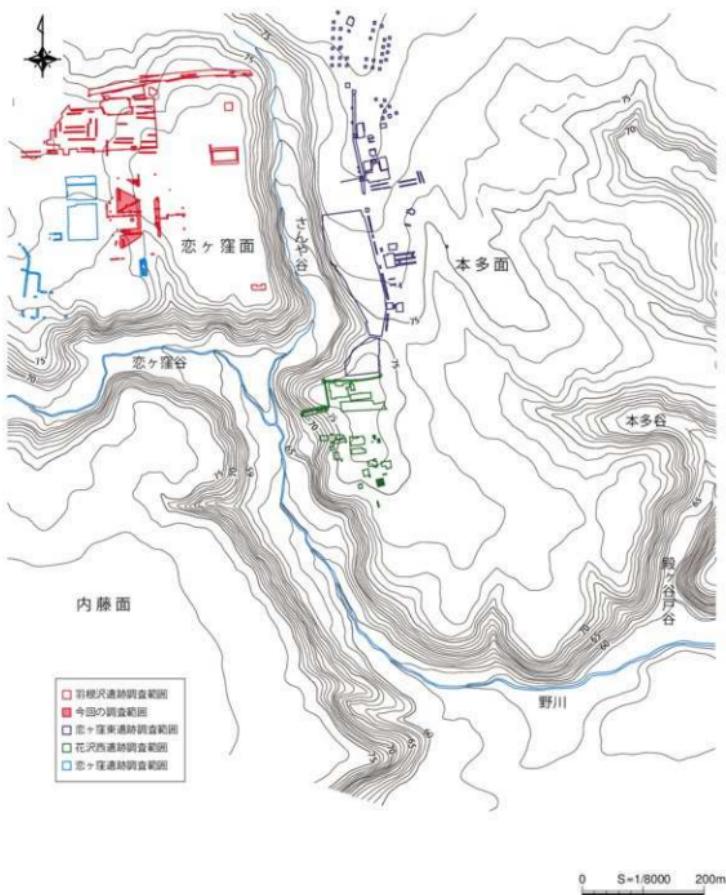
恋ヶ窪南遺跡（国分寺市No.3）調査履歴表								
次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数
1	SS9	公共工事	本調査	泉町1-2021	3240.00	S17/S54	広瀬	453 安孫子他 (1979)
2	SS0	市下水道	本調査	西恋ヶ窪1-1~2	187.50	S131/SS0/SK55	広瀬	9 上村 (1996)
3	SS0	公共工事	本調査	東恋ヶ窪1-1234	255.00	S51/SK1	広瀬	1 未報告
4	H19	個人宅造	確認調査	泉町1-2471-21	55.89	S51/SK3	立川	1 立川 (2009)
7	H19	個人宅造	本調査	泉町1-2471-21	57.20	S51/SK3	立川	2 立川 (2009)

花沢西遺跡（国分寺市No.8 遺跡）調査履歴表

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
1	SS2	共同住宅	本調査	南町3-29-7	200.0	ST2/SKJ5	安孫子 川崎	4 未報告	
2	SS2	共同住宅	本調査	本町4-3-17	335.0	S11/SU3/S51/SKJ3	広瀬	14 未報告	
3	SS2 ~ SS3	市道東29号線 配水管	本調査	本町4-3先	26.0	SKJ2	広瀬	1 未報告	
4	SS9	市下水道 本町4丁目 町原5号幹線	本調査	本町4-3先	20.0	SU1/S51	広瀬	2 吉田他 1997	
7	H3	市道東229号線 他1路線 既切道路工事	本調査	本町4丁目 既恋ヶ窪1丁目地内	323.0	SR3/SKJ7/P29	上村	15 未報告	
8	H7	ビル建設	本調査	南町3-2801-16(18.21)	317.2	ST1/SU1/SKJ4/P1	上村	4 未報告	
9	H8	個人宅造	本調査	南町3-2081-27	5.4	P2	上村	1 小野本 2012	
13	H13	個人宅造	本調査	南町3-30-1	4.9	無し	上村	0 立川 2010	
14	H14	個人宅造	本調査	南町3-29-19	6.0	無し	上村	- 小野本 2012	
16	H16	個人宅造	本調査	南町3-30-12	8.7	無し	上村	0 上戸園 2007	
17	H17	個人宅造	本調査	本町4-3-13	2.8	無し	上村	0 上戸園 2007	
18	H17	集合住宅	本調査	本町4-2803-1他	642.9	ST15/SR5/SKJ3/P23	上村	7 上戸園他 2007	
20	H19	個人宅造	本調査	南町3-26-25	1.8	無し	小野本	1 立川 2009	

武藏国分寺跡（国分寺市No.19）調査履歴表

次数	年度	原因	調査内容	所在地	調査面積 (m)	発見された主な遺構	担当者	遺物 箱数	文献
168	SS7	排水改良工事	試掘調査	泉町二丁目6-7(鉄道 学園内)	2,250	SD1	有吉	- 三木他 (1984)	
190	SS8	排水改良工事	本調査	泉町二丁目6-7	277	SB2/SI1/SX1/SD2	三木	4 三木他 (1984)	
288	S62	共同住宅建設	本調査	泉町一丁目2418- 2,7,9,12,13	1,290		三木	16 三木他 (1988)	
421	H8	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	2,419	SII/SD9	上村	32 上村他 (2006)	
G-136	H7	土地区画整理	本調査	泉町二丁目	54,800	石器集中部106/ 住居跡70/籠立柱建物1/ 道路跡7	東京都埋 蔵文化財 センター	172,641点 福嶋他 (2003)	

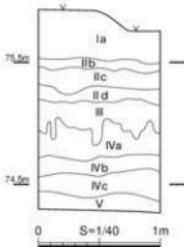


第5図 周辺地形

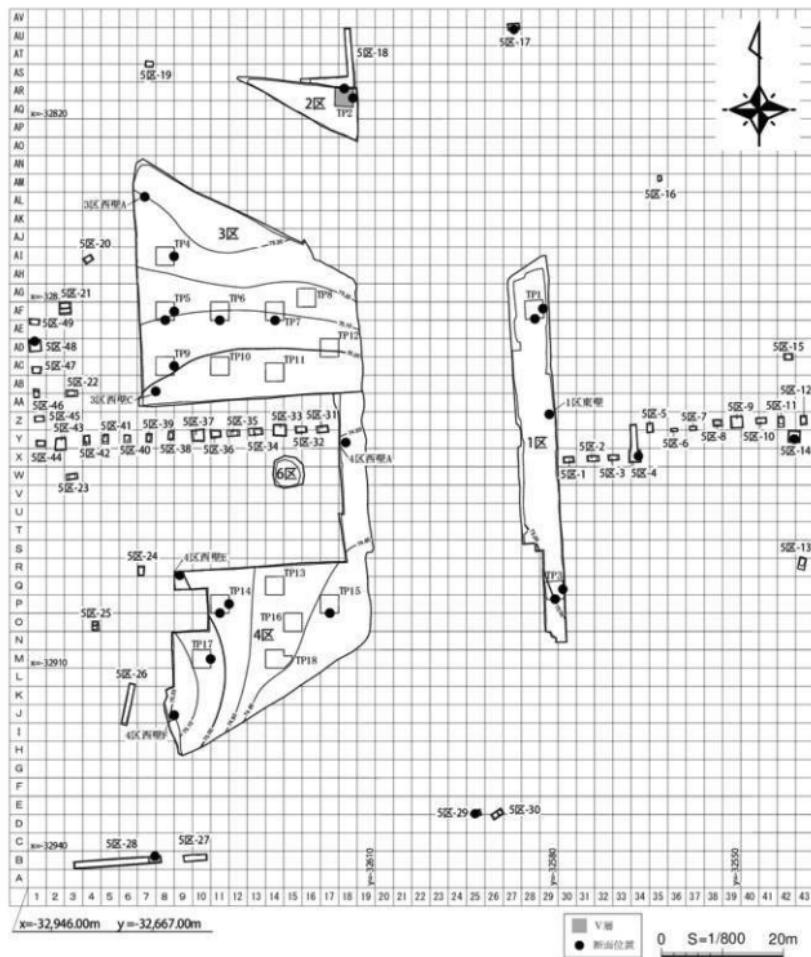
第3節 基本層序

調査範囲南西端に位置する5区-28号トレンチの北壁を基本層序とし、説明する（第6～8図、図版4-5）。尚、1区東壁・3区西壁等に見られるI b層と、4区北西端の西壁に見られるII a2層の説明も追加する。また、層名は武藏野台地の標準名を用いるが、国分寺市では異なる名称を用いるため、説明の中で併記する（坂詰他2003）。

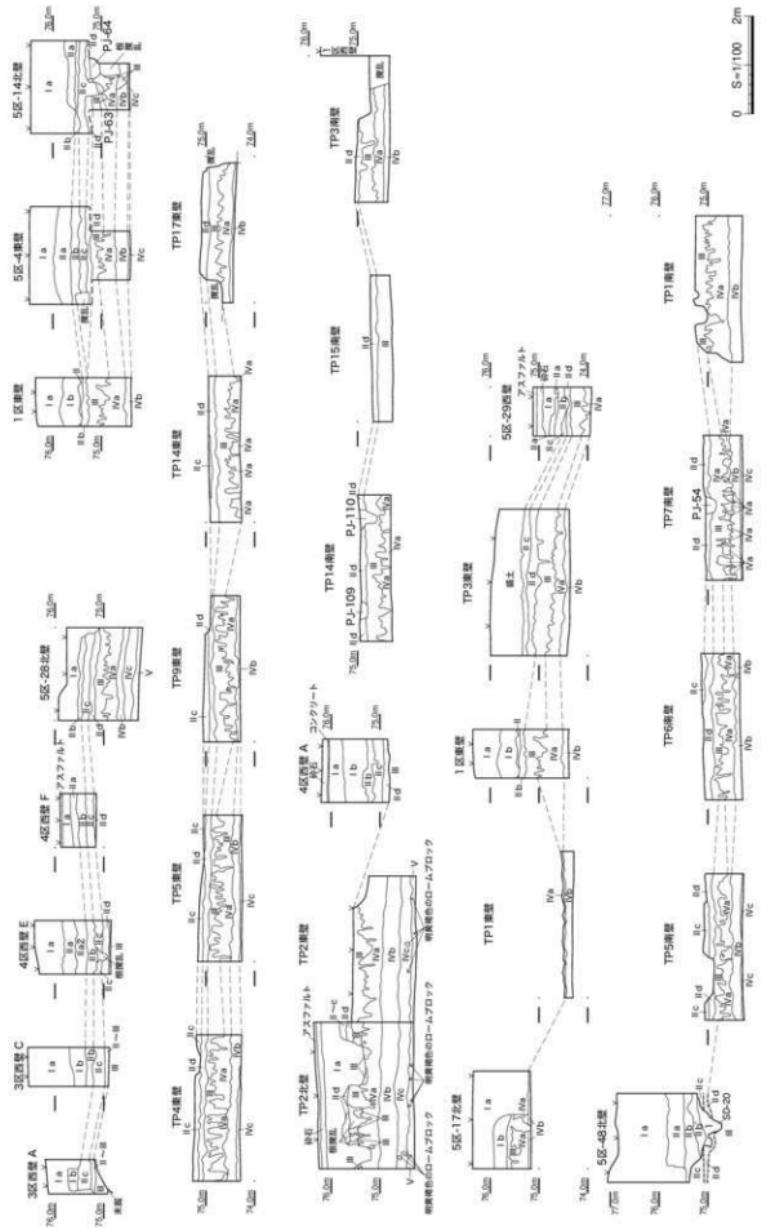
- 第I a層 黒褐色土（10YR2/2） 表土。擾乱もしくは盛土が多い。
- 第I b層 暗茶褐色土（10YR4/2） 大量の黒褐色土の細粒と若干の赤色スコリア・ローム細粒を含む。空隙多く締まり弱い。耕作土か。
- 第II a層 暗褐色土（10YR3/2） ローム細粒（1～5mm）が散在。締まり弱い。耕作土か。
- 第II a2層 暗褐色土（10YR3/2） II aと似るが、より細粒で締まりなし。よく耕された耕作土か。
- 第II b層 黒色土（10YR2/1） 色調は極めて黒く、粗粒（1～5mm）である。間隙多く締まり弱い。国分寺III a相当。
- 第II c層 暗褐色土（10YR2/3） 均質で下半部に少量の赤色スコリア細粒（1～5mm）を含む。概ね締まる。縄文時代遺物包含層。国分寺III b相当。
- 第II d層 暗褐色土（10YR4/3） 色むらあり、赤色スコリア細粒（1～5mm）が散在する。概ね締まる。第II～III層の漸移層。国分寺III c相当。
- 第III層 暗黄褐色土（10YR4/6） 上位に赤色スコリア細粒～粗粒（1～10mm）が大量に偏在する。締まりやや弱い。下層との境界はクラック状を呈す。立川ローム第III層に相当。所謂ソフトローム。国分寺IV相当。
- 第IV a層 黄褐色土（10YR5/6） 灰黄褐色のブロック（1～5cm）が散在。赤色・黒色スコリアの細粒（1～5mm）が偏在。立川ローム第IV層上部に相当。国分寺V a相当。
- 第IV b層 暗めの黄褐色土（10YR5/6） 赤色・黒色スコリアの細粒（1～5mm）が多く偏在。立川ローム第IV層中部に相当。国分寺V b相当。
- 第IV c層 黄褐色土（10YR5/6） 赤色・黒色スコリア（1～10mm）が偏在。黒色スコリアの粒径と量が上層より増す。上辺に赤色スコリア微粒（～1mm）の軽い濃集が見られる。立川ローム第IV層下部に相当。国分寺V c相当。
- 第V層 暗黄褐色土（10YR5/6） 混在するスコリアの様相はIV cと似るが、黒色スコリアの細～微粒が極めて多く、暗い色調を呈する。立川ローム第V層に相当。所謂第1黒色帶（BB 1）。国分寺VI相当。



第6図 基本層序（5区-28号トレンチ北壁）



第7図 調査区設定図および土層堆積確認地点



第8図 土層堆積状況

第3章 調査経過

第1節 調査方法

1. 発掘調査の工程

調査は日立中央研究所の材料棟の大掛かりな解体工事と共に進められたため、解体工程に従って東側の1区、北側の2区、西側の3・4区、さらに周辺地域の分布調査として5区の順で進めた。調査面積は2,512.4m²で、建設を予定している新棟の基礎掘削深度に相当する、地表面より平均1.5m程の深さまで掘り下げた。また旧石器時代の遺構・遺物の有無を確認するため、3m四方の試掘坑を18カ所設け、ローム層上面より平均1mの深さまで調査した（第7図）。

調査区のグリッドは公共座標x=32,946m、y=32,667を起点として東西に番号、南北にアルファベットを冠した3mメッシュを設定した。南北はアルファベットの枠を超えたため、Z以降はAA、AB・・・の複合表記とした（第7図）。

発掘作業は、まず表土を重機によって除去し、露出した遺物包含層を人力で掘り下げながら遺物の出土位置を記録し、遺構の探索を進めた。確認した遺構は半截して覆土の堆積状況を記録し、覆土を全掘してから完掘状態を記録した。遺構確認面及び調査終了面で全調査区の標高（センター）記録を実施し、また各調査区及びローム試掘坑の壁面で層序を記録した。最後に全景撮影を行ない、すべての作業を終了した。

2. 調査結果の記録方法

遺構平面図及び遺物の出土位置は光波測量器を用い、遺構断面及び壁面層序は手描きで記録した。写真記録はモノクロ・リバーサル・デジタルの3種によって隨時行ない、遺構・遺物・全景・作業状況等を記録した。集石等の図化を必要とする遺構については、複数の測点を設定して写真測量を行なった。またセスナによる航空撮影を有限会社KELEKに委託して行なった。

第2節 調査経過

遺構名は略号を用いる。凡例はiiページを参照。

平成28年（2016）

- 8月1日 1区調査範囲設定、器材準備、フェンス設置。北部から表土除去。S D 1溝状遺構検出。
- 8月8日 1区S D 1溝状行く継続調査。2区調査範囲設定、フェンス設置。東より表土除去。
- 8月9日 1区S D 1・2溝状遺構調査。2区S D 3・4溝状遺構検出。
- 8月10日 2区S D 3・4溝状遺構完掘。S K 1 J 土坑検出。
- 8月12日 1区S K 2 J 土坑検出。2区S K 1 J 土坑北半完掘。T P 2調査。
- 8月15日 S K 2 J 土坑完掘。T P 1調査。2区調査終了および埋め戻し。
- 8月17日 1区北部終了、埋め戻し。1区南部、南から表土除去。
- 8月19日 1区S X 1不明遺構検出。S D 1～6溝状遺構検出。
- 8月24日 1区S I 1 J 住居検出。T P 3調査。
- 8月25日 1区S X 1不明遺構、S D 1～6溝状遺構完掘。
- 8月26日 1区S I 1 J 住居炉調査。国分寺教育委員会視察。
- 8月29日 国分寺教育委員会立会。
- 8月30日 1区S I 1 J 住居完掘。
- 8月31日 1区S X 1不明遺構半截、記録。調査終了、埋め戻し。国分寺市教育委員会立会検査。

平成29年（2017）

- 2月1日 器材準備。
- 2月2日 3区調査範囲設定、表土除去開始。フェンス設置。
- 2月6日 3区SK3J陥し穴検出。歯状遺構検出。
- 2月7日 3区SS1・2集石土坑検出。
- 2月8日 3区SD7溝状遺構検出。
- 2月10日 3区表土除去終了。SD8溝状遺構検出。
- 2月13日 3区第II層清掃・記録。国分寺市教育委員会視察。
- 2月15日 3区第II層調査開始。SD7・8溝状遺構完掘。
- 2月21日 3区小穴群（P）調査。SK4J陥し穴検出。尖頭器出土。
- 2月24日 3区小穴群（P）調査。SK4J陥し穴完掘。SK6J陥し穴検出。
- 3月1日 3区小穴群（P）調査。SK6J陥し穴完掘。
- 3月2日 3区旧石器TP設定（3×3m、9カ所）。4区表土除去開始。
- 3月3日 3区縄文調査終了。旧石器調査（TP7・8）。4区表土除去。国分寺市教育委員会視察。
- 3月8日 3区旧石器調査（TP7・8）。4区表土除去終了。
- 3月13日 3区旧石器調査（TP7・8）。4区SK7土坑・SS3集石土坑・SX2不明遺構検出。
- 3月15日 3区旧石器調査（TP6・12）。4区帶部表土除去開始。
- 3月16日 3区旧石器調査（TP6・12）。4区帶部SD9・10溝状遺構検出、完掘。
- 3月22日 3区旧石器調査（TP4～6、9～12）。4区SS4集石土坑、SD13・15溝状遺構検出。
- 3月24日 3区旧石器調査（TP11・12、SK8P土坑）。4区全体清掃、記録。
- 3月29日 3区・4区全体清掃、空撮。3区北壁拡張（ほほ搅乱）。
- 3月30日 3区全体清掃、記録。4区遺構調査（SS3・4集石土坑・小穴）。国分寺市教育委員会視察。
- 4月3日 3区西壁拡張。PJ-61小穴検出。4区遺構調査（SS3・4集石土坑）。
- 4月5日 3区PJ-61小穴完掘。4区遺構調査。5区調査開始（5～9）。
- 4月7日 3区・4区継続。5区-5～11調査、SD16～18溝状遺構検出。
- 4月12日 4区遺構調査（SS3・4集石土坑完掘）。5区-14～16調査。
- 4月13日 4区遺構調査（PJ-99小穴・SK13土坑完掘）。5区-15・17調査。
- 4月15日 4区一括土器取上げ、完掘全景記録。5区-20・21調査。
- 4月17日 4区遺構調査（PJ-101～108小穴、SK14J土坑完掘）。旧石器調査（TP13～18）。5区-22・23調査。
- 4月19日 4区TP18の第IV層からナイフ形石器出土。5区-24・29・30調査。
- 4月24日 4区遺構調査（PJ-111～114小穴完掘）。5区-31～34調査。国分寺市教育委員会視察。
- 4月25日 4区完掘記録。5区-31～44調査（5区終了）。
- 4月26日 調査終了。国分寺市教育委員会立会検査。器材等撤収。
- 4月27日 器材等撤収。
- 5月17日 樹木抜根に伴う6区確認調査。4区より続くSD9・10溝状遺構検出。抜根後の掘削はされないため更なる調査は行わず、写真撮影と範囲測量のみ記録した。

第3節 整理作業の方法

今回の調査で得られた遺物は、若干の旧石器と歴史時代遺物の他は、出土地点を記録したものだけでも6千点を越える縄文時代遺物であった。遺物等の整理作業は以下の手順で行なった。また、遺物の分

類基準をその下に示す。

1. 遺物は水洗・注記の後、種別の分類と観察を経て各台帳を整備する。
2. 土器は型式分類と個体分類を行ない、接合作業及び実測・拓本等の図化作業を進める。
3. 石器は器種分類を経て実測図を作成する。
4. 遺構・層序等の原図は整理し、必要なものを選別して報告用に図化する。
5. 遺物の写真撮影を行ない、調査写真は台帳を整備し、アルバム・データ共に整理する。

旧石器の分類

今回出土した旧石器4点のうち剥片を除く3点は、いずれも以下の基準を満たすものとして、ナイフ形石器に分類した。

ナイフ形石器

剥片の鋭い縁辺を未加工のまま一側縁として残し、それ以外の縁辺部をあるいは裏面から潰し、あるいは裏面から厚い角度の連続した調整剥離によって整形した石器である。

縄文土器の分類

縄文土器の分類については、以下の文献を参考にした。詳細は参考文献に掲載する。

神奈川考古同人会『縄文時代中期後半の問題』(1980) 小林達雄編『縄文土器大観』(1989)
小林達雄編『総覧縄文土器』(2008) 和田 哲『西上遺跡』(1975)

出土した縄文土器は文様、胎土、調整、焼成などの特徴から、時期や型式が明確に判断できるものは、前期諸磯式、中期猪沢式、勝坂式、阿玉台式、加曾利E式、曾利式である。その他、小破片のものや無文など詳細な時期や型式が判断できないものは時期不明として扱った。

縄文石器の分類

石器器種の分類は以下の基準で行なった。

1. 尖頭器

剥片素材の両側縁に連続した調整剥離を加えることで、尖った先端部を造り出した石器である。旧石器時代後半期に登場し、縄文時代草創期まで製作された。旧石器時代の尖頭器と縄文草創期のものは石材、大きさ、重さ、加工技術などの点で区別されることが多い。今回出土した資料はホルンフェルス製で、縄文草創期に多用された石材である。また大きさ・重さは旧石器の尖頭器より大ぶりであり、さらに出土層位が第II層下部であることなどから、縄文時代の所産とした。尚、縄文時代の「石植」は更に大型で、粗い剥離調整によって作られることが通例であることから、本例はこれに含めない。

2. スクレイパー

剥片の縁辺に連続した調整剥離を施し、刃部とする石器。調整は片面と両面がある。不定形のものが多く、特に抉り加工によって「つまみ」を作り出したものは「石匙・石匕」として別に分類する。旧石器時代の「削器」と同類の石器であるが、縄文時代の石器として区別するために名称を分ける。

3. 打製石斧

大型礫より採取した剥片または扁平礫を素材とし、矩形等に剥離整形して一端に刃部を設けた石器。形態は撥形・短冊形・分銅形に分類される。通例、素材の原礫面を残す。器体が上下方向に湾曲するものが多く、突出した面を表面とする。側縁には中央部を中心に潰れが見られる例が多く、製作時の加工痕跡と考えられる。

4. 磨製石斧

梢円礫や大型剥片を素材とし、砥石等で磨いて刃部や表面を滑らかに仕上げた石器。一端に設けた刃部には両刃と片刃があるが、縄文時代では圧倒的に両刃が多い。通例では粗削りした素材を硬質礫による敲き加工で整形し、磨いて仕上げる。全面を磨き上げる例もあるが、多くは磨き残しに敲打整形痕が観察される。

5. 磨 器

礫または大型剥片の縁辺に、連続した粗い調整剥離を施して刃部とする石器。刃部に片刃と両刃があり、片面礫器（chopper）・両面礫器（chopping tool）と呼び分ける。

6. スタング形石器

礫を打削して平坦面（作業面）を造り出した石器。作業面に多少の潰れや磨痕が見られる場合もあるが、明確な使用痕跡のない例が多い。作業面の周縁には作業面から垂直方向に細かい剥離が見られる事がしばしばある。素材礫の側縁に剥離調整や潰れが見られる場合が多いが、側縁加工のないもの、一側縁に限られるもの、両側縁に加工のあるものの3種に細分できる。

7. 磨 石

円礫の一部に磨痕を帯びる石器。やや扁平なものが多い。加えて凹みや敲打痕の見られる例もある。凹みを伴うものを「凹み磨石」と呼ぶ。

8. 敲 石

礫の一部に顕著な敲打痕ないし敲打による剥離痕を帯びる石器。剥離痕の場合、単純な二次加工と区別しにくいが、打点の周辺に複数の敲打痕が見られる場合には敲石とする。

9. 石 皿

大型礫の片面ないし両面に平坦または凹面の滑らかな作業面をもつ石器。破損品が大半で、凹みや敲打痕を伴う例も多い。

10. 磨 石

大型礫の平坦面に、磨き減らした直線的で滑らかな溝を帯びる石器。

11. 石 錘

扁平な円礫の両端に剥離や擦り切りによる切り欠きを造り出した石器。両端の切り欠きを結ぶ溝を帯びるものや、礫縁辺の四方に切り欠きを設けたものもある。

遺物の実測基準

縄文土器は1点を除き全て破片資料であった。接合・分類の後、各時期や型式の特徴をよく示すものを選別し実測を行なった。

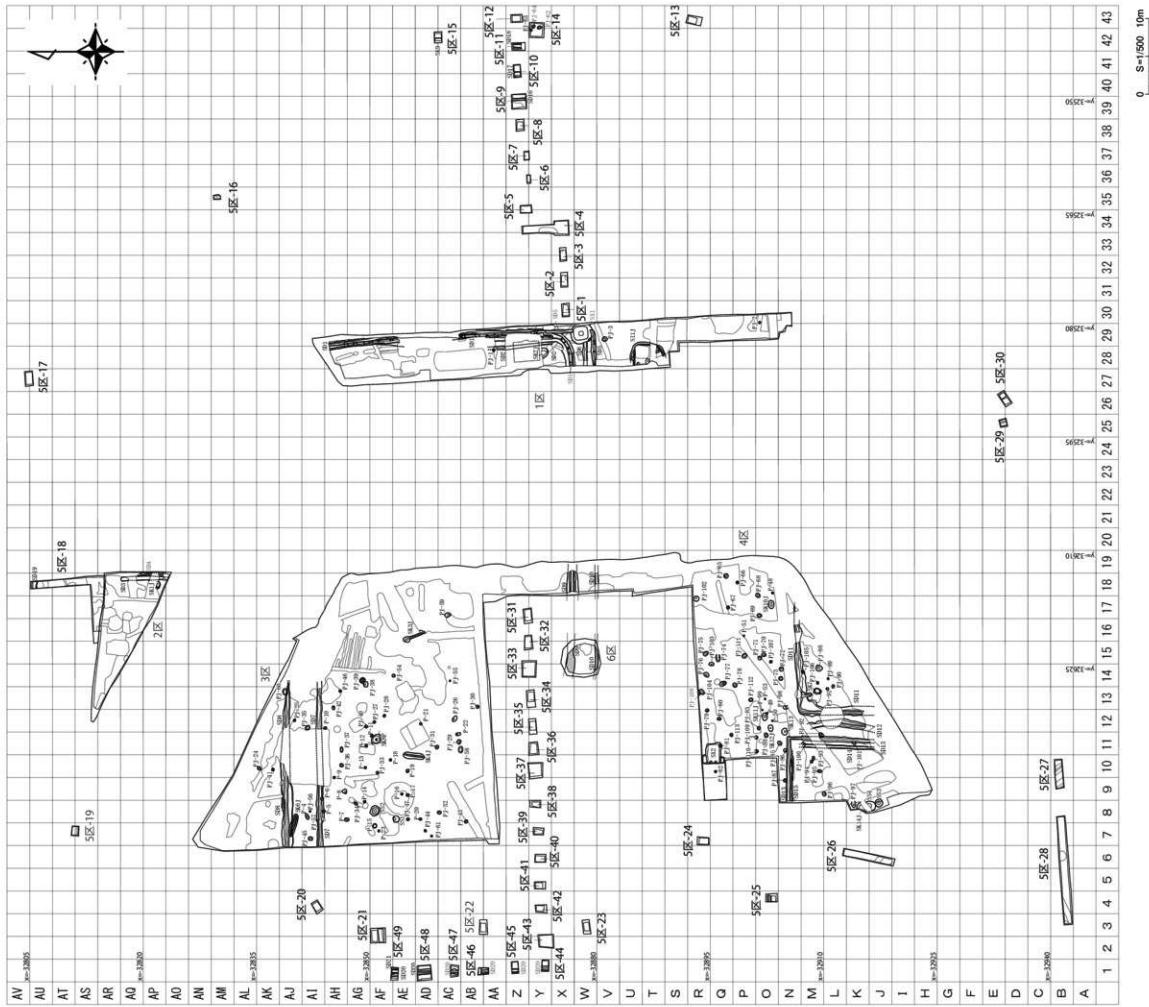
石器については、出土資料の内、器種組成を代表する定型石器で、完形ないしそれに準ずるものを中心として実測を行なった。

第4節 整理作業の経過

整理・報告書作成作業は平成29年4月28日より共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センター（以下、研修センター）にて行なった。現場で作成した図面・写真などの整理、遺物の洗浄・注記の後、遺構図の作成ならびに遺物の分類・接合を行なった。7月5日より遺物の実測図作成・拓本採取を開始し、引き続きデジタルトレース、遺物写真撮影を行なった。平成30年1月15日より報告書の編集を開始した。

なお、平成29年7月4日および8月18日の2回にわたり、研修センターにて国分寺市教育委員会文化財担当者と報告書作成方針ならびに進捗状況の打合せを行なった。

整理作業・報告書作成にかかる全ての作業は、平成30年4月27日に本書の発行をもって終了した。



第9図 遺構配置図(全時代)

第4章 遺構と遺物

第1節 旧石器時代

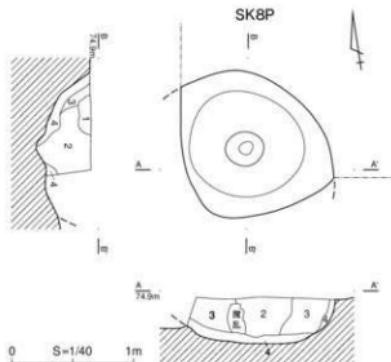
今回の調査では旧石器時代に属すると思われる土坑1基と石器4点が出土した。

1. 遺 構

(1) 土 坑

SK8P土坑 (第10・11図、図版4-6)

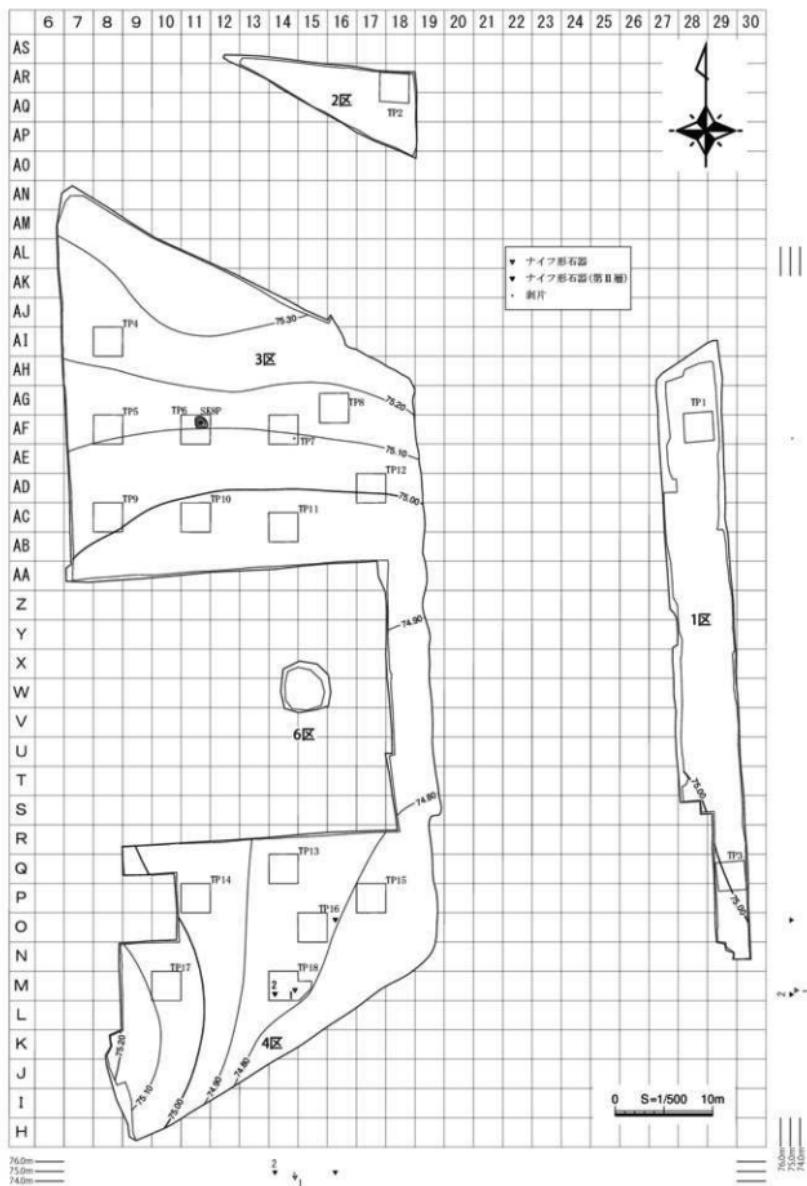
3区中央の6号試掘坑 (TP6) の北東隅で8号土坑1基を確認した。確認面が第Ⅲ層上面より低く、また覆土がローム主体のため当初は気付かず、遺構の南側から西側にかけて一部を掘削してしまったが、本体は確認できた。プランは推定径1.5m程の略円形で、立川ローム第Ⅲ層上面より数cm深い位置から45cm掘り込まれ、底部は浅い皿状を呈する。覆土の色調は地山のソフトロームより若干暗めであるが、土質は差がない。下位に少量の炭化物粒 (1~3mm) の散在を認めたが、遺物は含まない。



SK8P土坑土層説明

- 1 2と近似な褐色土 色調以外は同じ。
- 2 均質・微粒の暗茶褐色土
赤色スコリア粗・細粒が大量に偏在。下位に炭化物細片を数点含む。よく締まる。ロームを主体とする。
- 3 1と近似な明るい茶褐色土
スコリアの量が少や少ない。下位に炭化物細片を数点含む。よく締まる。ロームを主体とする。
- 4 むらの多い微粒の暗茶褐色～黄褐色土
1・2に黄褐色ローム(IV層)を混するもの。よく締まる。ロームを主体とする。

第10図 SK8P土坑



第 11 図 旧石器時代遺構・遺物分布図

2. 遺物

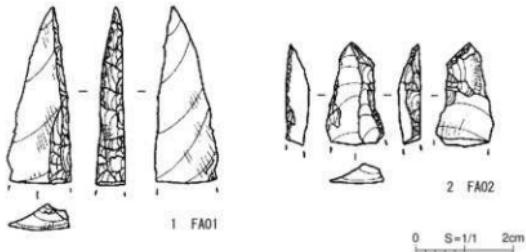
(1) 石器

4区では3点のナイフ形石器、3区では7号試掘坑(TP7)より剥片1点が出土した(第11図)。ナイフ形石器のうち2点は縄文時代の包含層から出土している。また1点は若干の加工を加えたのみの未成品小片であり、剥片と共に図示していない。

ナイフ形石器(第12図1・2、第6表、図版4-7・8・17-1)

1は4区18号試掘坑(TP16)内の第Ⅲ層中部より出土した(図版4-8)。頁岩の縦長剥片を素材とし、右側縁に裏面から連続した極厚型調整剥離を加えて背部を造り出す。その上半部では表面側から連続した微細な剥離が追加されている。下部を折損する。

2は4区の第Ⅱ層からの出土であるが、器面をしつとりとした水和層が覆っており、形態・製作技術からも旧石器時代の所産と判断した。透明良質な黒曜石の縦長剥片を用い、右側縁に連続した極厚型調整剥離を加えて背部とする。右側縁上半部には裏面にも調整を加えている。左側縁にも連続した微細な剥離が見られるが、これは意図的な加工ではなくガジリであろう。ガジリの剥離面には他の部位と同様な水和層が見られることから、当時の使用痕と思われる。下部を折損する。



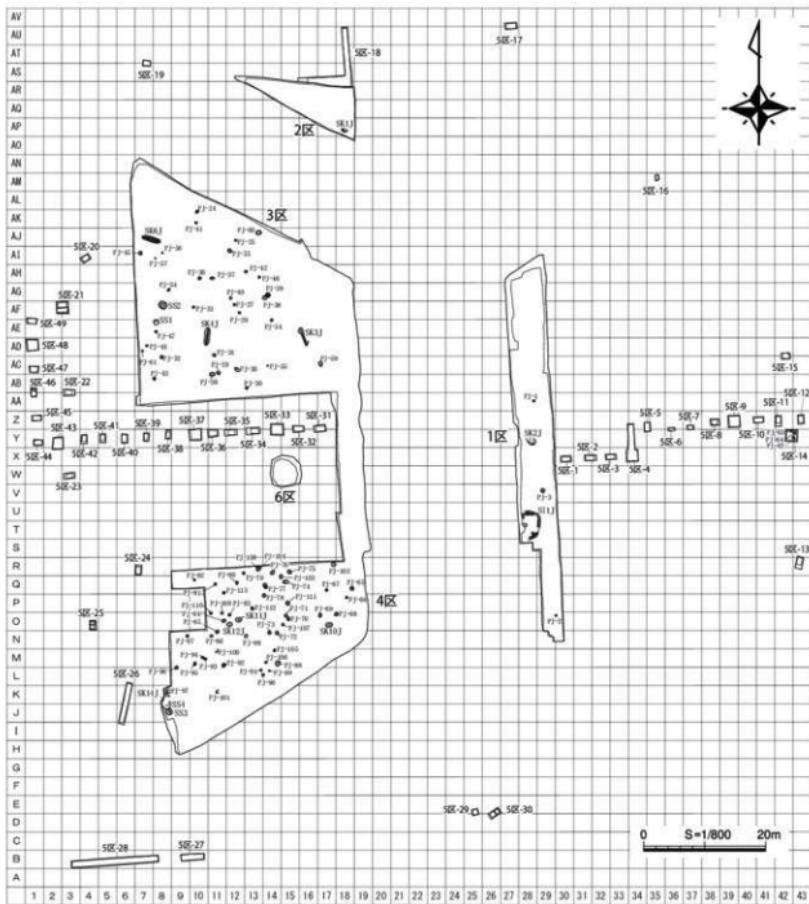
第12図 旧石器時代出土遺物

第6表 旧石器時代石器観察表

測量番号 測定番号 測定番号	遺物番号 測定番号 測定番号	層位	出土区	遺構名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1 FA01 12-1 17-1-1	6692	第Ⅲ層	4区	TP18	ナイフ形石器	頁岩	3.53	1.27	0.61	1.9	下部欠損
2 FA02 12-2 17-1-2	6015	第Ⅲ層	4区		ナイフ形石器	黒曜石	2.06	1.16	0.45	0.9	下部欠損
-	5167	第Ⅲ層	4区		ナイフ形石器	黒曜石	2.08	1.28	0.68	1.3	未成品
-	3560	第Ⅲ層	3区	TP7	剥片	ホルンフェルス	5.65	6.53	1.85	55.30	

第2節 繩文時代

縄文時代の遺構は竪穴住居1軒、集石土坑4基、陥し穴3基、土坑6基、小穴85基が出土した。水源に近い台地上としては居住痕跡が薄い。遺物は縄文土器2,052点、石器111点および礫5,126点が出土した。遺物は集落址として好条件な立地の割に少なく、その分布も比較的散漫であり、顕著な集中もほとんど見られない。遺物の所属時期は前期諸礎b式1点を除き、圧倒的に中期で占められる。4区で中期前葉と思しき特異な土器が1個体分出土している。他に土器片鍤と土製円盤が数点得られている。石器では3区で草創期と見られる尖頭器が1点発見された他は打製石斧やスタンプ形石器など、中期を代表する石器群が散漫に出土した。



第13図 繩文時代遺構分布図

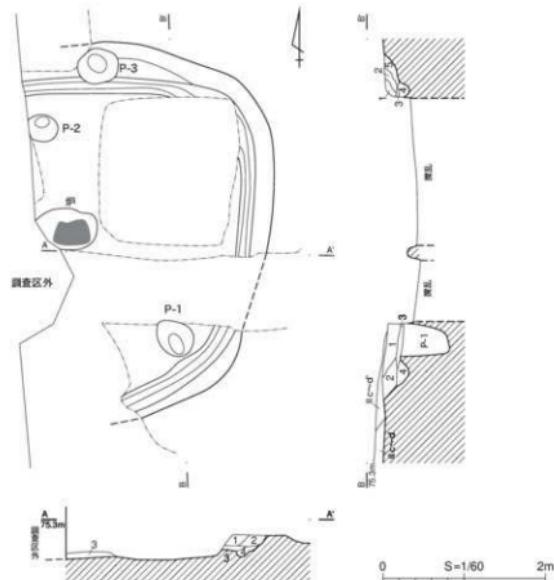
1. 遺構

(1) 竪穴住居

S I 1 J 住居 (第14～17図、第7・8表、図版5・17-2)

1区南部で1軒のみ出土した。西部は調査範囲外で、南部は擾乱によって破壊されているが、平面形は東西・南北共に2.5m程の不整円形ないし不整圓丸方形と推定される。竪穴の掘り込みの深さは残存部最大で30cm前後である。床からの立ち上がりは緩い曲面を描いており、壁の大半は擾乱によって失われている。床の周縁には幅約20～25cm、深さ約5～10cmの周溝が廻る。

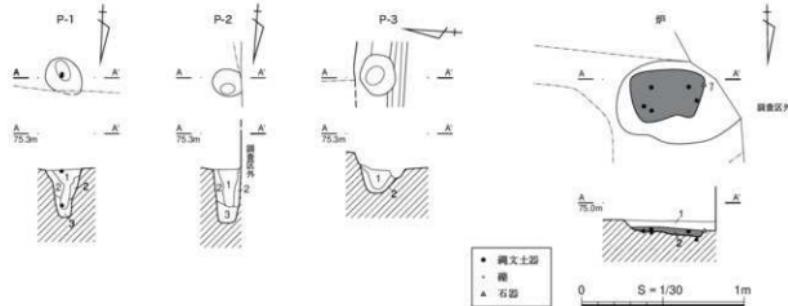
床の中央部に80×50cm程の楕円形の浅い炉跡があり、覆土に焼土を含む。炉床のロームは赤化・硬化している。この炉からは土器小片6点と完形の打製石斧1点が出土した(第17図7)。これらの遺物は被熱しておらず、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。床の北側と南東側に柱穴と目される径40cm前後、深さ30～35cm程の小穴がある。また北端壁際では径約50cm、深さ25cmの小穴が確認されたが、覆土断面を見る限り、住居の周溝によって切られていることから、周溝構築以前の所産であると思われる。



S I 1 J 住居土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒・赤色スコリア含む。締まり強い。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒多く含む。締まり強い。
- 3 暗褐色土 竪穴住居床面。ローム粒・炭化物含む。締まり強い。
- 4 暗茶褐色土 竪穴住居周溝。ローム粒多く含む。締まり強い。
- 5 暗茶褐色土 2層に類似。やや明るい。

第14図 S I 1 J 住居



S I 1 J 住居 P-1・P-2 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。締まり強い。
- 2 暗茶褐色土 ロームブロック・ローム粒・スコリア含む。締まり強い。
- 3 暗褐色土 ローム粒含む。1より色調が暗い。締まり弱い。

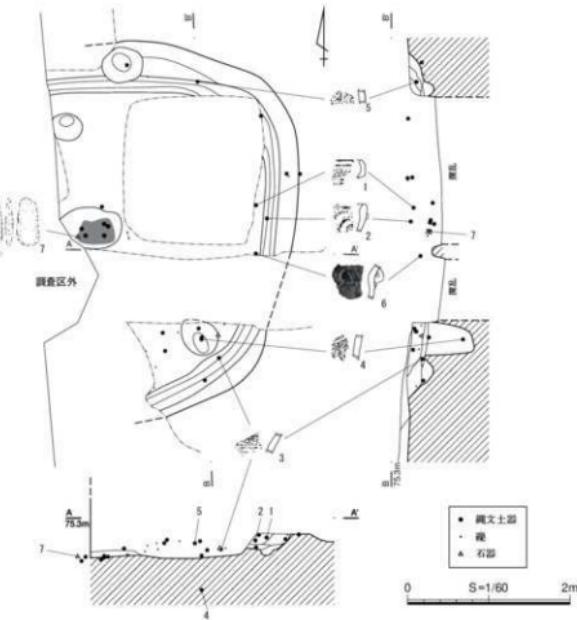
S I 1 J 住居炉土層説明

- 1 燃土粒 (径 1 ~ 5 mm) 多く含む。焼上面の焼土・ロームは被熱で硬化している。
- 2 黄褐色土 硬化ローム (径 1 ~ 5 cm) 多く含む。硬い。

S I 1 J 内 P-3 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒・赤色スコリア含む。締まり強い。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・ローム粒含む。締まり弱い。

第 15 図 S I 1 J 住居小穴・炉

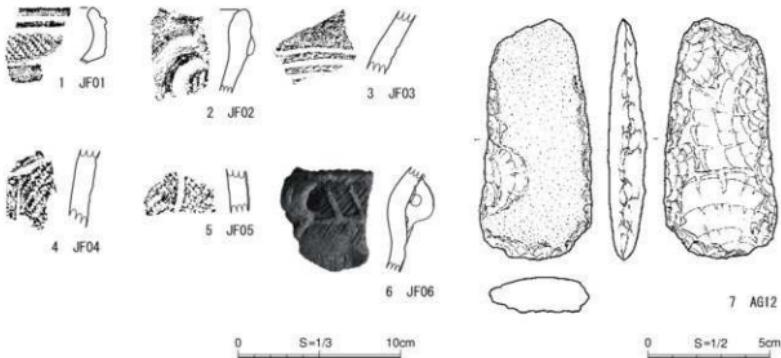


第 16 図 S I 1 J 住居遺物分布図

住居覆土より出土した遺物は土器21点、石器2点及び礫9点である。土器は床面付近で出土した加曾利E2式が主体であり、曾利II式を伴う事から、住居の所属時期は中期後半と推測できよう。

1～5は加曾利E2式の深鉢である。1・2は口縁部で1は大きく内湾する。1・2とも口縁直下に隆帯による口縁区画を配する。区画内は、単節RL縄文が1は横方向に、2は縦方向に施文される。3～5は胴部片である。3は平行沈線を横位に施文。沈線間の隆起部に刺突を加える。4・5は単節LR縄文を横方向に施文後、沈線区画を配する。6は曾利II式の深鉢頸部片である。平行沈線を斜めに施文後、細い粘土紐を施し、環状に把手を配する。

7は炉から出土した砂岩製の完形の打製石斧である。表面には大きく原礫面を残し、裏面の周縁を丁寧に調整して整形する。刃部に潰れはないが、鋭さがなく、両側縁中央部にわずかな潰れが見られる。



第17図 S11J住居出土遺物

第7表 S11J住居出土縄文土器観察表

遺物番号 団査番号 回収番号	型式	標別 器種	出土層位	口径 高径 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF01 17-1 17-2-1	加曾利E2式	深鉢	覆土上層	— [3.4]	口縁部片。 大きく内湾する。	両面ともJ字型な削き。表面は口縁直下に隆帯による口縁区画を配する。区画内は横方向の単節RL縄文。底部無文。	暗褐色。胎土は素で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
2 JF02 17-2 17-2-2	加曾利E2式	深鉢	覆土上層	[5.0]	口縁部片。 矢印や内縮する。	両面ともJ字型な削き。表面は口縁直下に隆帯による口縁区画を配する。区画内は縦方向の単節RL縄文。	黄褐色。胎土はやや粗く、細砂粒を多く含む。雲母を少含む。焼成は良好。
3 JF03 17-3 17-2-3	加曾利E2式	深鉢	床面直上	[4.1]	胴部片。	両面ともJ字型な削き。表面は平行沈線を施文する。沈線間の隆起部に刺突。	暗褐色。胎土はやや粗く、1mmの大砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
4 JF04 17-4 17-2-4	加曾利E2式	深鉢	P-1 覆土	[4.7]	胴部片。	両面は粗い削き。表面は単節LR縄文を横方向に施文した後、沈線による区画を配する。	黄褐色。胎土はやや粗く、1mmの大砂粒・雲母を多く含む。焼成は不良。
5 JF05 17-5 17-2-5	加曾利E2式	深鉢	覆土上層	[2.9]	胴部片。	両面は粗い削き。表面は単節LR縄文を横方向に施文した後、縦の沈線を施文する。	赤褐色。胎土はやや粗く、1mmの大砂粒・雲母を多く含む。焼成はやや不良。
6 JF06 17-6 17-2-6	曾利II式	深鉢	覆土下層	[6.2] —	鉢部片。 口縁に向かって外反する。円錐状の把手が配される。	両面は粗い削き。表面は斜めに平行沈線を施文した後、細い粘土紐を横位置に貼り付け、把手が付される。	暗褐色。胎土は素。細砂粒・雲母を多く含む。

第8表 S11J住居出土石器観察表

開拓番号 団査番号 回収番号	遺物番号 団査番号 回収番号	層位	出土区	遺物名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
1 AG12 17-7 17-2-7	327	炉覆土	I区	S11J	打製石斧	砂岩	9.74	4.61	1.48	83	細形

(2) 集石土坑

SS 1~4集石土坑 (第18~22図、第9~12表、図版6・7-1~4)

3区西部で2基、4区南西部で2基の集石を伴う土坑が近接して出土した。これら2群の土坑は直線距離にして65m程離れてはいるが、南北一直線上にほぼ並んでおり(第13図)、その位置関係は甚だ興味深い。各土坑内部の礫には若干の接合関係が見られるが、土坑間の接合は皆無であった。明確な接合資料が少ないので大半が小破片であるため、実際にはより多くの接合関係が認められるものと思われる。尚、SS 3・SS 4号集石土坑は隣接しており、確認当初境界が不鮮明であり、礫も土坑外部まで広範に分布していたため、遺物に関しては両者を区別できる段階まで「SS 3・SS 4集石土坑」として登録した。

集石の構成礫の石質は、いずれの土坑でも圧倒的に砂岩が多く、これに次いでチャートが多く用いられており、両者を合わせると構成礫の90%を越える(第9表)。ただし、SS 1・SS 2では砂岩が8割を超えるが、チャートが1割前後であるが、SS 3・SS 4では砂岩は6~7割に停まり、代わりにチャートが2~3割を占める。ちなみに包含層単独出土の礫構成では砂岩75%、チャート17%とこれらの中间的な値である。近隣の遺跡での出土例も概ね同様な石材比率を示しており(林他 2017, pp371~381等)、本遺跡の場合も礫の供給源として、近在の礫層を利用していたと考えて大過はなかろう。

これら4基の土坑は層位・規模・内容共に近似であり、勝坂式及び加曾利E式が出土しているため、いずれも縄文中期の所産と考えられる。

第9表 出土礫石質一覧表

遺構名	SS 1		SS 2		SS 3・4		SS 3		SS 4		包含層		総計	
	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)	個数 (%)	重量 (%)
石質														
砂岩	447 (84.02)	47,400 (84.77)	875 (80.13)	36,130 (84.08)	186 (62.21)	5,164 (68.35)	281 (72.24)	31,511 (88.64)	412 (57.95)	15,307 (61.55)	1579 (75.08)	94,618 (73.44)	3780 (73.74)	230,130 (77.83)
チャート	48 (9.02)	4,008 (7.17)	124 (11.36)	2,840 (6.61)	93 (31.10)	1,976 (26.16)	85 (21.85)	2,989 (8.41)	240 (33.76)	7,617 (30.63)	365 (17.36)	24,431 (18.96)	955 (18.63)	43,862 (14.83)
凝灰岩	7 (1.32)	461 (0.82)	31 (2.84)	756 (1.76)	15 (5.02)	298 (3.94)	7 (1.80)	254 (0.72)	34 (4.78)	1,065 (4.27)	52 (2.47)	1,610 (1.25)	146 (2.85)	4,441 (1.50)
ホルンフェルス	2 (0.38)	573 (1.02)	20 (1.83)	2,100 (4.89)	1 (0.33)	17 (0.22)	4 (1.03)	375 (1.06)	6 (0.84)	26 (1.03)	26 (1.24)	3,346 (2.60)	59 (1.15)	6,666 (2.25)
泥岩	14 (2.63)	1,189 (2.13)	9 (0.82)	523 (1.22)	1 (0.33)	39 (0.51)	1 (0.26)	39 (0.11)	6 (0.84)	358 (1.44)	22 (1.05)	2,029 (1.57)	53 (1.03)	4,176 (1.41)
頁岩	6 (1.13)	1,444 (2.58)	9 (0.82)	135 (0.31)	— —	— —	5 (1.29)	65 (0.18)	2 (0.28)	54 (0.22)	25 (1.19)	1,008 (0.78)	47 (0.92)	2,705 (0.92)
石英	2 (0.38)	7 (0.01)	17 (1.56)	266 (0.62)	1 (0.33)	10 (0.13)	1 (0.26)	22 (0.06)	9 (0.17)	140 (0.56)	10 (0.48)	327 (0.25)	40 (0.78)	772 (0.26)
石英斑岩	5 (0.94)	257 (0.46)	5 (0.46)	141 (0.33)	— —	— —	— —	— —	1 (0.14)	29 (0.12)	1 (0.05)	11 (0.01)	12 (0.23)	438 (0.15)
石英片岩	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 (0.05)	52 (0.04)	1 (0.02)	52 (0.02)
安山岩	— —	2 (0.18)	79 (0.18)	2 (0.67)	52 (0.68)	— —	— —	1 (0.14)	47 (0.19)	5 (0.24)	143 (0.11)	10 (0.20)	320 (0.11)	320 (0.11)
粘板岩	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	284 (1.03)	— (0.80)	— —	— —	77 (0.10)	6 (0.06)	360 (0.12)
閃緑岩	1 (0.19)	576 (1.03)	— —	— —	— —	1 (0.26)	10 (0.03)	— —	— —	3 (0.14)	189 (0.15)	5 (0.10)	775 (0.26)	
蛇紋岩	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	4 (0.19)	435 (0.34)	4 (0.08)	435 (0.15)	
花崗岩	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 (0.10)	89 (0.07)	2 (0.04)	89 (0.03)	
礫石	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 (0.14)	363 (0.28)	3 (0.06)	363 (0.12)	
礫岩	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 (0.10)	101 (0.08)	2 (0.04)	101 (0.03)	
かんらん石	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 (0.05)	6 (0.01)	1 (0.02)	6 (0.01)	
総計	532	55,915	1092	42,970	299	7,556	389	35,549	711	24,870	2103	128,835	5126	295,695

第10表 出土礫遺存度一覧表

遺構名	S S 1		S S 2		S S 3・4		S S 3		S S 4		包含率		総計	
遺存度	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)
完形	8	1.50	16	1.46	8	2.68	13	3.34	9	1.27	433	20.59	487	9.50
60%以上	61	11.47	30	2.75	4	1.34	24	6.17	9	1.27	190	9.03	318	6.20
30~60%	129	24.25	172	15.75	21	7.02	80	20.57	97	13.64	329	15.64	828	16.15
30%以下	334	62.78	874	80.04	266	88.96	272	69.92	596	83.82	1151	54.73	3493	68.14
総計	532		1092		299		389		711		2103		5126	

第11表 出土礫被熱度一覧表

遺構名	S S 1		S S 2		S S 3・4		S S 3		S S 4		包含率		総計	
被熱度	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)
極度	483	90.79	918	84.07	252	84.28	367	94.34	624	87.76	1164	55.35	3808	74.29
中度	43	8.08	159	14.56	32	10.70	16	4.11	69	9.70	370	17.59	689	13.44
軽度	6	1.13	12	1.10	14	4.68	6	1.54	18	2.53	381	18.12	437	8.52
なし	—	—	3	0.27	1	0.33	—	—	—	—	188	8.94	192	3.75
総計	532		1092		299		389		711		2103		5126	

第12表 出土礫付着物一覧表

遺構名	S S 1		S S 2		S S 3・4		S S 3		S S 4		包含率		総計	
付着物	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)	個数	比率(%)
タール	29	54.5	14	1.28	3	1.00	18	4.63	30	4.22	17	0.81	111	2.17
煤	102	19.17	65	5.95	29	9.70	85	21.85	120	16.88	134	6.37	535	10.44
総個数	532		1092		299		389		711		2103		5126	

S S 1集石土坑（第18図、図版6-1~4）

3区西部で出土した。平面形は径80cmの略円形で深さは最大35cmある。北部は搅乱によって失われている。底は擂鉢状であるが床は北に偏っている。覆土は黒味が強く、炭化物細粒が見られ、特に下底部付近では1cmを越える炭化物片が散見される。集石は覆土上半部を中心に高い密度で遺されている。構成礫の赤化度・破損度は共に高いが、サイズは全体に大きめで、10cm以上の大型破片も目立つ。一部の小礫は土坑の周辺にも散在する。礫の石質は多彩であり、確認できただけで9種に及ぶが、大半は砂岩とチャートで占められる。いずれも近在の礫層に由来するものか、石器用として持ち込んだ素材の転用もあったものと思われる。若干の礫が内部で接合している。また、砂岩製の石皿の破片と見られる遺物を1点含む。

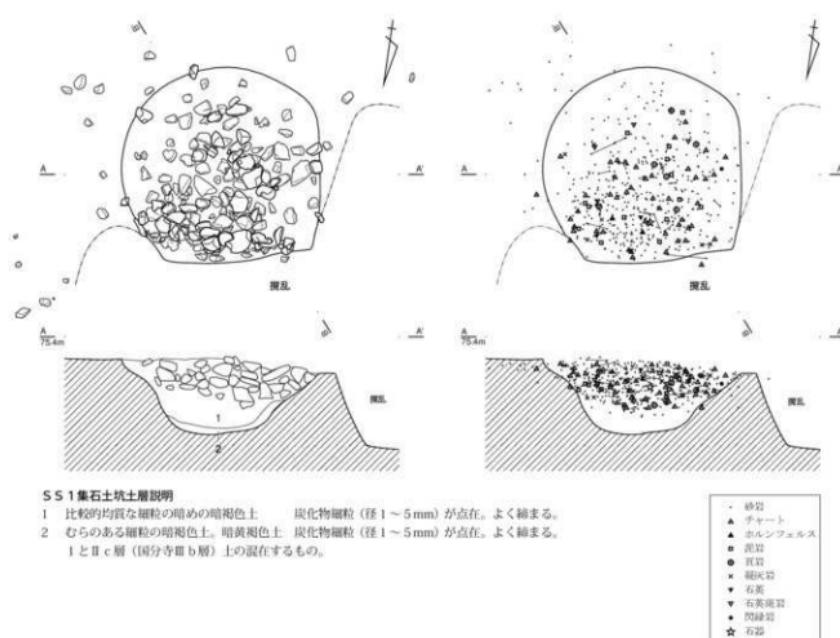
S S 2集石土坑（第19・20図、図版6-1・2・5・6）

S S 1集石土坑の北側2mに位置する。規模はS S 1集石土坑より大きく、長軸130cm、短軸120cmの略円形で深さは43cmである。底は比較的整った擂鉢状である。覆土はS S 1集石土坑とほぼ同じ様相を示し、特に下層に含まれる炭化物には3cmを越えるものもある。集石も上半部に集中しており、礫点数と密度は4基のうち最大である。構成礫は赤化度・破損度が著しく高く、小片・細片が大半を占める。石質の構成もS S 1集石土坑と近似であり、若干の接合関係が見られる。尚、勝坂式土器片が1点出土した。

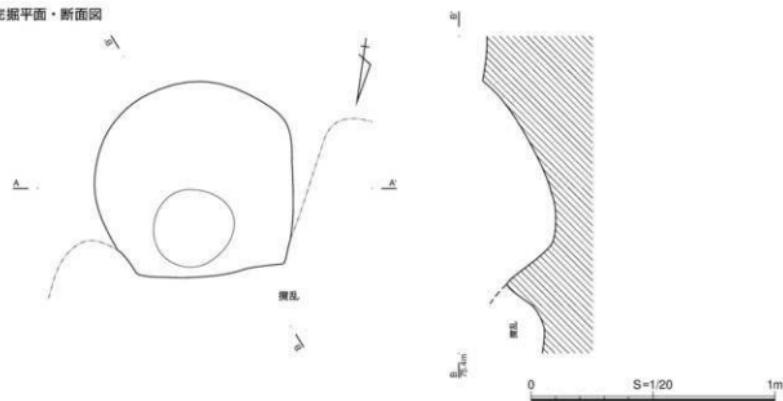
土坑の検出当初は、S S 1集石土坑との破損度の顕著な差からS S 1集石土坑が本体であり、加熱利用によって割れた小片を抜き出して隣のS S 2集石土坑に廃棄したものかとも思われたが、礫のサイズ（破損度）以外の特徴はS S 1集石土坑と変わらず、加熱痕跡の炭化材も同様なあり方を示す事から、それぞれ独立して機能した集石土坑と考えるべきであろう。両者の時間差は不明であるが、層位的にも全体的な様相からしても、明らかな時間差は認められない。礫のサイズの相違から、S S 2集石土坑が廃絶されてからS S 1集石土坑が増設された可能性はある。

集石出土状況微細図

集石質別分布図

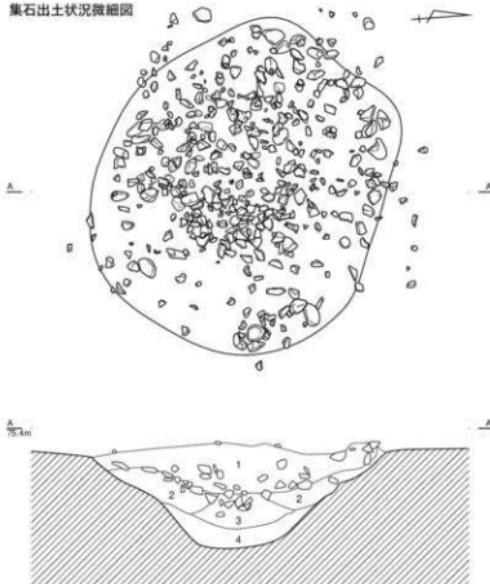


完掘平面・断面図



第18図 SS 1集石土坑

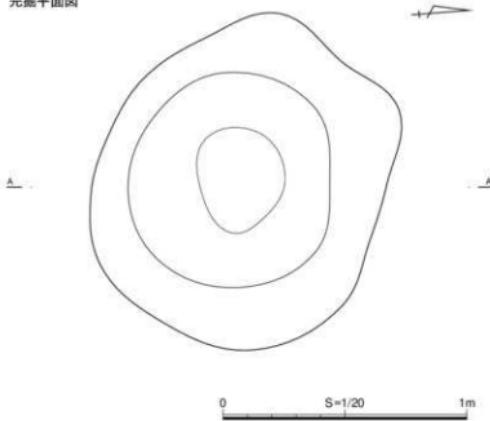
集石出土状況微細図



SS2集石土坑土層説明

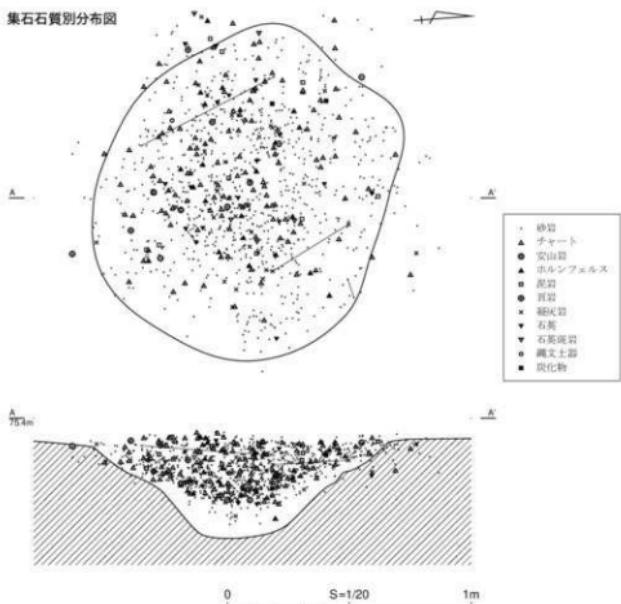
- 1 比較的均質な細粒の暗褐色土 ローム・赤色スコリアの細粒が点在。概ね緻まる。
- 2 1と似るが炭化物細粒が散在し、色調の若干暗いもの。概ね緻まる。
- 3 1と似るが大量の炭化物（径1～30mm）が偏在し、色調の更に暗いもの。概ね緻まる。
- 4 むらの多い細粒の暗褐色～暗黄褐色土 1～3とソフトロームの混在するもの。概ね緻まる。

完掘平面図



第19図 SS2集石土坑（1）

集石石質別分布図



第20図 SS 2集石土坑（2）

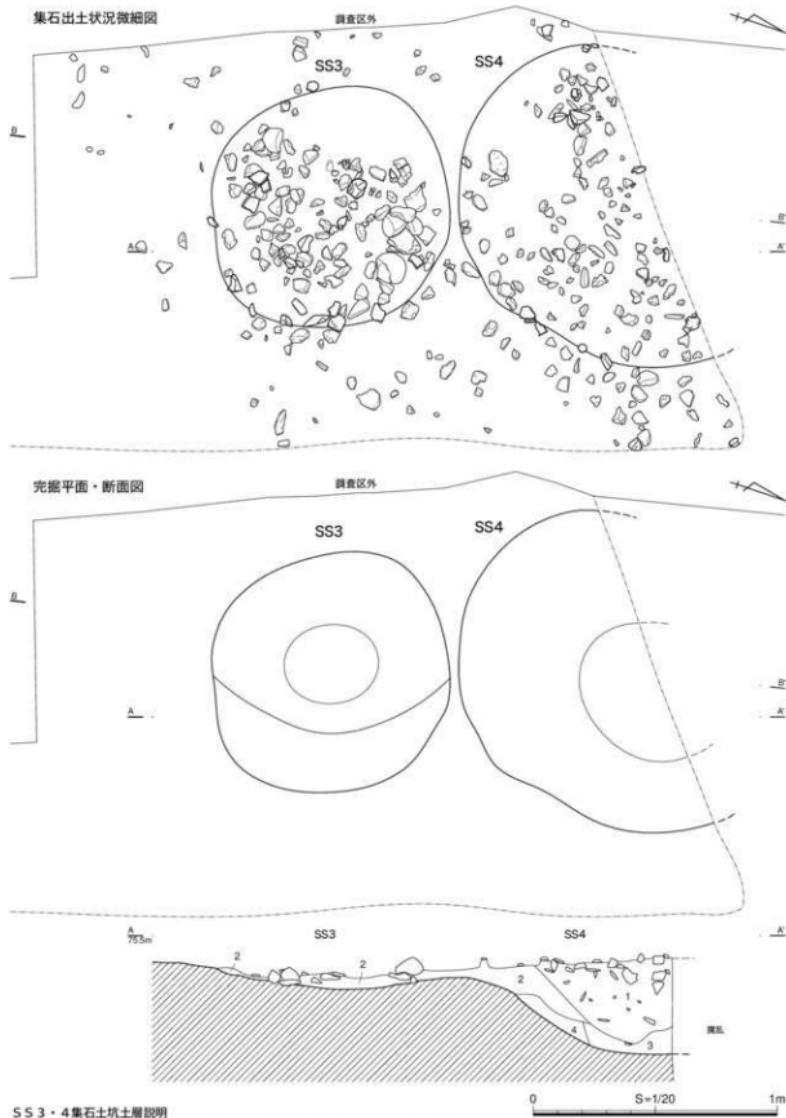
SS 3集石土坑（第21・22図、図版6-7・8・7-1・2）

4区南西部の調査壁にかかるてSS 4集石土坑と隣接して出土したため、調査区を西に拡張し、全体を検出した。平面形は径約1mの略円形で深さは25cm程、底部はやや歪んだ皿状を呈する。覆土は黒みが薄く、炭化物を殆ど含まない。集石は上半部に集中するが、底部まで分布し、密度が高くサイズもやや大きめのものが目立つ。構成礫の赤化度は高く、石質は砂岩7割にチャート2割強で、わずかに接合関係が認められる。縄文土器片が23点出土したが、加曾利E式1点以外は時期不明である。

SS 4集石土坑（第21・22図、図版6-7・8・7-3・4）

SS 3集石土坑の北側に隣接する。北東部約3~4割を搅乱によって破壊される。平面形は径約130cmの略円形と推定され、深さは40cm、底部はやや北に寄った鉢状である。覆土は黒みが強く、炭化物小片が点在する。集石は上半部を中心に集中し、底部付近まで分布する。赤化度・集中密度は極めて高く、大半が小破片であり、搅乱部分を補うと4基の中では最大規模の集石となる。石質は砂岩6割弱とチャート3割強で9割を占め、若干の接合関係が認められる。縄文土器の小破片8点が出土したが、時期等は不明である。

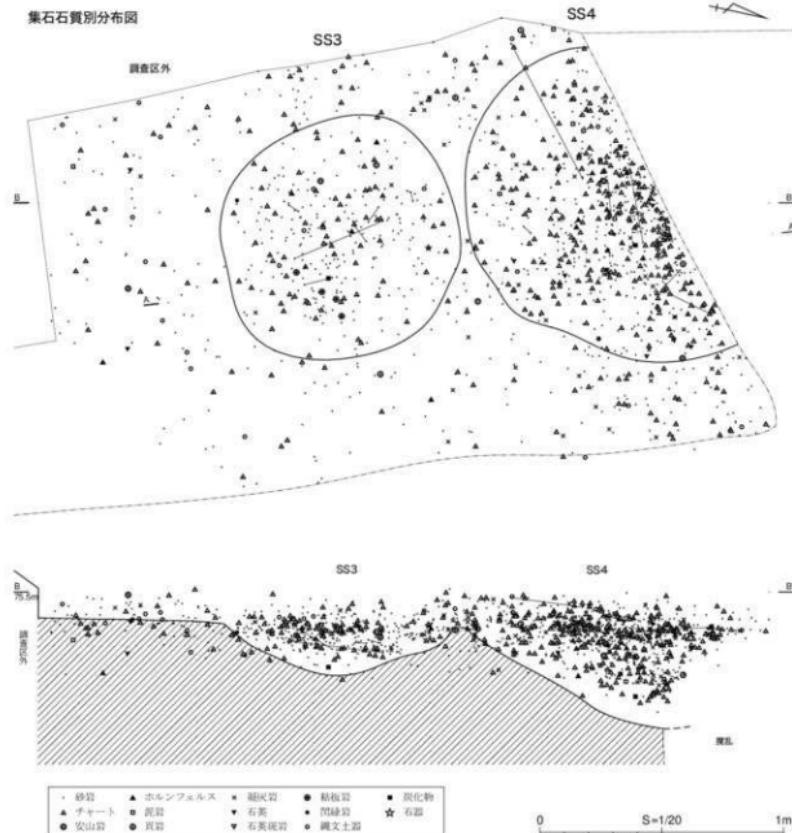
SS 3集石土坑とSS 4集石土坑では構成礫のサイズに差が認められるが、SS 4集石土坑には小破片も大量に含まれており、両者の集石自体の様相に大きな差があるとは言えない。覆土に炭化物が見られず、土坑内での著しい加熱痕跡は認められないことから、SS 4集石土坑との差は使用頻度に関わる可能性があろう。層位的に見ても両者の時間差は明確に認められないが、SS 4集石土坑が機能を終えてからSS 3集石土坑が作られた可能性は否めない。



SS3・4集石土坑土層説明

- | | |
|----------------------|---|
| 1 比較的均質な細粒の暗褐色土 | 炭化物細粒（径1～5mm）が点在。よく縫まる。 |
| 2 均質・細粒の暗褐色土 | 赤色スコリアの細粒が点在。II c 層に近いが色調やや暗い。縫ね縫まる。 |
| 3 むらのある細粒の暗褐色土。暗黄褐色土 | 炭化物細粒（径1～5mm）が点在。よく縫まる。IとII c 層（国分寺遺跡層）の混在するもの。 |
| 4 均質・細粒の茶褐色土 | 赤色スコリアの細粒が点在。II d 層に近いが色調やや暗い。縫ね縫まる。 |

第21図 SS3・4集石土坑(1)



第22図 SS3・4集石土坑(2)

(3) 陥し穴

SK3J・4J・6J陥し穴(第23~25図、図版7-5~8・8-1・2)

3区から3基の陥し穴と目される大型土坑が出土した。いずれも長楕円の平面形とY字形の断面形をもつ所謂「Tピット」で、残存部の長さ275~280cm、幅80cm、深さ80~110cmとほぼ同サイズであり、形状も近似である。SK3J陥し穴とSK4J陥し穴は3区南部で東西に16mの間隔で並列し、長軸方向は南北である。SK6J陥し穴は3区西北部に位置し、SK3J陥し穴との間隔は16m、長軸は東西方向である。3区では遺構確認面は恋ヶ窪谷方向の南へわずかに下る緩斜面であり、SK3J陥し穴とSK4J陥し穴は斜面(等高線)に対して直交方向に作られており、SK6J陥し穴は斜面に平行である。

3基の陥し穴が3区に集中しているのは、当該地域がある時期、狩猟対象の動物の活動域であり、「狩り場」であったことを示しており、一方4区に陥し穴が全く見られない事から、4区はより集落に近い

領域であった事が推測される。また、3基とも層位・規模・形態が近似であり、また等間隔に分布する事から、時間的にあまり差がないものと考えられる。所属時期はいずれも不明であるが、SK 4 J 陥し穴の上部から加曾利E2式の土器が得られており、それ以前の所産である事は間違いない。

SK 3 J 陥し穴（第23図、図版7-5・6）

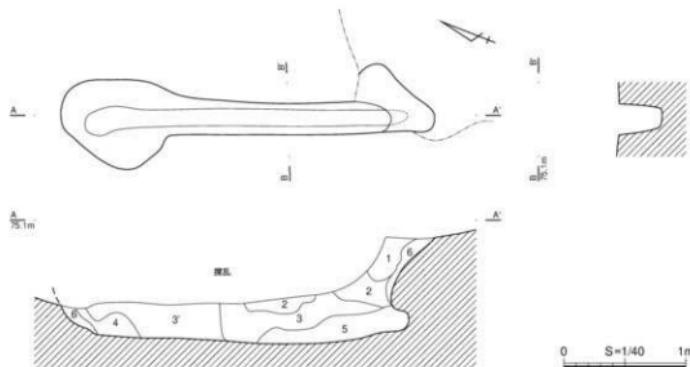
3区南東部で出土した。掠乱によって大半を破壊されているが、底部全体と南側の立ち上がりがかかるうじて残っている。掘り込み面も削られており、正確な大きさ・深さは不明であるが、長さ290cm、幅90cm、深さ110～120cm程と推察される。長軸方向はN-20°-Eである。断面Y字形で、底部は幅20cm程の細長い溝状である。底部の南端は15cm程オーバーハンプする。残存部が少ないため覆土の詳細は不明であるが、南側の下底部に黒褐色土が堆積しており、表土が最初に流れ込んだ痕跡と考えられ、興味深い。遺物は含まない。

SK 4 J 陥し穴（第24図、図版7-7・8）

3区南西部で出土した。SK 3 J 陥し穴と東西に16m離れてほぼ平行に並んでいる。掘り込み面は第II d層で、平面形は長さ280cm、幅80cmの長楕円、長軸方向はN-15°-Wである。深さ110cmの断面Y字形で、底部は幅20cm程の細長い溝状を呈する。底部の両端はわずかにオーバーハンプする。覆土は水平な堆積を見せ、上部から加曾利E 2式の土器片が1点出土した。

SK 6 J 陥し穴（第25図、図版8-1・2）

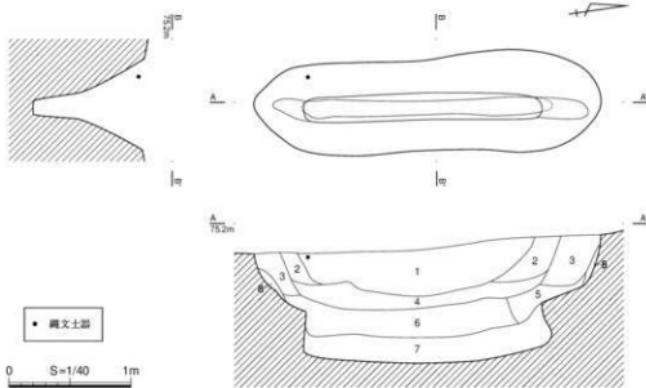
3区北西部、SK 4 J 陥し穴の北北西16mの地点で出土した。掘り込み面は第II d層で、平面形は長さ280cm、幅80cmの長楕円、長軸方向はN-65°-Wである。深さ100cmの断面Y字形で、底部は幅20cm程の細長い溝状を呈する。底部の両端は25～30cm程オーバーハンプする。覆土は比較的水平な堆積を示す。遺物は含まない。



SK 3 J 陥し穴土層説明

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1 ややむらのある細粒の暗茶褐色土 | 赤色スコリア細～粗粒が散在。やや空隙あるがよく締まる。 |
| 2 むらの多い細～微粒の暗褐色～暗黄褐色土 | 大量のローム細粒・赤色スコリア細～粗粒が偏在。よく締まる。 |
| 3 むらの多い細～微粒の暗褐色～黒褐色土 | 大量のローム細粒・赤色スコリア細～粗粒が偏在。よく締まる。 |
| 3' | 3と同質も色調がやや明るいもの。 |
| 4 | 3'に似るがスコリアの少ないもの。 |
| 5 ややむらのある細粒の黒褐色土 | ローム・赤色スコリアの細粒が散在。よく締まる。 |
| 6 むらのある細～微粒の暗黄褐色土 | ソフトロームに1・2・4などが混じたもの。よく締まる。 |

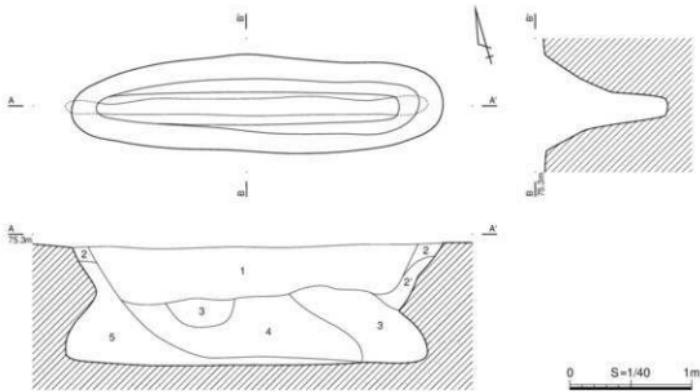
第23図 SK 3 J 陥し穴



SK 4 J 陥し穴土層説明

- 1 比較的均質な細粒の暗褐色土
 - 2
 - 3
 - 4 むらの多い細粒の暗褐色土
 - 5 むらの多い細粒の黒褐色土
 - 6 むらの多い粗～微粒の暗黃褐色土
 - 7 著しくむらのある細粒の黒褐色～褐色土
 - 8 むらのある散粒の褐色土
- ローム・赤色スコリアの細粒が点在。よく紡まる。
1と同質もやや色むらあり。色調明るめ。
2と同質もやや色むらあり。色調更に明るめ。1～3の色の差はわずか。
赤色スコリア細粒が偏在し、一部にローム成分を含む。よく紡まる。
ロームブロック（径1～3cm）が偏在する。概ね紡まる。
ロームを主体とし、暗褐色土を一部に混在する。よく紡まる。
ロームブロック（径1～5cm）が偏在。よく紡まる。
ロームを主体とする。概ね紡まる。

第24図 SK 4 J 陥し穴



SK 6 J 陥し穴土層説明

- 1 比較的均質な細粒の暗褐色土
 - 2 むらのある細粒の褐色土
 - 2'
 - 3 著しくむらのある細～微粒の褐色～暗黃褐色土
 - 4 むらのある細粒の明るめの暗褐色土
 - 5 著しくむらのある細～微粒の暗褐色～黃褐色土
- ローム・赤色スコリアの細～微粒が偏在。空隙ややあり。概ね紡まる。
若干のローム・赤色スコリアの細粒を含む。概ね紡まる。
2にロームを混じ。色調のやや明るいもの。
大量のロームブロック（径1～5cm）と赤色スコリア細粒が偏在。空隙ややあり。概ね紡まる。
ローム細～微粒・赤色スコリア粗～細粒が偏在。空隙ややあり。概ね紡まる。
ロームブロック（径1～7cm）と1が半々で混在。赤色スコリア粗～細粒が偏在。概ね紡まる。

第25図 SK 6 J 陥し穴

(4) 土 坑

S K 1 J・2 J・10 J～12 J・14 J土坑（第26・27図、図版8-3～8・9-1～8）

縄文時代の土坑と見なされる遺構は6基を確認した。いずれも第II層最下部より掘り込まれた深さ40cm以内の浅いもので、平面形は楕円である。S K 2 J土坑とS K 12 J土坑は土器と礫を含み、特にS K 12 J土坑の上面では勝坂式の深鉢把手と底部の破片が出土した。6基のうち4基が4区より見つかっており、これらが生活に関わる遺構であるとすれば、4区の南側に居住域の存在する可能性が高いと言えよう。

S K 1 J土坑（第26図、図版8-3・4）

2区南東隅で出土した。北部を搅乱によって壊されている。平面形は長軸95cm、短軸推定60cmの楕円で、深さは40cmである。遺物を含まない。付近の包含層から勝坂式及び加曾利E式土器片がわずかに出土している。

S K 2 J土坑（第26図、図版8-5～7）

1区中央部で出土した。北半部と南端を搅乱によって失う。平面形は推定で長さ150cm、幅120cmの楕円と思われ、深さは30cmである。上部に縄文土器片1点と礫16点が含まれていたが、土器の所属時期は不明である。付近の包含層から勝坂式土器片が1点出土した。

S K 10 J土坑（第26図、図版8-8・9-1）

4区東部で出土した。長軸100cm、短軸80cmの楕円形で、底部は深さ20cmの皿状を呈する。遺物を含まない。付近の包含層から勝坂式及び加曾利E式土器片が複数出土しているが、後者が多い。

S K 11 J土坑（第26図、図版9-2・3）

4区西部で出土した。2m程西側ではS K 12 Jが検出されている。長軸95cm、短軸75cmの楕円形で、底部は深さ30cmの椀状である。遺物を含まない。付近の包含層から阿玉台式土器片が1点出土している。

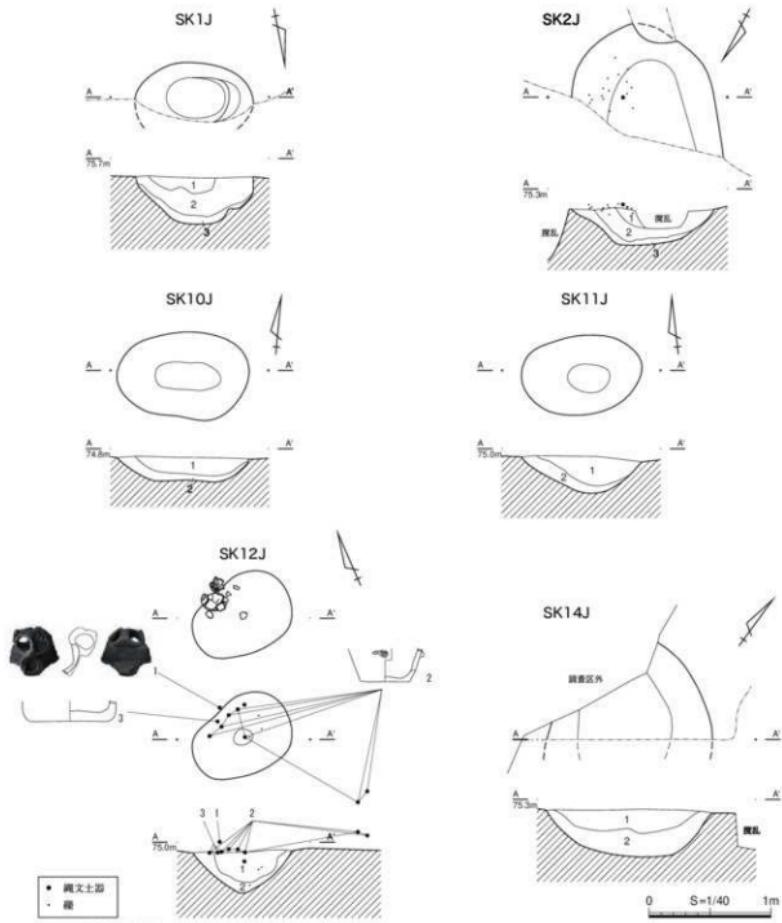
S K 12 J土坑（第26・27図、第13表、図版9-4～6）

4区西部、S K 11 J土坑の2m程西側で出土した。長軸76cm、短軸70cmの楕円形で、底部は深さ30cmの底の狭い椀状を呈する。覆土上部及び付近から、勝坂3式の眼鏡状把手破片と別個体の底部破片2点等が出土した。

1は勝坂3式の深鉢で眼鏡状把手部分である。地文に単節RL縄文を縱方向に施文。爪形文と棒状工具による押圧文を左右交互に施した隆帯が巡り、口縁部は渦巻状に配される。2・3は勝坂式の深鉢底部片である。2は胴部下部に刻み目が施されたボタン状の突起が配される。3は表面・底面ともに無文。

S K 14 J土坑（第26図、図版9-7・8）

4区南西端でS S 4集石土坑の北側に接するように出土した。南半は搅乱によって壊され、北西部は調査区外であり、全貌は不明である。推定で平面形は長軸140cm、短軸130cm程の楕円であり、底部は深さ40cm程の椀状をなす。均質な覆土をもつが、遺物は含まない。この土坑の上ではS S 4集石土坑に関わると思われる礫片が複数出土していることから、本土坑はS S 4集石土坑より古い遺構と考えられる。



SK1J 土坑土層説明

- 1 均質細粒の暗茶褐色土 赤色スコリア細粒が点在。空隙少なく緻密。
- 2 むらのある細粒の茶褐色土 ややローム成分多く、若干の褐色土(II d層)のブロック(径1~2cm)が偏在。概ね緻密。
- 3 著しくむらのある細粒の暗黃褐色土 ロームブロック(径1~3cm)が偏在。若干の赤色スコリア細粒を含む。緻密。

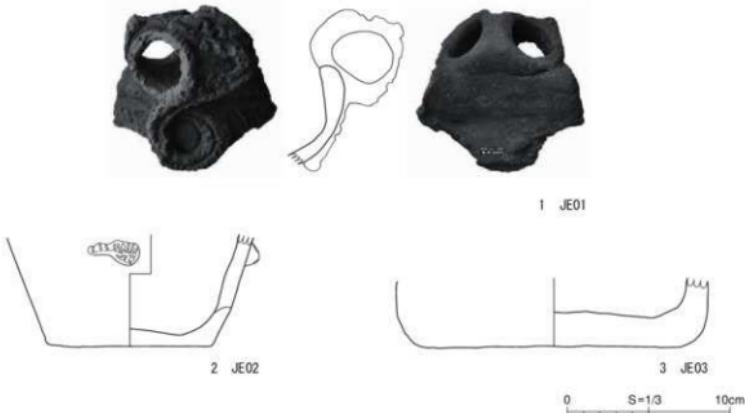
SK2J 土坑土層説明

- 1 均質細粒の暗茶褐色土 若干の赤色スコリア細粒含む。概ね緻密。
- 2 ややむらのある明るめの茶褐色土 ローム・赤色スコリアの細粒が点在。緻密。
- 3 むら多い細粒の褐色~暗茶褐色土 赤色スコリア細粒少量含む。ローム成分多い。緻密。

SK10J ~ 12J ~ 14J 土坑土層説明

- 1 むらのある細粒の暗褐色土 ローム・赤色スコリアの細粒が点在。縄文土器(中期)・焼磧・割離片などを一部に含む。よく緻密。
- 2 著しくむらのある細粒の褐色~暗茶褐色土 赤色スコリア細粒が点在。ローム成分多い。よく緻密。撮形(ソフトローム)との漸移層。

第26図 SK1J・2J・10J~12J・14J土坑



第27図 SK 12 J土坑出土遺物

第13表 SK 12 J土坑出土縄文土器観察表

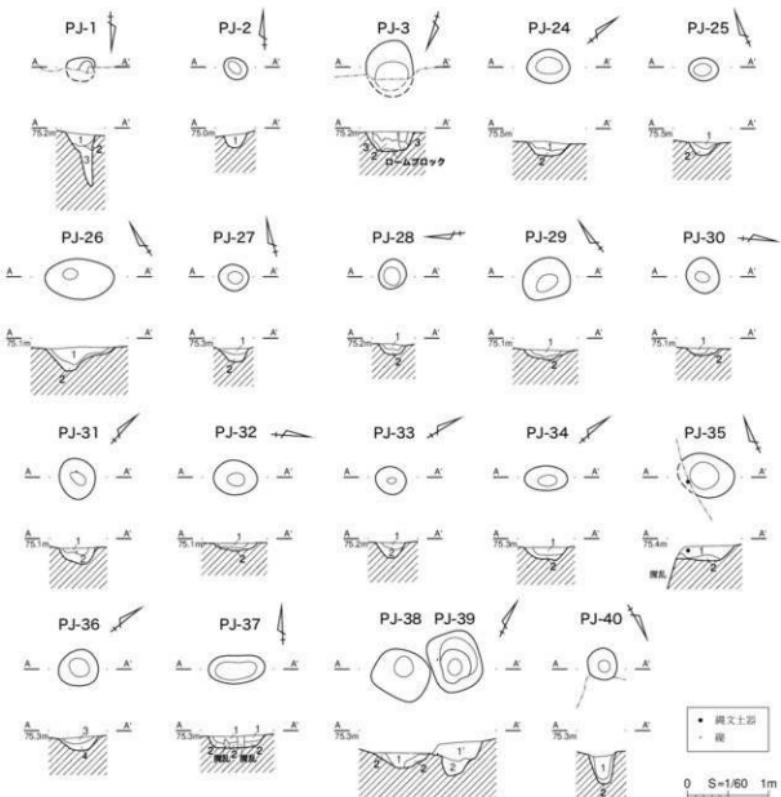
遺物番号 同属番号 同層番号	型式	種別 器種	出土層位	口径 底径 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE01 27-1 17-3-1	舟板3式	深鉢	覆土上層	— [10.3]	口縁部。 把手部分。	環状突起。内面は粗い削き。表面は爪形文と棒状工具による押圧文を左右交互に施した隠帶が通り、口縁部は済作状に配される。地文には單體。圓文が幾方に施される。	暗褐色。胎土は軽く、1mmの大粒の砂粒・金雲母を多く含む。焼成は良好。
2 JE02 27-2 17-3-2	舟板式	深鉢	覆土上層	— [6.9] [10.0]	側部～底部部。	内面は粗い削き。表面は胡麻が施されたボタン状の突起が配される。底面は無文。	灰褐色。胎土は重だが、1mmの大砂利を少層。雲母を微量に含む。焼成は良好。
3 JE03 27-3 17-3-3	舟板式	深鉢	覆土上層	— [4.3] [15.4]	底部。	内面は少々粗い削き。底面は丁寧な削き。表面と底面は無文。	棕褐色。胎土は軽く、1～3mmの大粒の砂粒を多く、雲母を少層。金雲母を微量に含む。焼成はやや不良。

(5) 小穴

P J-1～P J-113小穴 (第28～32図、第14～16表、図版17-4)

縄文時代に属すると思われる小穴は、調査区全体で85基を確認した。径20cm程のものから85cmまで規模は多様であるが、概ね浅く、柱穴と思しき深さのある例はわずかである。いずれも第II層下部から第III層上面にかけて掘り込み面が認められ、第II c層の暗褐色土を主体とする覆土をもつ徑1m以内の土坑群である。1区・2区では殆ど見つからず、大半は3区と4区に散漫に分布する。特別な配列を構成する土坑群は見当たらない。

土坑内部より遺物が出土した例は殆どない。3区北部で出土したP J-35小穴は推定長軸70cm程の浅い皿状土坑であるが、覆土上部より時期不明の縄文土器1点が出土している。



P J - 1 小穴土層説明

- 1 むらの多い暗褐色土 ローム・赤色スコリアの細粒が点在。若干の炭化物細粒も含む。締まり弱い。
- 2 もくらのある暗褐色土 大量のロームを含み赤色スコリア・炭化物の細粒が散在する。締まり弱い。
- 3 むらの多い褐色土 ローム・赤色スコリア・炭化物の細粒が散在。締まり弱い。

P J - 2 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 赤色スコリア含む。締まり強い。

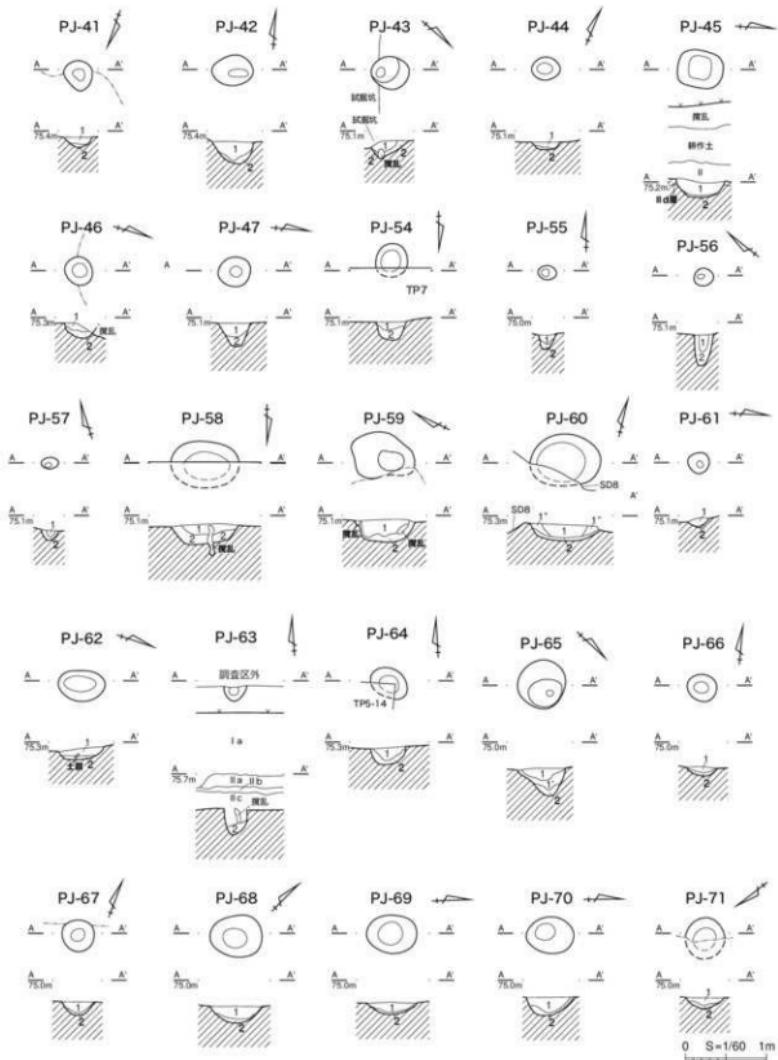
P J - 3 小穴土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。締まり強い。
- 2 茶褐色土 ローム粒多く含む。締まり強い。
- 3 暗茶褐色土 ローム粒含む。締まり強い。

P J - 24 ~ 40 小穴土層説明

- 1 むらのある細粒の暗褐色土 ローム・赤色スコリアの細粒が点在。縄文土器(中期)・焼磚・割磚片などを一部に含む。よく締まる。
- 1' に似るが一部に黒褐色土粗粒を混じ、空隙多くしまりや弱い。P J - 39 小穴のみに見られ、P J - 38 小穴を切るか?
- 2 もくらのある細粒の茶褐色土 赤色スコリア細粒が点在。ローム成分多い。よく締まる。
- 3 ややむらのある細粒の茶褐色土 やや赤みがある。燒けローム・赤色スコリアの粗・細粒が偏在。よく締まる。
- 4 むらのある細粒の明茶褐色土 若干の赤色スコリアを含む。よく締まる。

第 28 図 P J - 1 ~ 3 • 24 ~ 40 小穴



P J - 41 ~ 47 • 54 ~ 71 小穴土層説明

1 むらのある細粒の暗褐色土

ローム・赤色スコリアの細粒が点在。縄文上器(中期)・焼鏃・割離片などを一部に含む。よく縮まる。

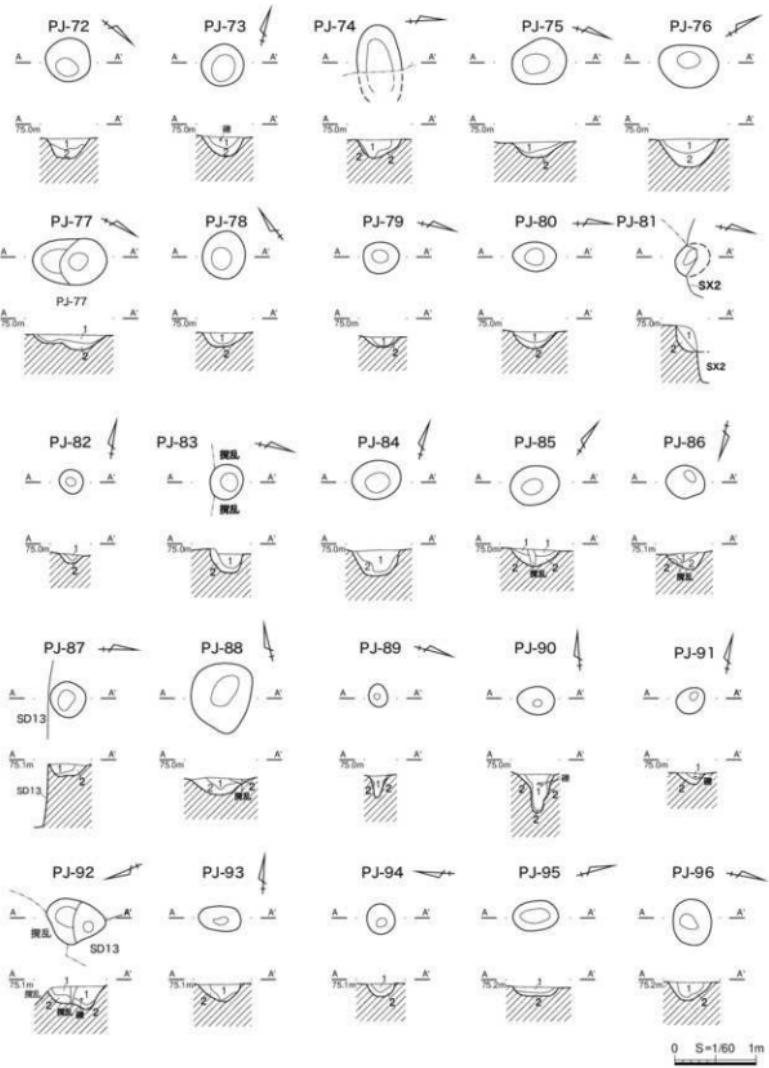
1' 1と2の中間、ややむりあり ローム小ブロック(径1~2cm)が点在。概ね縮まる。

1" 1に似るが茶褐色を呈するもの。

2 著しくむらのある細~微粒の褐色土~暗褐色土

赤色スコリア細粒が点在。ローム成分多い。よく縮まる。

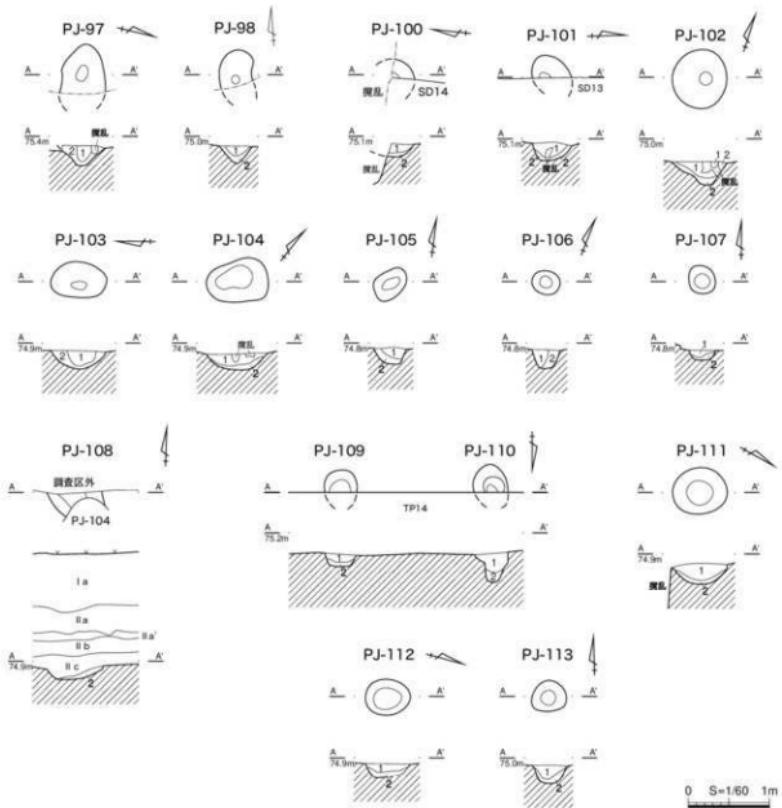
第29図 P J - 41 ~ 47 • 54 ~ 71 小穴



P J - 72 ~ 96 小穴土層説明

- 1 むらのある細粒の暗褐色土
ローム・赤色スコリアの細粒が点在。純文上器(中期)・燒鍊・割離片などを一部に含む。よく結まる。
- 2 著しくむらのある細~微粒の褐色土~暗褐色土
赤色スコリア細粒が点在。ローム成分多い。よく結まる。

第30図 P J - 72 ~ 96 小穴



P J - 97 • 98 • 100 ~ 113 小穴土層説明

1 むらのある細粒の暗褐色土
ローム・赤色スコリアの細粒が点在。圓文土器（中期）・燒鍊・割離片などを一部に含む。よく締まる。

2 著しくむらのある細～微粒の褐色土～暗黃褐色土
赤色スコリア細粒が点在。ローム成分多い。よく締まる。

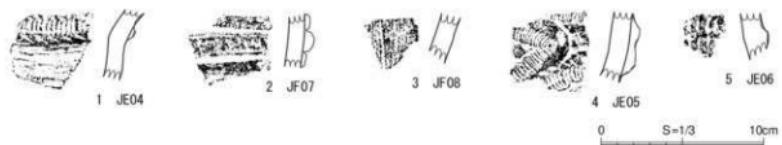
第31図 P J - 97 • 98 • 100 ~ 113 小穴

1はP J - 62小穴覆土から出土した勝板2式深鉢頸部片である。口縁に向かって外反する。横位の隆帶上に刻みを加え、隆帶に沿って爪形文を施す。

2・3はP J - 77小穴覆土から出土した加曾利E式の深鉢である。2は口縁部片で、隆帶による区画を配する。3は胴部片で、条線を縦方向に施す。

4はP J - 84小穴覆土から出土した勝板2式の深鉢胴部片である。隆帶による橢円区画を配し、隆帶上に刻みを加え、区画内は爪形文と波状の角押文を施す。

5はP J - 111小穴覆土から出土した勝板2式の深鉢胴部片である。隆帶を配し、隆帶上と隆帶に沿って爪形文を施す。



第32図 小穴出土遺物

第14表 小穴出土土器観察表

遺物番号 同名番号 既收番号	型式	縹明 器種	出土位置	口径 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JE04 32 - 1 17 - 4 - 1	勝板2式	深鉢	P J - 62	[4.4]	縹部片。 口縁に向かって外 反する。	内面はやや粗い磨き。表面は横位の隆帶を施す。 隆帶上に刻みを加え、隆帶に沿って爪形 文を施す。	暗褐色。胎土は柔らか、綈砂粒・ 雲母を多く含む。焼成は良好。
2 JF07 32 - 2 17 - 4 - 2	加曾利E式	深鉢	P J - 77	[3.2]	口縁部片。	両面ともやや粗い磨き。表面は隆帶による口 縁区画を施す。	赤褐色。胎土はやや粗く、1mm の大砂粒を多く含む。焼成はや や良好。
3 JF08 32 - 3 17 - 4 - 3	加曾利E式	深鉢	P J - 77	[3.0]	胴部片。	両面ともやや粗い磨き。表面は縦方向に条線 を施す。	赤褐色。胎土はやや粗く、1mm の大砂粒を多く含む。焼成は良 好。
4 JE05 32 - 4 17 - 4 - 4	勝板2式	深鉢	P J - 84	[4.2]	胴部片。	両面とも丁寧な磨き。表面は隆帶による橢円 区画を配した後、隆帶上に刻みを加え、区画 内に爪形文と波状の角押文を施す。	暗褐色。胎土はやや粗く、1mm の大砂粒を少しだけ含む。焼成は良 好。
5 JE06 32 - 5 17 - 4 - 5	勝板2式	深鉢	P J - 111	[2.2]	胴部片。	内面やや粗い磨き。表面は隆帶を配した後、 隆帶上と隆帶に沿って爪形文を加える。	黄褐色。胎土は柔らかだが、綈砂粒 を多く含む。焼成は良好。

第15表 縹文時代小穴一覧表(1)

遺構名	調査区	位 置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺 物				重複関係	備 考
								土器	石器	鐵	その他		
P J - 1	1	AA - 28	0.35	(0.18)	0.69	楕円形	V字形					<SD7	
P J - 2	1	O - 29 - 30	0.30	0.26	0.18	楕円形	U字形					<SD7	
P J - 3	1	V - 29	(0.48)	0.57	0.23	楕円形	四レンズ形					北側を擾乱される	
P J - 24	3	AK - 10	0.53	0.42	0.17	楕円形	四レンズ形						
P J - 25	3	AJ - 12	0.37	0.28	0.16	楕円形	四レンズ形						
P J - 26	3	AC - 12	0.85	0.50	0.30	楕円形	階段状					I	
P J - 27	3	AI - 12	0.37	0.32	0.17	楕円形	四レンズ形						
P J - 28	3	AF - 12	0.37	0.33	0.13	楕円形	四レンズ形						
P J - 29	3	AB - 11	0.60	0.50	0.13	不整椭円形	皿状						
P J - 30	3	AC - 11	0.43	0.39	0.09	不整椭円形	四レンズ形						
P J - 31	3	AC - 11	0.51	0.44	0.20	楕円形	四レンズ形					I	
P J - 32	3	AC - 8	0.54	0.43	0.10	楕円形	皿状						
P J - 33	3	AF - 10	0.37	—	0.20	楕円形	階級状						
P J - 34	3	AG - 8	0.53	0.30	0.16	楕円形	四レンズ形						
P J - 35	3	AI - 12	(0.67)	0.52	0.18	楕円形	四レンズ形					西側を擾乱される	
P J - 36	3	AH - 10	0.49	0.44	0.19	不整椭円形	四レンズ形						
P J - 37	3	AH - 11	0.70	0.35	0.17	楕円形	四レンズ形						
P J - 38	3	AG - 13 + 14	0.70	0.6	0.23	椭圓楕円形	階級状						
P J - 39	3	AG - 14	0.73	0.64	0.39	椭圓楕円形	漏斗状か					I	
P J - 40	3	AG - 12	0.40	—	0.56	円形	U字形					北側上部を擾乱される	
P J - 41	3	AH - 10	0.37	0.14	0.14	楕円形	四レンズ形					北側上部を擾乱される	
P J - 42	3	AH - 12 + 13	0.51	0.30	0.30	楕円形	U字形					I	
P J - 43	3	AB - 7 + 8	0.47	—	0.23	円形	階級状						
P J - 44	3	AD - 7	0.35	0.29	0.10	楕円形	四レンズ形						

第16表 繩文時代小穴一覧表(2)

遺構名	調査区	位 置	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	断面形状	遺 物			重複関係	備 考
								土器	石器	鐵		
P J - 45	3	AI - 7	0.54	(0.23)	0.16	楕円形	四レンズ形					
P J - 46	3	AH - 13	0.36	—	0.18	円形	U字形	1				北側上部を掘たる
P J - 47	3	AE - 8	0.40	—	0.29	円形	U字形					
P J - 54	3	AE - 14	(0.30)	0.39	0.22	円形か	U字形					北側を欠損
P J - 55	3	AC - 14	0.23	0.18	0.19	楕円形	U字形					
P J - 56	3	AI - 8	0.23	—	0.39	円形	U字形					
P J - 57	3	AI - 8	0.21	0.14	0.14	楕円形	U字形					
P J - 58	3	AB - 11	0.84	(0.25)	0.25	楕円形か	四レンズ形					北側を欠損
P J - 59	3	AC - 17	0.74	0.56	0.28	不整形	四レンズ形					南側を掘たる
P J - 60	3	AI - 13	0.87	(0.51)	0.23	楕円形か	直状				< SD 8	南側を掘たる
P J - 61	3	AD - 7	0.26	—	0.11	円形	楕円形					
P J - 62	5イ- 14	Y - 42・43	0.58	0.38	0.15	楕円形	直状					
P J - 63	5イ- 14	Y - 42	(0.17)	0.27	0.33	楕円形か	U字形					北側は調査区外
P J - 64	5イ- 14	Y - 43	0.48	(0.24)	0.22	楕円形か	四レンズ形					北内部を欠損
P J - 65	4	O - 18	0.60	—	0.39	円形	V字形	1				
P J - 66	4	P - 18	0.37	—	0.11	円形	四レンズ形					
P J - 67	4	Q - 17	0.39	—	0.16	円形	四レンズ形	1				
P J - 68	4	O - 17・18 P - 18	0.64	0.52	0.22	楕円形	四レンズ形	1		2		
P J - 69	4	O - 17	0.62	0.47	0.16	楕円形	直状					
P J - 70	4	O - 15	0.59	0.45	0.23	楕円形	四レンズ形	1				
P J - 71	4	O - 15	(0.28)	(0.28)	0.13	円形か	四レンズ形					
P J - 72	4	N - 14	0.55	—	0.26	円形	四レンズ形					2
P J - 73	4	N - 14	0.52	—	0.25	円形	四レンズ形					1
P J - 74	4	Q - 15	(0.58)	0.55	0.24	楕円形か	四レンズ形					東側を掘たる
P J - 75	4	Q - 15	0.68	0.56	0.19	不整楕円形	四レンズ形					
P J - 76	4	R - 14	0.73	0.52	0.34	不整楕円形	楕円形					2
P J - 77	4	Q - 14	0.91	0.57	0.19	楕円形	直状 テラス付	2		1		
P J - 78	4	P - 13・14 Q - 14	0.59	0.52	0.17	楕円形	四レンズ形					
P J - 79	4	R - 12・13	0.44	—	0.13	円形	四レンズ形	1				
P J - 80	4	O - 12	0.54	0.36	0.23	楕円形	四レンズ形	1				
P J - 81	4	O - 11	(0.35)	(0.31)	0.32	楕円形か	U字形か	1			< SD 2	北側を5X2に壊される
P J - 82	4	O - 10	0.31	—	0.12	円形	四レンズ形					
P J - 83	4	O - 12	0.41	—	0.30	円形	U字形					南側を掘たる
P J - 84	4	O - 11	0.59	0.48	0.33	楕円形	逆V形	2		1		
P J - 85	4	N - 11	0.60	0.48	0.22	楕円形	四レンズ形	1				
P J - 86	4	N - 11	0.49	0.43	0.22	不整楕円形	四レンズ形	1				
P J - 87	4	N - 9	0.43	—	0.15	不整円形	四レンズ形					
P J - 88	4	M - 14	0.83	0.74	0.26	不整楕円形	四レンズ形					
P J - 89	4	L - 14	0.28	—	0.29	円形	V字形					
P J - 90	4	L - 13・14	0.46	0.35	0.47	楕円形	U字形 埋め外相	1				
P J - 91	4	L - 13	0.37	0.30	0.15	楕円形	四レンズ形					
P J - 92	4	L - 11 M - 11	0.73	0.55	0.30	楕円形	四レンズ形 テラス付	1	2		< SD 13	北側を掘たる S D 13壊される
P J - 93	4	M - 10	0.52	0.31	0.22	楕円形	四レンズ形					3
P J - 94	4	M - 10	0.37	—	0.17	円形	四レンズ形					
P J - 95	4	M - 10	0.56	0.36	0.12	楕円形	直状	1		2		
P J - 96	4	L - 9 M - 9	0.57	0.53	0.23	楕円形	四レンズ形					
P J - 97	4	K - 8	(0.61)	0.56	0.22	楕円形か	楕円状					東側を掘たる
P J - 98	4	N - 13	(0.44)	0.40	0.22	楕円形か	楕円状					
P J - 100	4	M - 11	(0.28)	(0.23)	0.15	円形か	四レンズ形か				< SD 14	南東部を残し廻るとSD 14壊される
P J - 101	4	K - 11	(0.30)	(0.41)	0.22	楕円形か	四レンズ形				< SD 13	東側をSD 13壊される
P J - 102	4	R - 17	0.72	—	0.28	円形	楕円状					
P J - 103	4	Q - 14・15 R - 14・15	0.69	0.43	0.24	楕円形	四レンズ形					
P J - 104	4	R - 13	0.76	0.54	0.22	不整楕円形	四レンズ形				> P J - 108	
P J - 105	4	M - 14	0.45	0.32	0.20	楕円形	U字形					
P J - 106	4	M - 14	0.35	0.29	0.23	楕円形	U字形					
P J - 107	4	O - 15	0.35	—	0.12	円形	四レンズ形					
P J - 108	4	R - 13	(0.29)	(0.60)	0.13	楕円形か	四レンズ形				< P J - 104	北側は調査区外、南側をP J - 104壊される
P J - 109	4	O - 11 P - 11	(0.28)	0.39	0.16	楕円形か	四レンズ形					北側を欠損
P J - 110	4	O - 11 P - 11	(0.35)	0.41	0.37	楕円形か	U字形					北側を欠損
P J - 111	4	P - 15	0.67	0.57	0.26	楕円形	四レンズ形	2	1			
P J - 112	4	P - 13	0.55	0.45	0.16	楕円形	四レンズ形	1				
P J - 113	4	Q - 11	0.44	—	0.22	円形	U字形					

2. 遺物

(1) 繩文土器 (第33~35・39~42図、図版10-1~3・18-1~21-1)

今回の調査で出土した縩文土器・土製品は2,080点を数える。そのうち遺構外からは1,894点が出土した。縩文土器は前期から中期まで認められるが、前期は諸磯b式が1点だけである。時期不明とした土器は、胎土や焼成などから多くは中期に帰属するものと思われる。土製品は中期の土器片鍾1点と土製円盤2点である。

土器全体の分布状況は、1区では調査区中央から南側にかけて分布しており、2区では希薄である。3区は調査区中央から南側を中心に分布しており、4区では調査区西側と中央から東側に多く分布する。こうした遺物の偏った分布状況は、包含層が削平され残存していないことや搅乱によって遺構が壊されていることに関係するものと考えられる。また、4区北西側隅の包含層から、1の猪沢式土器が潰れた状態で出土した(図版10-1)。口縁部から胴部までの土器で底部は見つかっていない。

ここでは、前期諸磯b式、中期前葉落沢式、中期中葉勝坂1~3式、阿玉台Ib~III式、中期後葉加曾利E1~3式、曾利II式の土器と土製品を扱う。土器は勝坂式と加曾利E式が主体を占める。

縩文土器の分類については、諸磯式土器・勝坂式土器・阿玉台式土器-『総覧縩文土器』(2008)、猪沢式土器-『西上遺跡-縩文中期文化の研究-』(1975)、加曾利E式土器・曾利式土器-『縩文中期後半の問題 土器試料集成図集』(1980)の各文献を引用・参考にした。

前期の土器

諸磯b式 (第40図2、第19表、図版19-1)

2は諸磯b式の深鉢胴部片である。縱方向に縩文を施文後、横方向に刻みを加えた浮線文を配する。縩文原体は摩滅のため不明。前期の土器はこの1点だけである。

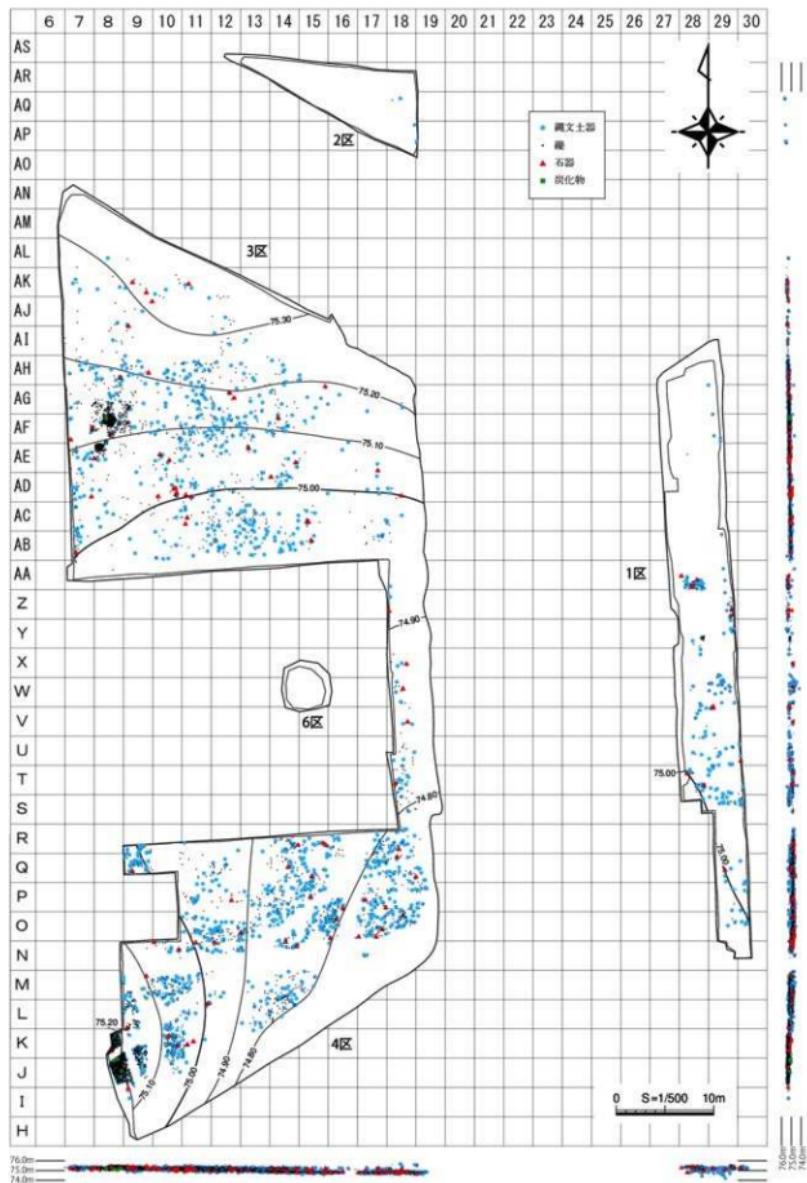
中期の土器

落沢式 (阿玉台Ib式併行) (第39図1、第17表、図版10-1・18-1)

1は落沢式の深鉢である。口縁部-胴部片で波状口縁を呈する。突起部分は3箇所で口縁は外傾する。突起部は両面とも無文で丁寧に磨かれている。この山形突起は二重に配される。口縁部は内面に陵を作る。頸部から胴部にかけては直線的である。口唇部に連續した刻み目が加えられ、波状部の外面1箇所に刻み目を施した耳状の突起が貼付けられる。口縁に沿って三角押文が巡り、口縁部には斜めに角押文が施されるほか、2~3列単位の角押文による三角形の文様が横方向に連続して配される。対になるように反面側にも同じ文様が配される。頸部には2列1組の三角押文が巡る。胴部には二重突起の口縁部から底部に向けて断面三角形の隆帯が斜めに廻る。口縁部の隆帯突端はボタン状に突起する。隆帯片側側面には角押文が、両側には2列1組の三角押文が隆帯に沿って施される。さらに三角押文に沿って三角形の刻み目が施される。蛇を表現したと思われる抽象文で、隆帯は胴体、ボタン状突起は頭、そして二重突起は口を開けている様とみられる。隆帯右側は一部無文である。胴部には縩方向の2列1組の三角押文と角押文、横方向の三角押文と角押文によって大きな区画が配される。区画内は角押文による縩方向の2組の楕円形と半円形が描かれ、さらに楕円形内に角押文による楕円形と半円形が施される。反面側にも対になるよう同じ区画が配されるが、区画内には2列1組の角押文による楕円形が3組縩方向に描かれる。楕円形内は角押文によって円形や縩方向の楕円形が描かれる。胴部下半には2列1組の三角押文が円形に施文される。

勝坂式 (第40・41図3~38、第18・19表、図版19-1)

3~12は勝坂I式に分類される。3~5、8~12は深鉢、6・7は浅鉢である。3~9は口縁部片である。7・8の口縁は、くの字状に屈曲し内傾する。10~12は胴部片である。いずれも文様は角押文や爪形文で構成されている。



第33図 繩文時代遺物分布図

13～32は勝坂2式に分類される。いずれも深鉢で、13・14は口縁部片、15～32は胴部片である。13～28・30・31は隆帯による区画を配する。13～16・21・23～27は隆帶上に爪形文、刻み目、押圧文が施される。さらに14・21は隆帯に沿って爪形文が巡る。17～20・22は隆帯に沿って爪形文が施される。23～27は隆帯に沿って沈線が施される。28・30・31はパネル文が配される。28は隆帯と集合沈線による区画が配され、区画内は円形刺突文が縱方向に施される。30は刻目のある隆帯区画内に爪形文が施される。30は刻目のある隆帯に沿って沈線が巡り、区画内に円形刺突文が充填される。29は角押文、三角押文、爪形文が施文される。32は底部に近い胴部片である。2本1組の沈線による懸垂文が配され、脇に爪形文が縱方向に施される。

33～35は勝坂3式に分類される。いずれも深鉢口縁部片で、33・34は突起部分である。33はヘラ状工具による刻み目が施された隆帯が渦巻状に配される。34は耳状の突起である。突起中央に、棒状工具による押圧文が左右交互に施された隆帯が、縱方向に配され、隆帯に沿って沈線が巡る。35は隆帯がV字状に配される。口唇部内側に刻み目を施す。

36～38は勝坂式の深鉢である。36・37は口縁部片で、37は波状口縁である。38は胴部片である。36は横方向に沈線が施文される。37は棒状工具による連続押圧文が施される。38は縦方向に垂直と波状に沈線が施文される。

阿玉台式（第41図39～47、第18表、図版19-1）

39～41は阿玉台I b式に分類される。39は浅鉢の口縁部片で、くの字状に屈曲し内傾する。40・41は深鉢胴部片である。文様はいずれも隆帯による楕円区画を配する。39は隆帯に沿って区画内に2列の角押文が施される。40は隆帯に沿って角押文が施される。41は隆帯に沿って角押文が施され、区画内に横方向の波状沈線が施文される。金雲母を多く含む。

42・43は阿玉台II式に分類される。深鉢胴部片で、金雲母を多く含む。42は横方向の波状沈線と隆帯による区画を配する。区画内は隆帯に沿って角押文が施される。43は縦方向に隆帯を配し、横方向に爪形文が施される。

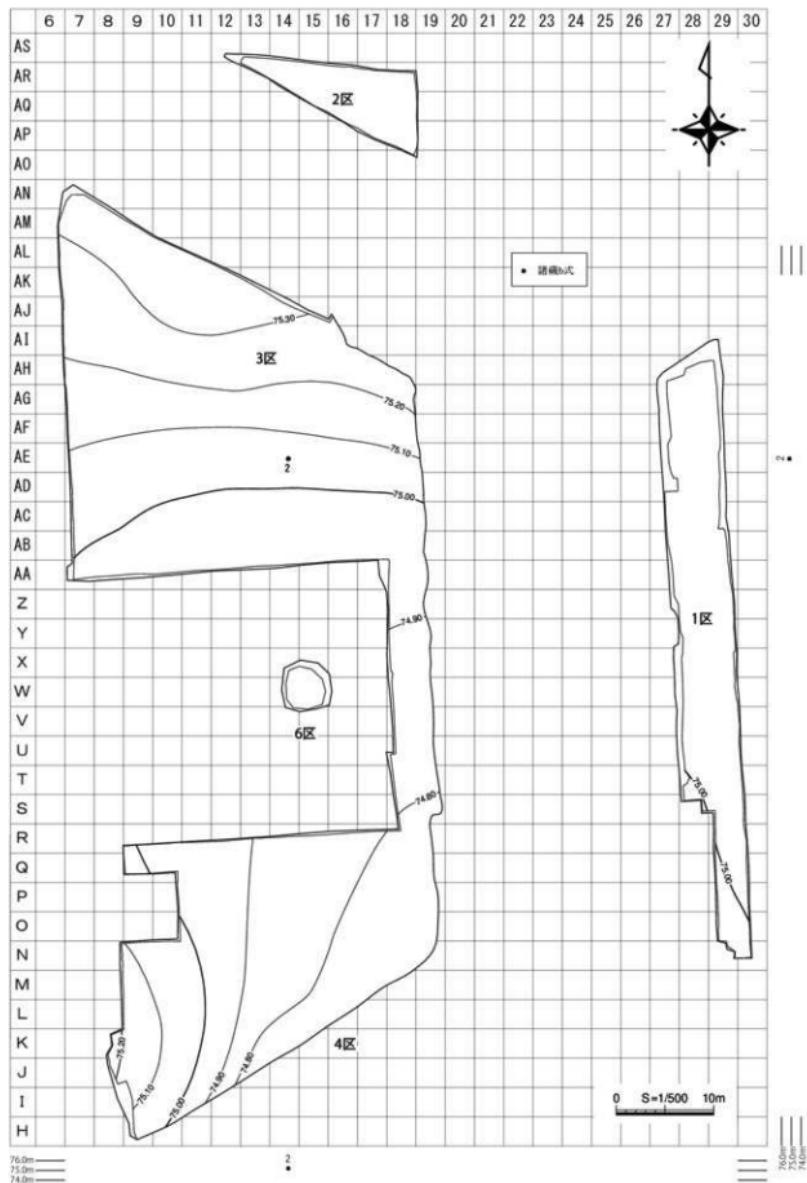
44・45は阿玉台III式に分類される。深鉢口縁部片で、くの字状に外傾する。金雲母を多く含む。44は口唇部に刻み目を施した隆帯を貼り付け、口縁部に2列の角押文が斜めに施される。45は口唇部直下に横方向の角押文が波状に施文される。

46・47は阿玉台式の深鉢胴部片である。金雲母を多く含む。46は横方向に2列の連続爪形文が施される。47は斜めに4本1単位の角押文が施され、下位にやや幅広の爪形文が連続して配される。

加曾利式（第41・42図48～93、第19～21表、図版19-1～21-1）

48～52は加曾利E1式に分類される。深鉢で、48～50は口縁部片で、48・50は内傾する。49は突起部分である。51は胴部片、52は頸部片である。48は隆帯による口縁楕円区画を配する。区画内は単節LR繩文が縦方向に施文される。49は突起上面に蔽手状の沈線が施される。口縁部には隆帯による楕円形区画を配するものと思われる。地文に撚糸rを施文する。50は隆帯による渦巻き状の口縁区画を配する。51は地文に単節RL繩文を縦方向に施文後、隆帯による渦巻き文が縦方向に配される。52は胴部との境に粘土紐が横方向に波状に配される。頸部は無文。

53～78は加曾利E2式に分類される。深鉢で、53～58は口縁部片、59～63は口縁部～頸部片である。64～77は胴部片、78は底部片である。53～58は隆帯による口縁区画を配する。区画内は繩文や撚糸文が充填される。59～63は隆帯による口縁区画を配し、区画内は繩文や撚糸文が充填される。頸部は無文。64・65は隆帯による区画を配する。64の区画内は単節RL繩文、65の区画内は撚糸rを充填する。66は沈線による区画を配する。地文は単節RL繩文。68～72は地文に繩文が施され、沈線が配される。73・74は無文に沈線が施文される。75・76・78は地文に繩文が施され、隆帯が配さ



第34図 前期土器分布図

れる。77は無文に隆帯と沈線が施文される。

79～93は加曾利E3式に分類される。深鉢で、79は口縁部片、80～93は胴部片である。79は地文に撲糸Iが横向に施され、2本の平行沈線による口縁区画を配する。区画内は磨り消されている。80は地文に撲糸Iが縱方向に施され、横向に平行沈線が配される。81・82は地文に単節RL縄文が縱方向に施され、81は縫手状に、82は渦巻き状に沈線が施文される。83は地文に単節RL縄文が縱方向に施された後、周りを磨り消して区画を描出している。84～90は沈線による懸垂文が施される。地文は84・86・88が単節RL縄文、85が撲糸r、87が撲糸Iである。84～88は沈線間を磨り消している。89は縱方向に平行沈線が、90は縱方向に2本1単位の沈線間に条線が施される。91は縱方向に条線が波状に施された後、隆帯を縱に貼り付け両脇を磨り消している。92は地文に単節RL縄文が縱方向に施された後、縱方向の沈線による縫手文と区画文が配され、区画内を除き磨り消している。93は地文に単節RL縄文が縱方向に施された後、周りを磨り消して横向と縱方向の隆帯によって文様を描出している。縱方向に一部縄文を残す。

曾利式（第42図94～101、第21表、図版21-1）

94～101は曾利II式に分類される。深鉢胴部片である。94～96は縱方向に沈線が施された後、粘土紐が貼り付けられる。97～99は縱方向に沈線が施された後、隆帯が縱に配される。100・101は縱方向に沈線が施される。

中期の土器（第42図102・103、第21表、図版21-1）

102・103は中期の深鉢底部片である。102は底面に網代痕。103は表面・底面とも無文である。

土製品（第42図104～106、第22表、図版21-1）

104～106は土製品である。中期の所産と考えられるが、詳細時期は不明である。104は土器片錐で、抉りが一か所である。片側が破損しているため、本来は左右に抉りがあったものと思われる。105・106は土製円盤である。105は無文土器を利用。両面とも丁寧な磨き。106はRL縄文土器を利用。内面は未調整。

（2）石 器（第33・36・37・43～50図、図版10-3～8・21-1～25-1）

今回の調査で出土した縄文時代の石器は総数111点である。殆どが第II層より出土しており、遺構覆土に含まれていたものは11点で、うち7点は歴史時代の遺構に混入したものである。

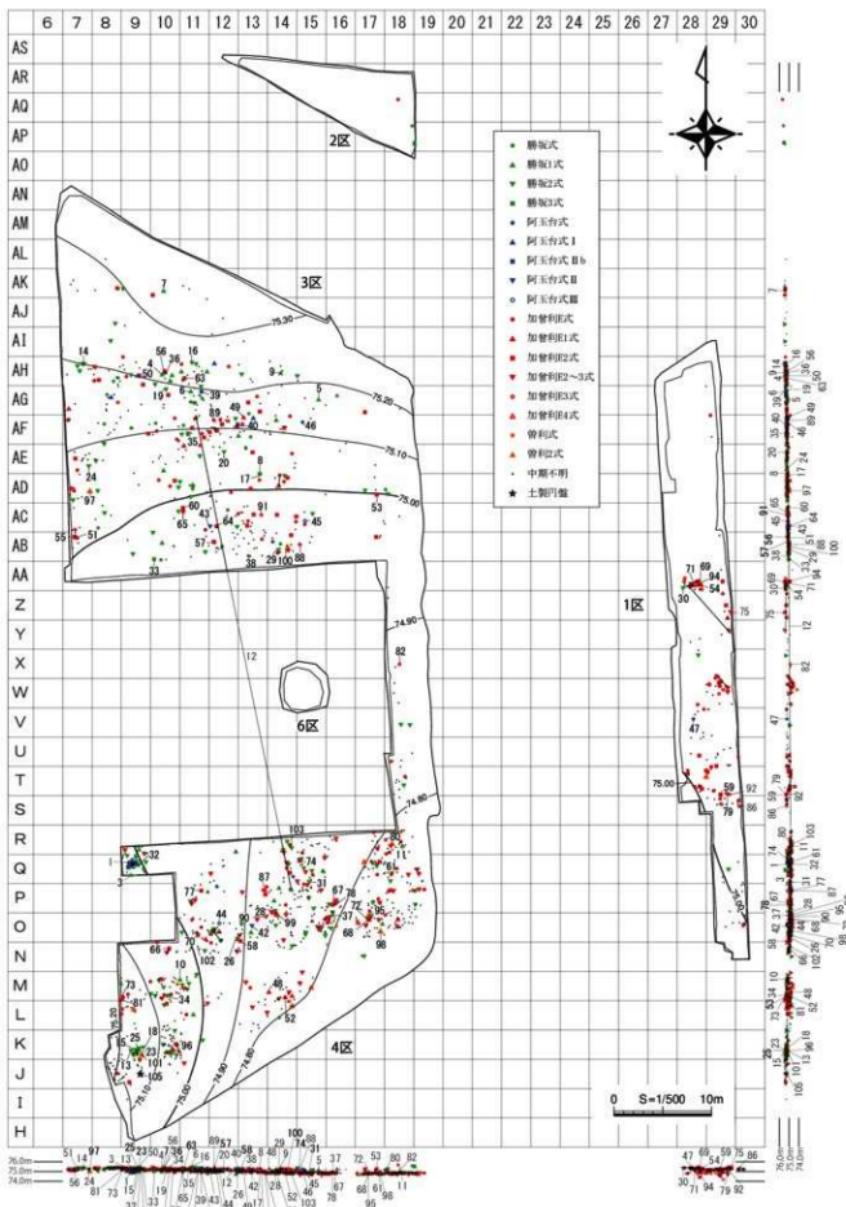
平面分布は全体的に散漫であり（第33・36・37図）、集中箇所は特に見られず、単独出土が中心である。大小の打製石斧2点（第44図113・114）が近接して出土しており、注目される。器種は打製石斧が61点出土するなど最も多く、出土石器全体の55%を占めている。さらに特筆すべき石器としては、未完成の尖頭器が3区で出土している。以下に主な石器を図示し、説明する。

尖頭器（第43図107、第23表、図版21-1）

ホルンフェルス製の未成品である。3区中央部の第II層下部より出土した。長さ12cmと大ぶりで、左右両側縁に部分的な調整を施すが、素材の厚みを嫌ったものか、あるいは下半部の不整形の故か、完成に至っていない。右側縁から表面に向けて4回の大きな剥離が見られるが、いずれも中央の稜線まで達しておらず、素材の厚みを減じる試みに失敗して製作を諦めた可能性がある。

スクレイパー（第43図108、第23表、図版21-1）

108は漆黒の黒曜石を用いたスクレイパーである。縦長剥片を素材とし、右側縁から裏面に調整を加え刃部とするものである。左側縁下部にも裏面への調整が入るため、ビエス・エスキューとも見られるが、明確な刃部を造り出していることから、スクレイパーに分類した。



第35図 中期土器分布図

打製石斧（第43～47図109～128、第23表、図版21-1～23-1）

109はホルンフェルス製の重量感のある完形品である。下部の大きく張り出した面を表面とすると、原礫面は裏面となる。右側縁の抉りがやや大きいが、概して撥形と見るべきであろう。全面が風化する。

110は大ぶりな砂岩の製品で、上部を欠損する。刃部には細かい調整を加えるが、鋭くない。刃部と両側縁の中央部に潰れが見られる。

111は砂岩製で、薄手の偏形刃部をもつ。破断したかに見える頭部には表面側から調整が入ることから、完成品と見られる。

112は砂岩製で頭部を欠損する。刃部にやや磨耗が見られる。

113は砂岩のやや大ぶりな製品で、頭部と下部を欠損する。両側縁のやや内湾する部位に若干の潰れが見られる。114と共に（距離13cm）出土した（図版10-5）。

114は砂岩製の小型品で刃部の一部を欠損する。113と共に出土した。

115は砂岩の厚みのある製品で、下部を欠損する。両側縁中央部にわずかな潰れが見られる。

116は砂岩製で頭部と刃部を欠く。両側縁の内湾部に顕著な潰れがある。わずかに残った刃部右端は磨耗痕を示す。

117は砂岩製で刃部を欠損する。裏面に大きく摺理面を残す。

118は片麻岩の表皮剥片を素材とする。頭部を欠損するが、これは左側縁から裏面への粗削り加工の結果とも見られる。刃部はやや磨耗し、両側縁中央部に若干の潰れが見られる。

119はホルンフェルス製の小型品で、簡略な調整によって作られており、刃部の一部を欠損する。全面が風化する。

120もホルンフェルス製の小型品で、刃部を欠損するが、破損後に左端を加工している。

121は砂岩製の完形品で、刃部全体と頭部が顕著に潰れており、再三の使用に供された形跡か、あるいは敲石に転用されたものとも考えられる。両側縁にも若干の潰れが見られる。

122は破損した砂岩の大型品で、上部と刃部を欠損する。いずれにも再加工が施されており、礫器などとして再生を試みた可能性がある。

123は砂岩製で刃部を破損する。刃部裏面には顕著な潰れが見られるため、使用の結果破損した事が伺える。両側縁の中央部に顕著な潰れが観察される。

124は砂岩製の大型品と思われ、摺理面破損によって上半部を欠く。刃部はやや磨耗する。全面が赤化しており、破損後に被熱したものと思われる。

125は砂岩製で上部を欠損するが、破損面周縁には垂直方向に多くの小剥離が観察されることから、破損後に小型のスタンプ形石器のような敲打具として再利用された可能性が高い。また右側縁から刃部にかけて連続した顕著な潰れが見られ、敲打使用による結果と目される。

126は砂岩製の大ぶりな破損品で、上部を欠損する。周縁部を細かく調整したもので、大きな剥離による調整は施さない。刃部に若干の磨耗痕が見られる。

127は5区の14号トレンチから出土したもので、粘板岩を素材とするやや小振りな完形品である。刃部の一部に磨耗痕を帯び、右側縁中央部には潰れが見られる。

128も127と共に5区の14号トレンチから出土した、砂岩製の薄手な製品である。上部と刃部を欠損する。刃部は摺理面破損しており、若干の加工を加えた形跡があるため、これが完成形の刃部である可能性もある。両側縁中央部に潰れが見られる。

磨製石斧（第47図129、第23表、図版24-1）

花崗斑岩製の磨製石斧の頭部破片である。両側縁には粗い磨きが施されるが、表裏面は磨かれておらず、あるいは未完成の可能性もある。

礫 器（第47図130・131、第23表、図版24-1）

130は礫岩を素材とする。ほぼ全面に剥離面で覆われており、石核のようにも見えるが、明らかな刃部の造作が見られるため礫器とした。重量感のある両面礫器である。左側縁の一部に潰れが見られる。

131はホルンフェルスの円礫を素材とした片面礫器である。刃部は一回の打撃によって造り出される。全面が風化し、原礫面には著しい凹凸が見られる。

スタンプ形石器（第48図132・133・第49図134、第23・24表、図版24-1）

132は砂岩製の完形品である。大型礫の両側縁に剥離と敲打が加えられ、握りやすい太さに加工される。底面は複数回の調整によって形成され、周縁には使用痕と思われる垂直方向の剥離痕が複数見られる。この剥離痕は表裏面に少なく側面下部に集中している。これは、底面の左右両端が中央部よりやや下に突き出しており、敲打使用に際して両端が最もダメージを受けやすいためと考えられる。

133は閃緑岩製で上半部を欠損する。両側縁に剥離と敲打痕を帯び、2回の打撃によって底面が造り出される。底面の凸部は著しく潰れており、使用痕と目される。底面周縁には垂直方向の剥離痕が複数見られ、これも使用痕跡と考えられる。これらの剥離痕は表面側に殆どなく、側面から裏面に集中するが、これは底面がやや傾斜しており、表側より裏側が下方にやや突出しているために片当たりした結果と考えられる。

134は上半部を欠損する。砂岩の大型礫を素材とし、両側縁に剥離と敲打を施して握り部分を調整する。底面は一回の打削によって形成され、裏面側から若干の調整を加える。底面中央の凸部には潰れが顕著に見られ、周縁には垂直方向の小剥離痕が複数観察される。これらの剥離痕は表面側に集中するが、これは27と同様、底面のわずかな傾斜に起因するものであろう。右側縁の底面からの大きな剥離も、使用による結果である可能性がある。尚、裏面中央に不整橢円形の敲打痕を帯びる。

磨 石（第49図135、第24表、図版24-1）

135は泥岩製の磨石の破片である。表裏面に若干の擦痕が見られ、右側縁には顕著な敲打痕を帯びる。石材が閃緑岩などに比べて比較的軟らかいため、その用途に興味が持たれる。

敲 石（第49図136～138、第24表、図版24-1・25-1）

136は断面カマボコ状の細長い砂岩の円礫を素材とする。両側縁と上下端に剥離痕を帯び、上下端には敲打痕も伴う。側縁の剥離痕は比較的均等な深さに施され、また下方から上方へと連続していることから、敲打使用の結果というより意図的な剥離調整痕とも考えられるが、その目的は定かでない。上下端の敲打痕をもって敲石に分類した。

137は粘板岩の細長い小型円礫を素材とし、上下端からの剥離痕を帯びる。いずれの剥離痕も単発であり、明白な敲打痕は見られないため、繰り返し使用した道具とは考えにくい。

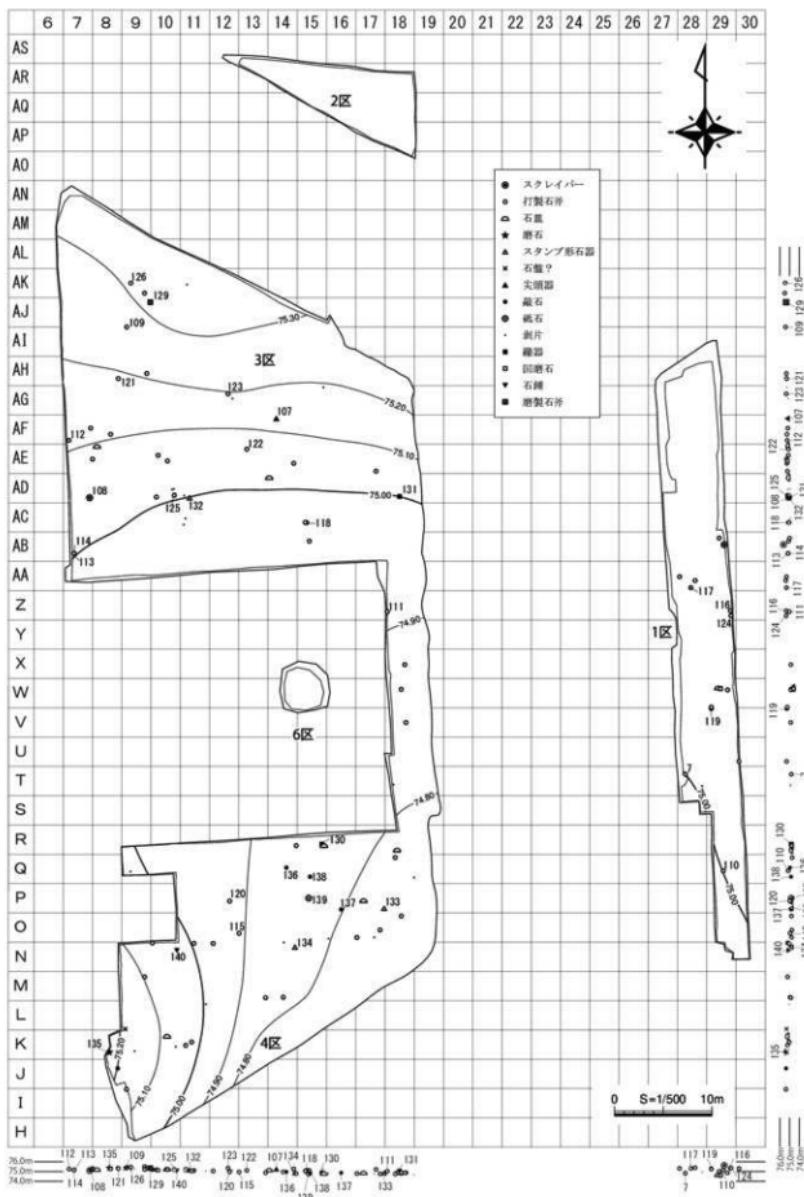
138はチャートの扁平な小型円礫である。下端に敲打痕を帯びる。

砥 石（第50図139、第24表、図版25-1）

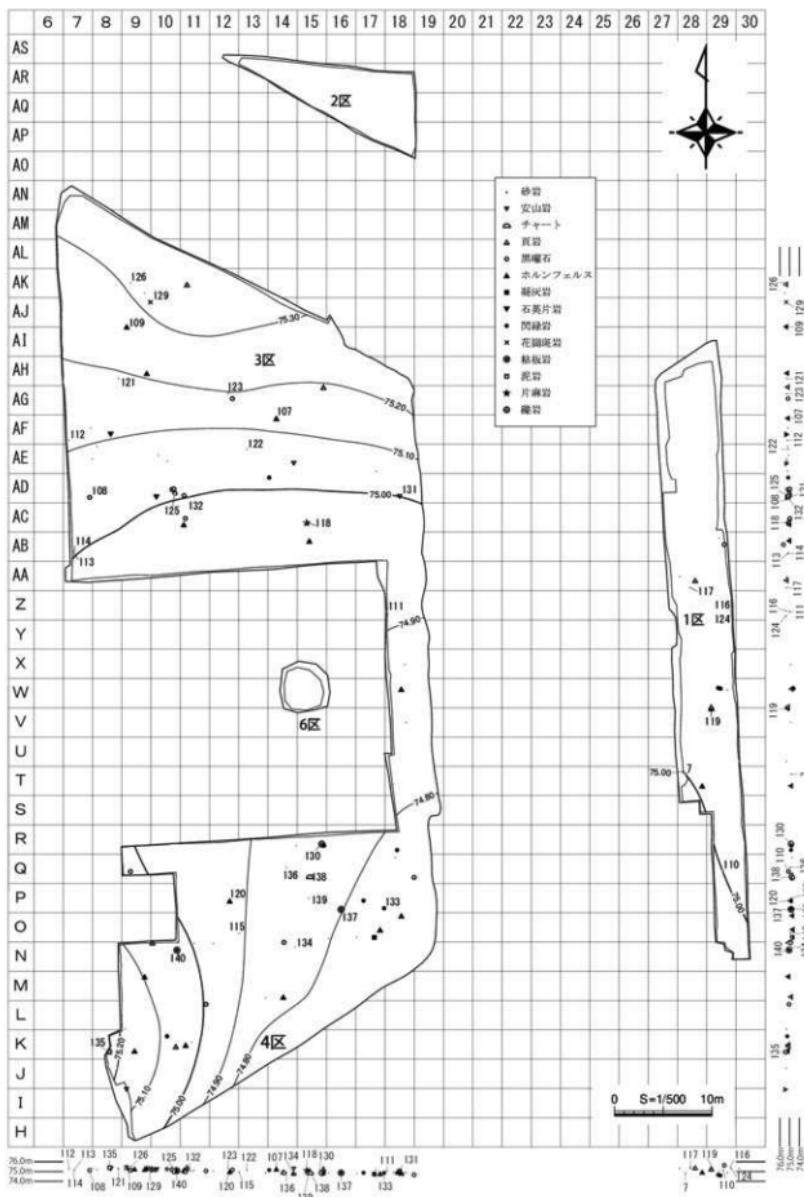
砂岩の大型礫の平坦面中央部に、滑らかに磨かれた浅い溝を帯びる資料である。4区北部の第II層から単独で出土した。裏面に径1cm程の不整な凹みをもつ。

石 錘（第49図140、第24表、図版25-1）

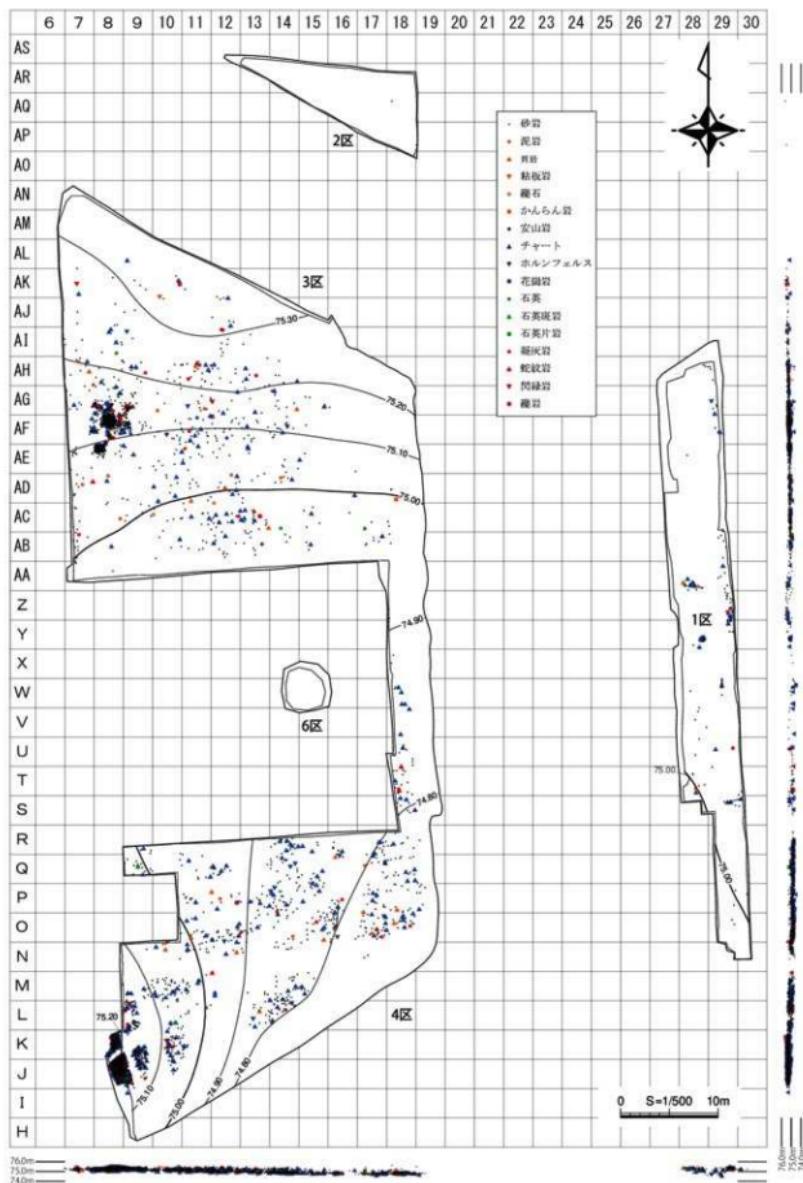
140は粘板岩の扁平な小円礫を素材とする。上下端に剥離を加え、凹んだ「紐掛け」を造作する。下部には複数の連続した剥離痕があるため、小型の儀器のようにも見えるが、これは下端からの最初の加工によって裏側の摺理面破損が生じ、下部の整形を余儀なくされた結果と考えられる。



第36図 石器種別分布図

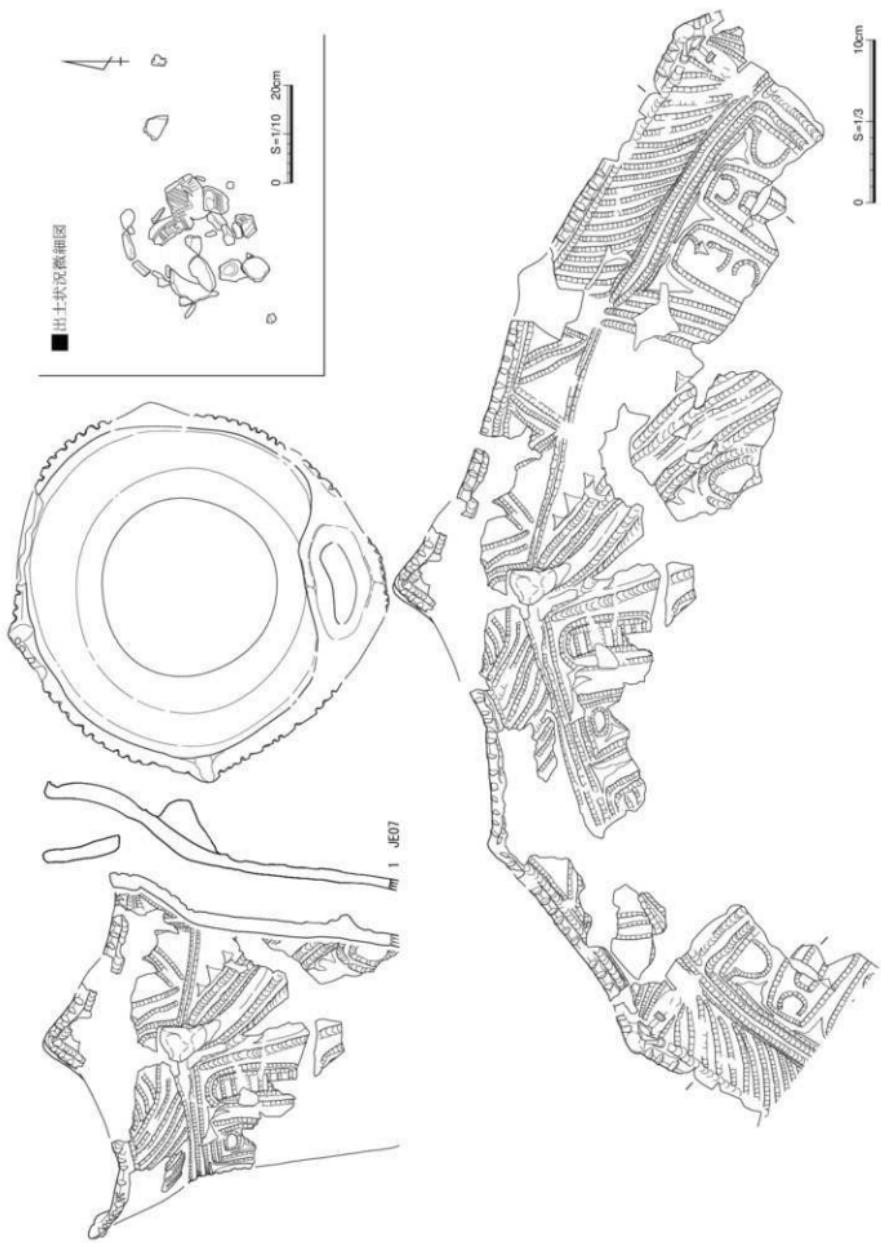


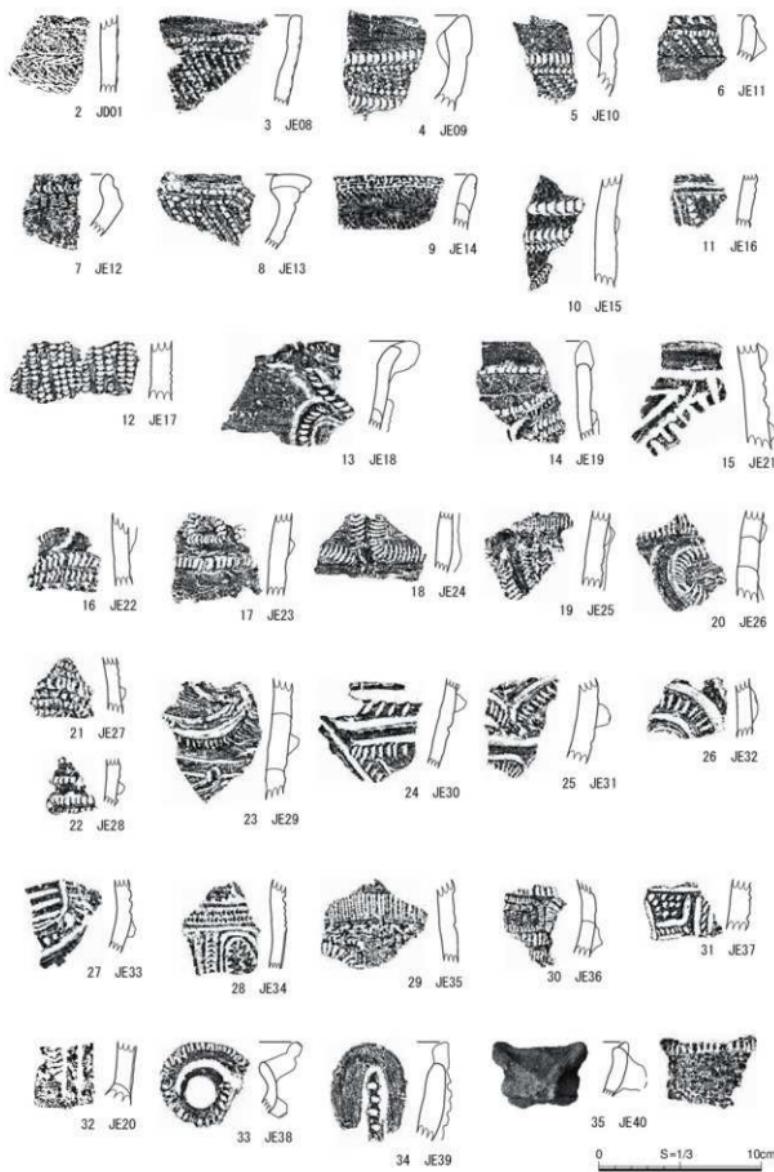
第37図 石器石質別分布図



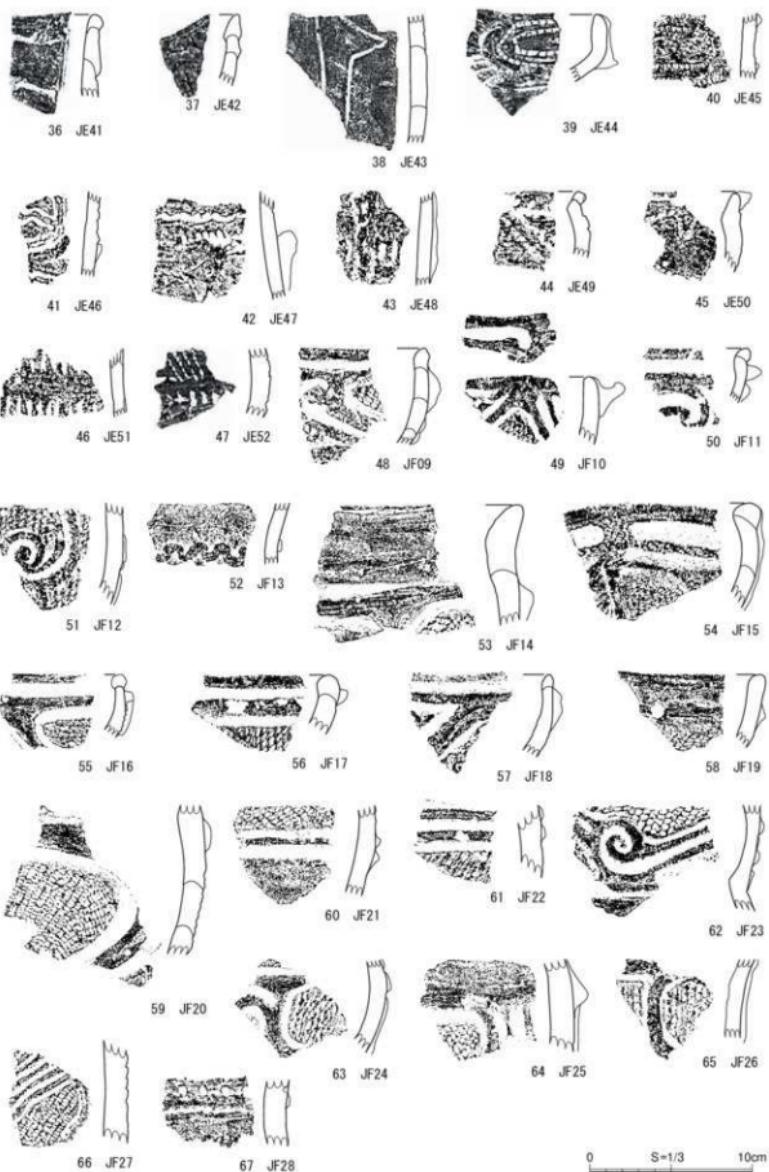
第38図 碓石質別分布図

第39図 遺構外出土遺物（1）

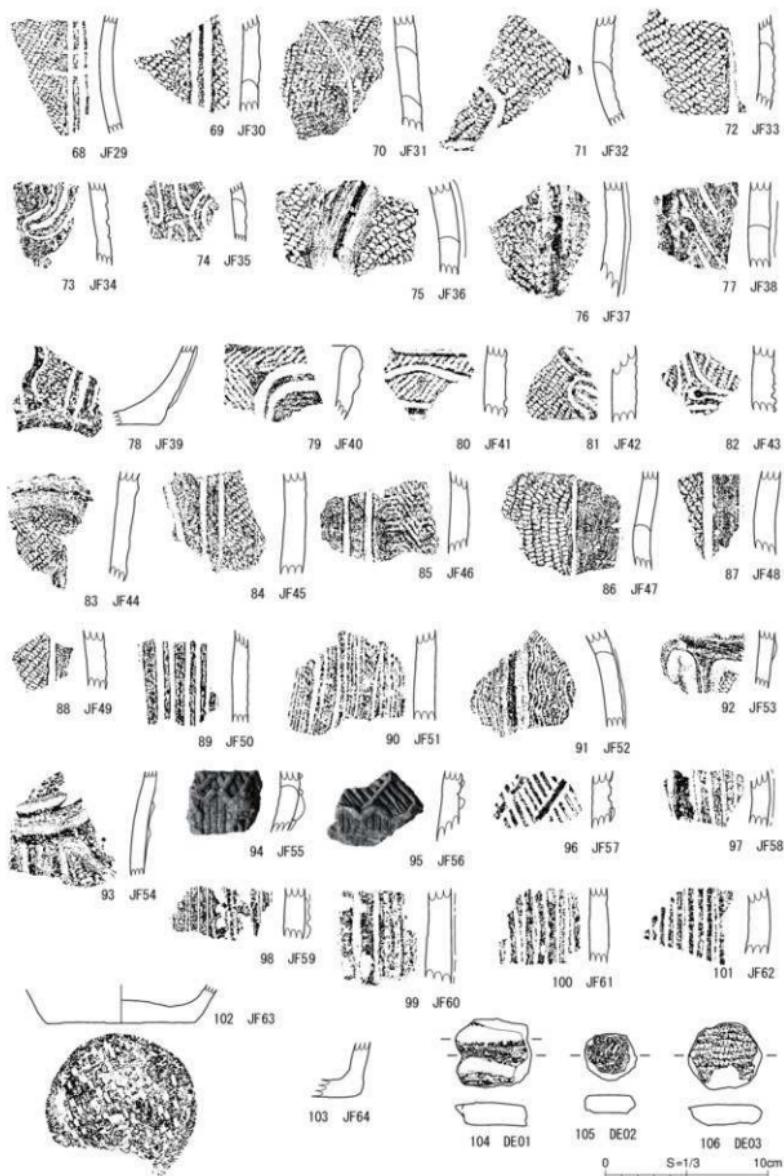




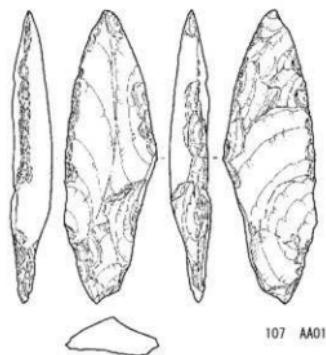
第40図 遺構外出土遺物（2）



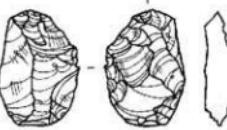
第41図 遺構外出土遺物（3）



第42図 遺構外出土遺物（4）

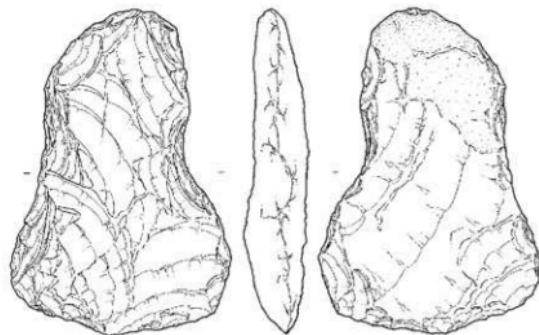


107 AA01

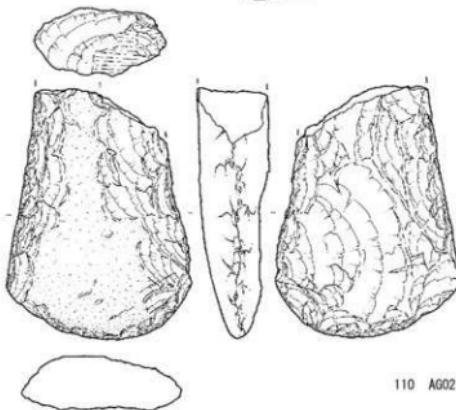


108 AD02

0 S=1/1 2cm



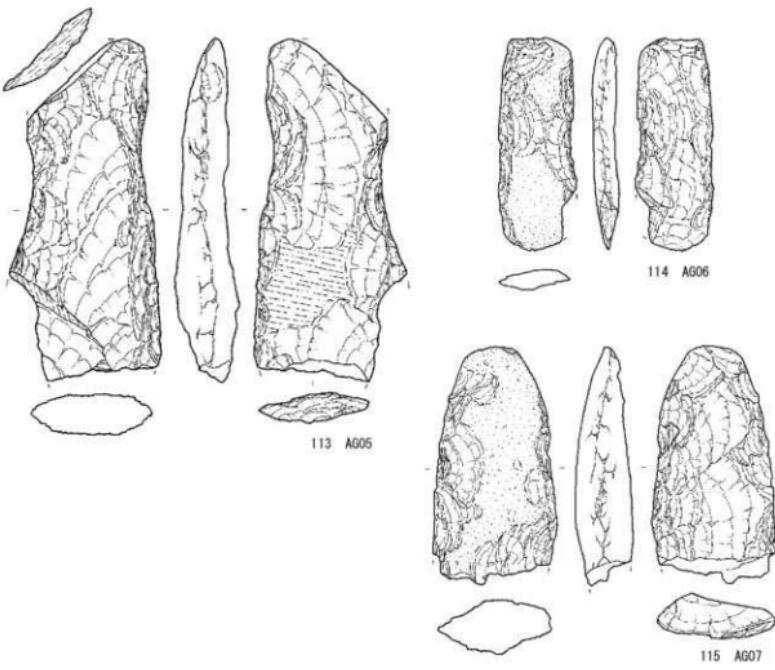
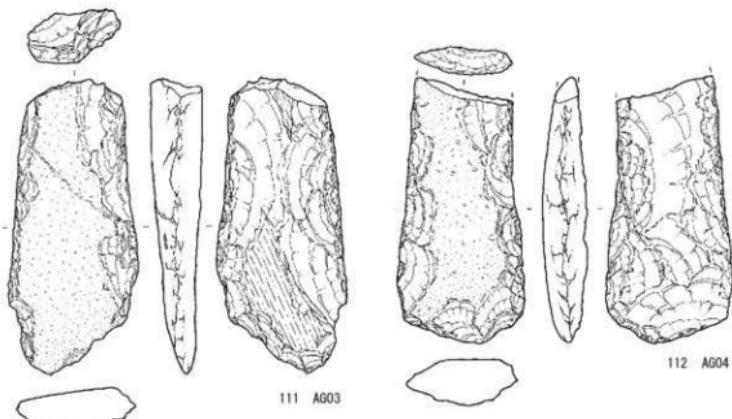
109 AG01



110 AG02

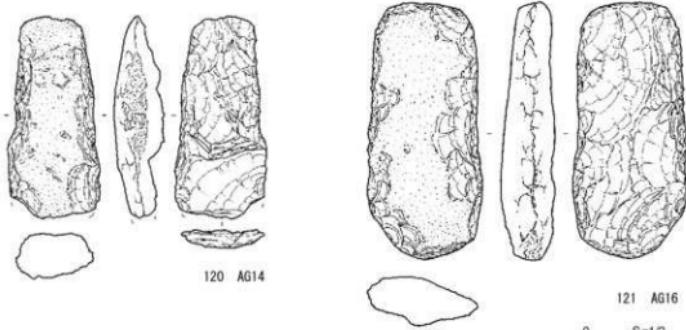
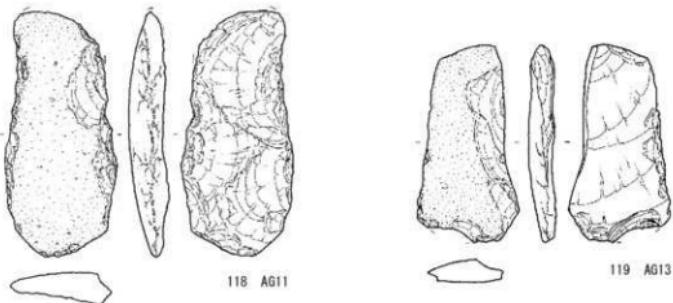
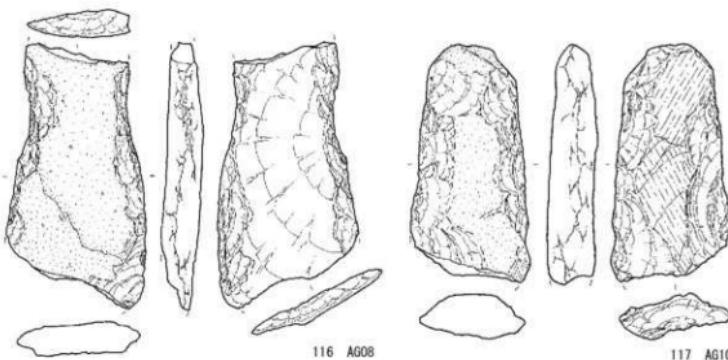
0 S=1/2 5cm

第43図 遺構外出土遺物(5)



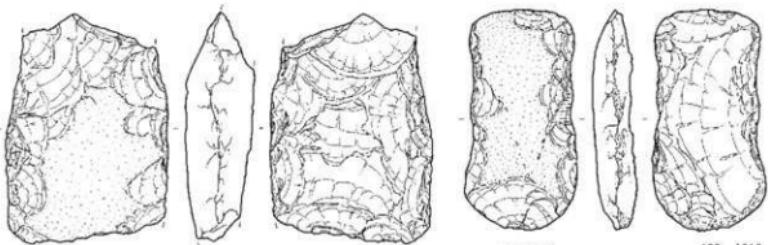
0 S=1/2 5cm

第44図 遺構外出土遺物（6）



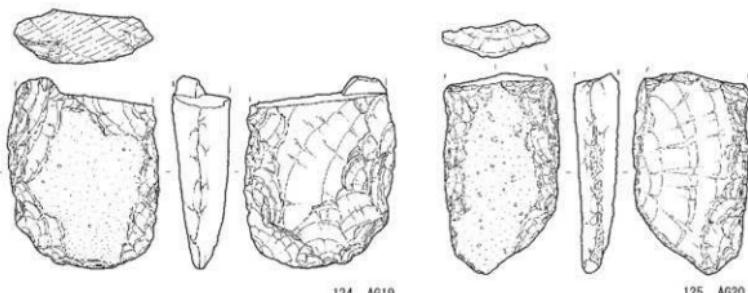
0 S=1/2 5cm

第45図 遺構外出土遺物（7）



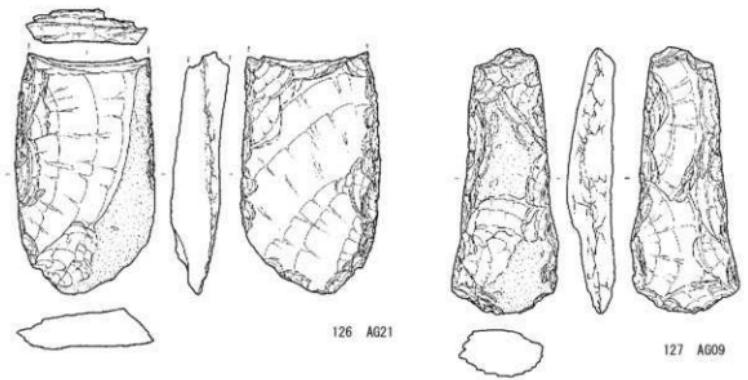
122 AG17

123 AG18



124 AG19

125 AG20

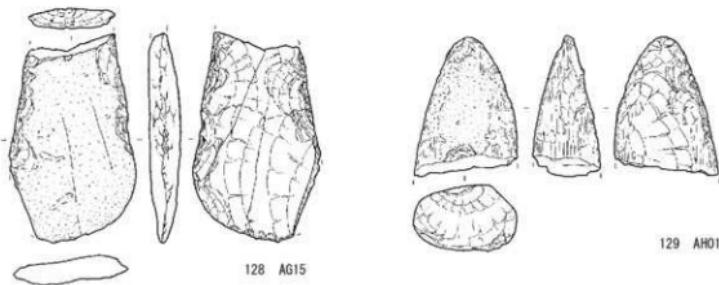


126 AG21

127 AG09

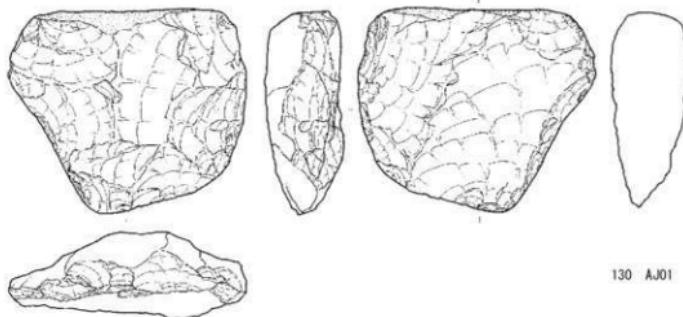
0 S=1/2 5cm

第46図 遺構外出土遺物(8)

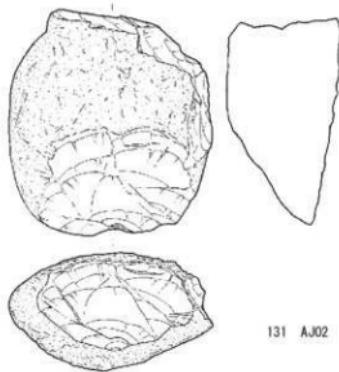


128 AG15

129 AH01



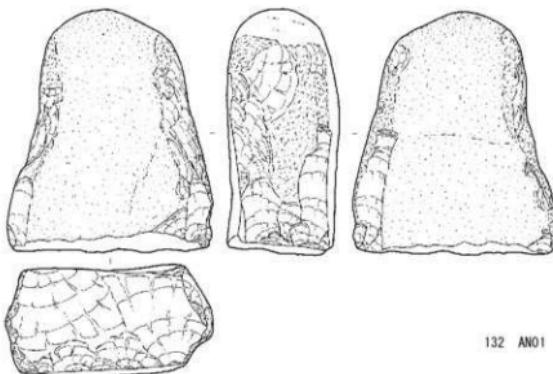
130 AJ01



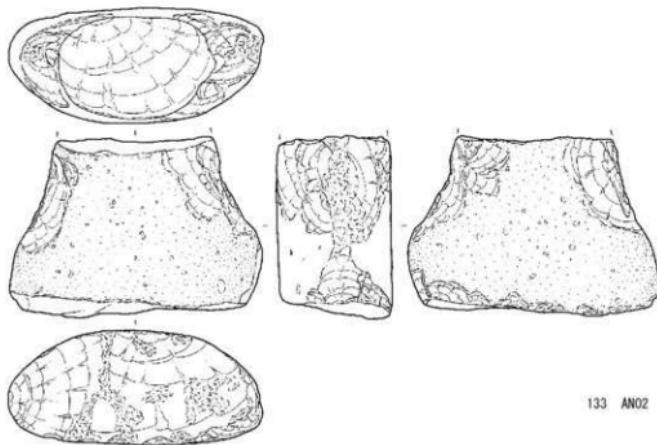
131 AJ02

0 S=1/2 5cm

第47図 遺構外出土遺物（9）



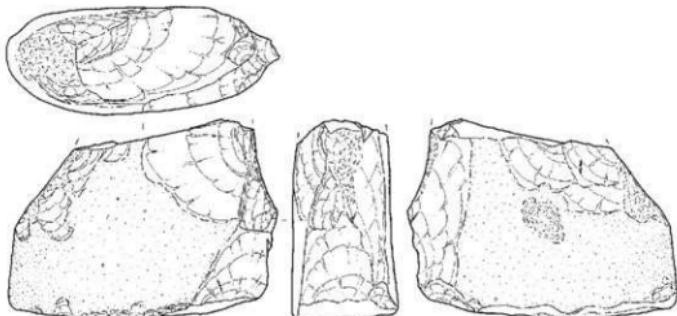
132 AN01



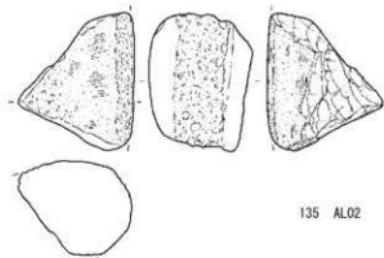
133 AN02

0 S=1/2 5cm

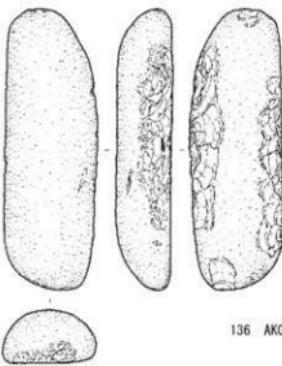
第48図 遺構外出土遺物 (10)



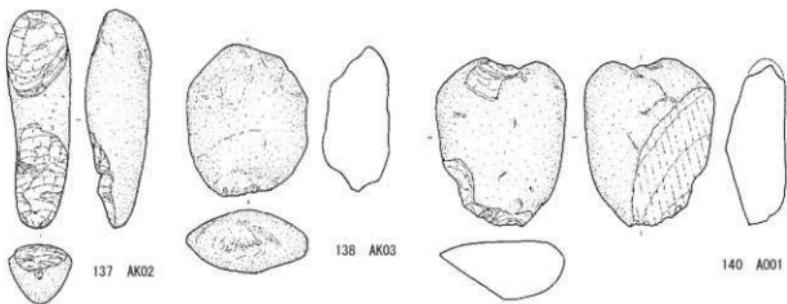
134 AN03



135 AL02



136 AK01



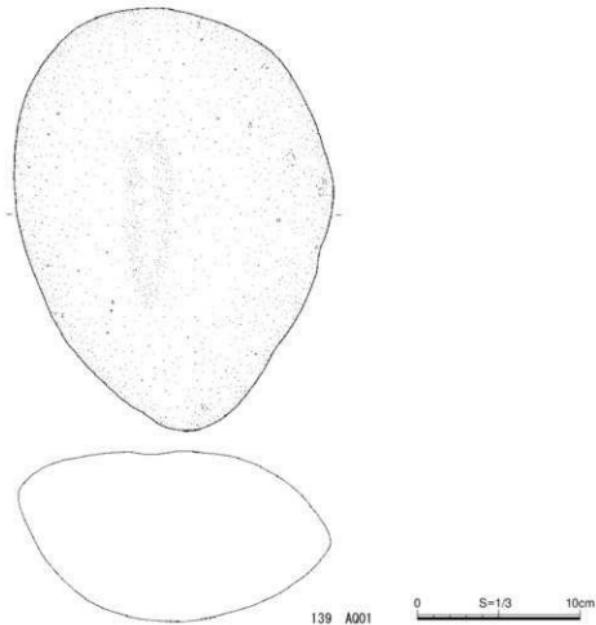
137 AK02

138 AK03

140 A001

0 S=1/2 5cm

第49図 遺構外出土遺物 (11)



第50図 遺構外出土遺物（12）

第17表 遺構外出土縄文土器観察表（1）

遺物番号 因面番号 開版番号	型式	種別 器種	出土区・ 層位	口径 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
I JB07 39-1 18-1-1	筒形式 阿玉台1b式 併行	深鉢	4区 II c層	最大径 22.5 底径 [21.9] 胴部径 (13.0)	口縁部～胴部片。 波状口縁。	両面ともやや丁寧な磨き。口縁部は外相するが、頸部以下は直線的である。 山形の突起部分は3箇所。1箇所は二重に配される。表面は口付部に連続した矧み目が加えられ、波状部の外周上側面に矧み目を施した上側面と、内側面との間に波状の凹凸がある。 口縁部に沿って、角押文があり、斜めに角押文が施されるほか、角押文による三角形の文様帯が横方向に連続して配される。 頸部には2列1組の三角形文が巡る。 胴部には2種類、直把手から底部に向けて断面三角形の縦帶が斜めに巡る。口縁部側はボタン状に膨らむ。腹部は表面に角押文が巡り、内側面に施される。さらに側面の矧み目が三角形文に沿って施される。 側面の矧み目が三角形文に沿って施される。 側面の矧み目が三角形文を斜めにしている様を表現。縦方向の三角押文と角押文、横方向の三角押文と角押文、対によって大きな区画が施される。対になるように反面側にも同じ区画が配される。横方向内には角押文が描かれる。 胴部下半には2列1組の三角形文が施される。	暗褐色。土は紫だが、1mm 大的砂粒を少額。雲母を微含む。 集成良好。

第18表 遺構外出土繩文土器観察表(2)

遺構番号 同上番号 国際番号	型式	種別 器種	出土土・ 層位	口徑 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・形態の特徴	備考
2 JE01 40-2 19-1-2	諸儀式	深鉢	3区 II c層	— [4.8] —	胴部片。	内面は丁寧な磨き。表面は縄文を縱方向に施文した後、横方向に刷毛を施した浮彫文を配する。縄文の底部は削減しているため不規則。	赤褐色。胎土は密だが、1~2mmの大粒の砂粒を少含む。焼成は良好。
3 JE08 40-3 19-1-3	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [5.5]	口縁部片。 波状口縁。	内面は粗い磨き。表面は2列の角押文による区画内に、斜めの舟押文を施す。	赤褐色。胎土は密で、細砂粒を少含む。焼成は良好。
4 JE09 40-4 19-1-4	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [5.8]	口縁部片。 口縁部端はやや尖る。 内面に棱を作らる。	画面ともやや丁寧な磨き。表面は幅広底形による区画内に、斜めの舟押文を施す。	赤褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの大粒の砂粒を多く含む。焼成はやや良好。
5 JE10 40-5 19-1-5	胴板式	深鉢	3区 頂及	— [4.9]	口縁部片。 口縁部端はやや尖る。 内面に棱を作らる。	画面ともやや丁寧な磨き。表面は横幅広形による区画内に、棱の舟押文を施す。	赤褐色。胎土はやや粗く、1~3mmの大粒の砂粒を多く含む。焼成はやや良好。
6 JE11 40-6 19-1-6	胴板式	浅鉢	3区 II c層	— [2.9]	口縁部片。	画面とも丁寧な磨き。表面は舟押文を配し、口縁部端に刷毛を施す。底部は無文。	黒褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
7 JE12 40-7 19-1-7	胴板式	浅鉢	3区 II c層	— [3.7]	口縁部片。 くの字状に屈曲し内側する。	内面は粗い磨き。表面は口縁部直下に横方向の、以下縦方向に爪彫文を施す。底部は無文。	黄褐色。胎土はやや粗く、細砂粒を少含む。焼成は良好。
8 JE13 40-8 19-1-8	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [4.4]	口縁部片。 口縁部端は削除して、その字状に屈曲し内側する。	内面は粗い磨き。表面は2列の角押文による区画内に、斜めの舟押文を施す。	暗褐色。胎土はやや粗く、金雲母を多く含む。焼成は良好。
9 JE14 40-9 19-1-9	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [3.4]	口縁部片。 口縁部端はやや尖る。	内面はやや丁寧な磨き。表面は口縁部直下に爪彫文による舟押文を施す。	暗褐色。胎土はやや密だが、細砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成はやや良好。
10 JE15 40-10 19-1-10	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [7.0]	胴部片。	画面ともやや丁寧な磨き。表面は幅広底形による区画内に山形の三角舟押文を施す。3と同文様模様だが、爪彫文は2列で構成される。	赤褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの大粒の砂粒を多く含む。焼成はやや良好。
11 JE16 40-11 19-1-11	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [3.2]	胴部片。	内面は未調査。表面は爪彫文を施した隠帶が横方向に配置する。以下縦方向による区画内に沿って手彫竹賀による舟押文を施す。	赤褐色。胎土は密だが、細砂粒を少含む。焼成は良好。
12 JE17 40-12 19-1-12	胴板式	深鉢	3・4区 II c層	— [3.8]	胴部片。	内面は剥離。表面は舟押文が配される。	赤褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成はやや良好。
13 JE18 40-13 19-1-13	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [5.5]	口縁部片。 残存部分。	画面とも丁寧な磨き。表面は縄文による区画内を斜めに舟押文で施す。裏面は外側に向けて舟押文に配される。	赤褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
14 JE19 40-14 19-1-14	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [5.7]	口縁部片。 口縁部端は尖る。	内面は一部剥離しているが、やや丁寧な磨き。口縁部直下に爪彫文がある。以下縦方向による区画内が配される。隠帶上に隠帶に沿って舟彫文が施される。	赤褐色。胎土は比較的密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成はやや良好。
15 JE21 40-15 19-1-15	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [6.6]	口縁部に近い断面片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は隠帶による区画内を斜めに舟押文により舟押文が左右交互に配される。区画内は波線状に施文される。	暗褐色。胎土はやや粗く、細砂粒を多く含む。焼成はやや良好。
16 JE22 40-16 19-1-16	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [3.5]	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は連續爪彫文が施文され、矧目が施された隠帶が配される。	暗褐色。胎土はやや粗く、1mmの大粒の砂粒と雲母を少含む。焼成はやや良好。
17 JE23 40-17 19-1-17	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [5.1]	胴部片。	内面は未調査。表面は隠帶による区画内を斜めに舟押文を施す。	暗褐色。胎土はやや粗く1~2mmの大粒の砂粒と雲母を多く含む。焼成は良好。
18 JE24 40-18 19-1-18	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [3.6]	胴部片。	画面とも丁寧な磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶に沿って爪彫文を施す。	暗褐色。胎土は密だが、1mmの大粒の砂粒と雲母を少含む。焼成は良好。
19 JE25 40-19 19-1-19	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [4.1]	胴部片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶に沿って舟彫文を施す。内に舟彫による舟押文を施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と雲母を少含む。焼成はやや良好。
20 JE26 40-20 19-1-20	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [5.6]	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縄縛による区画内を配する。隠帶に沿って爪彫文が巡り、区画内に横方向の波線状を施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と雲母を少含む。焼成はやや良好。
21 JE27 40-21 19-1-21	胴板式	深鉢	5区-28 II c層	— [3.4]	胴部片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶に沿って舟彫文が施され、隠帶に沿って舟押文による舟押文を施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と雲母を少含む。焼成はやや良好。
22 JE28 40-22 19-1-22	胴板式	深鉢	5区-28 II c層	— [2.9]	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は縄縛による区画内を配する。隠帶に沿って舟彫文を施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と雲母を少含む。焼成は良好。
23 JE29 40-23 19-1-23	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [6.7]	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶上に舟彫文を施し、隠帶に沿って舟彫文が施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
24 JE30 40-24 19-1-24	胴板式	深鉢	3区 II c層	— [5.2]	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶上に舟彫文を施し、隠帶に沿って舟彫文が施す。区画内は舟彫文と波紋状隠帶が横方向に施文される。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
25 JE31 40-25 19-1-25	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [5.2]	胴部片。	内面は粗い磨き。表面は隠帶による舟彫文を施す。隠帶上に舟彫文を施し、隠帶に沿って舟彫文が施す。区画内は舟彫文と波紋状隠帶が横方向に施文される。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
26 JE32 40-26 19-1-26	胴板式	深鉢	4区 II c層	— [3.5]	胴部片。	内面はやや粗い磨き。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶上に舟彫文を施し、隠帶に沿って舟彫文が施す。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と雲母を多く含む。焼成はやや良好。
27 JE33 40-27 19-1-27	胴板式	深鉢	5区-28 II c層	— [4.5]	胴部片。	内面は剥離。表面は隠帶による区画内を配する。隠帶に沿って舟彫文が施され、横方向の舟彫文が充填される。	暗褐色。胎土は密で、細砂粒と金雲母を少含む。焼成は良好。

第19表 遺構外出土繩文土器観察表(3)

遺構番号 同様番号 国際番号	型式	種別 器種	出土地・ 層位	口径 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・形態の特徴	備考
28 JE34 40 - 28 19 - 1 - 28	棚板 2式	深鉢	4区 II c層	— [4.9]	側断片。	両面とも丁寧な削き。表面は隣と集合沈縫によるハネ突を配する。一部の隣側上には手取縫跡による横状凹文が施され、区画内には円形切欠きが複数点ある。	黄褐色。胎土は薄で、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
29 JE35 40 - 29 19 - 1 - 29	棚板 2式	深鉢	3区 II c層	[5.2]	側断片。	両面とも丁寧な削き。表面は角押文と三角押文、帯状文を施す。	暗褐色。胎土はやや粗く、細砂粒を多量に。雲母を少含む。焼成はやや良好。
30 JE36 40 - 30 19 - 1 - 30	棚板 2式	深鉢	1区 II c層	[4.3]	側断片。	両面はやや丁寧な削き。表面は吊り目のある隣縫(区画内に弧形文が施される)。	暗褐色。胎土は比較的濃い。細砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
31 JE37 40 - 31 19 - 1 - 31	棚板 2式	深鉢	4区 II c層	[3.0]	側断片。	両面は丁寧な削き。表面は隣縫と沈縫によるハネ突を配する。吊り目のある隣縫に沿って沈縫があり、区画内には円形斜刺突が充填される。	暗褐色。胎土はやや粗く、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
32 JE20 40 - 32 19 - 1 - 32	棚板 2式	深鉢	4区 II c層	[3.6]	底部近い側断片。	両面は丁寧な削きがまだ。部分的に剥落。表面は沈縫による2本1組の横壓文が配され、脇に爪印文が複数点施される。	褐褐色。胎土は薄だが、1mm大の砂粒を少量。雲母を微量に含む。焼成は良好。
33 JE38 40 - 33 19 - 1 - 33	棚板 3式	深鉢	3区 II c層	[4.6]	口縫部片。 突起部分。	両面とも丁寧な削き。表面は隣縫により酒呑文を配し、ヘラ状工具による吊り目を施す。	暗褐色。胎土は粗く、1mm大の砂粒を多く。雲母を少含む。焼成は良好。
34 JE39 40 - 34 19 - 1 - 34	棚板 3式	深鉢	4区 II c層	[6.1]	口縫部片。 突起部分。	両面とも丁寧な削き。耳状の突起を配する。表面は斜面を施す。柱状突起による横壓文を左右交互に施す。隣縫方向の削きを施す。隣縫に沿って横縫がある。	暗褐色。胎土はやや粗く、1mm大の砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
35 JE40 40 - 35 19 - 1 - 35	棚板 3式	深鉢	3区 II c層	[3.2]	口縫部片。	両面とも丁寧な削き。表面は隣縫による突起を配する。一部剥落。口押部内側に吊り目を加える。	暗褐色。胎土は粗く、1mm大の砂粒・雲母を多く含む。焼成はやや不良。
36 JE41 41 - 36 19 - 1 - 36	棚板式	深鉢	3区 II c層	[5.1]	口縫部片。	両面ともやや丁寧な削き。表面は横方向に横縫が施される。	黒褐色。胎土は粗だが、1mm大の砂粒を少量。雲母を多く含む。焼成は良好。
37 JE42 41 - 37 19 - 1 - 37	棚板式	深鉢	4区 II c層	[4.4]	口縫部片。 波状口縫。	両面はやや丁寧な削き。表面は棒状工具による逆続押文を施す。	暗褐色。胎土は薄。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
38 JE43 41 - 38 19 - 1 - 38	棚板式	深鉢	3区 II c層	[7.8]	側断片。	両面ともやや粗い削き。表面は横方向に垂直と波状の沈縫を施す。	黒褐色。胎土は薄。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
39 JE44 41 - 39 19 - 1 - 39	阿玉台 1b式	深鉢	3区 II c層	[4.1]	口縫部片。 くの字状に屈曲し 内折する。	両面は丁寧な削き。表面は隣縫による横円形凹文を配する。隣縫に沿って2列に舟押文を施す。	暗褐色。胎土は薄。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
40 JE45 41 - 40 19 - 1 - 40	阿玉台 1b式	深鉢	3区 II c層	[4.0]	側断片。	両面は粗い削き。表面は隣縫による横円形凹文を配する。隣縫に沿って角押文を施す。	褐褐色。胎土はやや粗く。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
41 JE46 41 - 41 19 - 1 - 41	阿玉台 1b式	深鉢	5区 - 28 II c層	[4.9]	側断片。	両面はやや粗い削き。表面は斜面にによる横円形凹文を配する。隣縫に沿って角押文を施す。口縫部に横方向の波状縫隙を施す。	暗褐色。胎土は粗く、2~3mmの大砂粒と金雲母を多く含む。焼成はやや不良。
42 JE47 41 - 42 19 - 1 - 42	阿玉台 2式	深鉢	4区 II c層	[5.9]	側断片。	両面はやや粗い削き。表面は横方向の波状縫隙と隣縫による横状の凹文を配する。隣縫に沿って舟押文を施す。	暗褐色。胎土はやや粗だが、2mmの大砂粒と金雲母を多く含む。焼成はやや良好。
43 JE48 41 - 43 19 - 1 - 43	阿玉台 2式	深鉢	3区 II c層	[—]	側断片。	両面は粗い削き。表面は縱方向に隣縫を配し、横方向に舟押文を施す。	褐褐色。胎土はやや粗く、2~3mmの大砂粒と金雲母を多く含む。焼成はやや良好。
44 JE49 41 - 44 19 - 1 - 44	阿玉台 3式	深鉢	4区 II c層	[—]	口縫部片。 くの字状に屈曲し 内折する。	両面ともやや丁寧な削き。口押部に隣縫を軸に付け、舟押文を施す。表面は斜め方向に2列に舟押文を施す。	黃褐色。胎土はやや粗く、1mm大の砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
45 JE50 41 - 45 19 - 1 - 45	阿玉台 3式	深鉢	3区 II c層	[4.9]	口縫部片。 くの字状に屈曲し 内折する。	両面はやや丁寧な削き。表面は口押部直下に、横方向の波状角押文を施す。	黒褐色。胎土は粗く。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
46 JE51 41 - 46 19 - 1 - 46	阿玉台式	深鉢	3区 II c層	[4.0]	側断片。	両面はやや粗い削き。表面は横方向に2列の舟押文を施す。	褐褐色。胎土は粗。細砂粒・雲母を少含む。焼成はやや不良。
47 JE52 41 - 47 19 - 1 - 47	阿玉台式	深鉢	1区 II c層	[4.8]	側断片。	両面は粗い削き。表面は一部剥落。同時に4本1組の横押文を施す。下位に横方向の舟押文を施す。	暗褐色。胎土は粗だが、1~2mmの大砂粒と金雲母を多く含む。焼成はやや不良。
48 JF09 41 - 48 19 - 1 - 48	加押利 E1式	深鉢	4区 II c層	[5.9]	口縫部片。	両面は粗い削き。表面は隣縫による口縫横筋縫隙と舟押文を配する。区画内に單脚 LR 繩文が施される。	褐褐色。胎土は粗だが、1~3mmの大砂粒を微量に。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
49 JF10 41 - 49 19 - 1 - 49	加押利 E1式	深鉢	3区 II c層	[4.1]	口縫部片。突起部分。	両面はやや粗い削き。突起部分に横手状の次第を施す。表面は横方向による口縫区画を配する。	暗褐色。胎土はやや粗く。細砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。
50 JF11 41 - 50 19 - 1 - 50	加押利 E1式	深鉢	3区 II c層	[3.3]	口縫部片。 内折する。	両面はやや粗い削き。表面は隣縫による酒呑口縫の舟押文を施す。	褐褐色。胎土は粗だが、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
51 JF12 41 - 51 19 - 1 - 51	加押利 E1式	深鉢	3区 II c層	[6.1]	側断片。	両面は丁寧な削き。表面は單脚 RL 繩文を縱方向に施す後、隣縫による舟押文が横方向に施される。	褐褐色。胎土は粗だが、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
52 JF13 41 - 52 19 - 1 - 52	加押利 E1式	深鉢	4区 II c層	[3.8]	側断片。	両面ともやや丁寧な削き。表面は頭部無文・頭部無文・舟押文による舟押・船付した點狀横筋縫隙に施される。	褐褐色。胎土は比較的濃い。細砂粒・雲母を少含む。焼成はやや不良。
53 JF14 41 - 53 19 - 1 - 53	加押利 E2式	深鉢	3区 II c層	[7.1]	口縫部片。 外折する。	両面はやや丁寧な削き。表面は隣縫による口縫横筋縫隙を配する。	褐褐色。胎土は粗だが、細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
54 JF15 41 - 54 20 - 1 - 54	加押利 E2式	深鉢	1区 II c層	[6.4]	口縫部片。 内折する。	両面はやや丁寧な削き。表面は隣縫による口縫横筋縫隙を配する。区画内に單脚 RL 繩文を施す。	褐褐色。胎土は比較的濃い。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。
55 JF16 41 - 55 20 - 1 - 55	加押利 E2式	深鉢	3区 II c層	[3.8]	口縫部片。 内折する。	両面はやや粗い削き。表面は隣縫による横円形凹文を配する。区画内に單脚 RL 繩文を横方向に施した後、隣縫に沿って改謎を施す。	褐褐色。胎土は薄。細砂粒・雲母を少含む。焼成は良好。

第20表 遺構外出土繩文土器観察表(4)

遺構番号 同上番号 同上番号	型式	種別 器種	出土地点・ 層位	口径 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・形態の特徴	備考
56 JF17 41 - 56 20 - 1 - 56	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [3.5] —	口縫部片。 内燃する。	内面はやや粗い。表面は隣による口縫部に区画を配する。区画内は燃すと縦方向に施した後、隣部に沿って沈縛を造らる。	暗褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成はやや良好。
57 JF18 41 - 57 20 - 1 - 57	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [5.0] —	口縫部片。 内燃する。口縫部端にはやや丸み。	内面はやや粗い。表面は隣による口縫部に区画を配する。区画内は燃すと縦方向に施した後、隣部に沿って沈縛を造らる。	灰褐色。胎土はやや粗だが、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成はやや不良。
58 JF19 41 - 58 20 - 1 - 58	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.5] —	口縫部片。 やや外燃する。	内面はやや粗い。表面は隣による区画を配する。隣部による口縫部にはやや丸みがある。表面は隣による区画を配する。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。	黒褐色。胎土は粗だが、細砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。
59 JF20 41 - 59 20 - 1 - 59	加賀利E式	深鉢	1区 II c層	— [9.2] —	口縫部~頭部片。 内燃する。	内面は丁寧な焼き。表面は隣による口縫部に区画を配する。隣部に沿って沈縛を造らる。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。	褐褐色。胎土は粗く、1~7mmの大粒砂を多く、雲母をやや多く含む。焼成は良好。
60 JF21 41 - 60 20 - 1 - 60	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [5.5] —	口縫部~頭部片。 内燃する。	内面は丁寧な焼き。表面は隣による口縫部に区画を配する。隣部に沿って沈縛を造らる。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。頭部は無文。	灰褐色。胎土は粗だが、1mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
61 JF22 41 - 61 20 - 1 - 61	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.9] —	口縫部~頭部片。	内面は丁寧な焼き。表面は隣による区画を配する。隣部による口縫部では單節RL繩文を縦方向に施す。	黄褐色。胎土は粗く、1mmの大粒砂を多く、雲母をやや多く含む。焼成は良好。
62 JF23 41 - 62 20 - 1 - 62	加賀利E式	深鉢	5区~4 II c層	— [6.5] —	口縫部~頭部片。 内燃する。	内面はやや粗い。表面は隣による口縫部に区画を配する。隣部に沿って沈縛を造らる。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。頭部は無文。	黄褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
63 JF24 41 - 63 20 - 1 - 63	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [5.8] —	口縫部~頭部片。 内燃する。	内面はやや粗い。表面は隣による口縫部に区画を配する。隣部に沿って沈縛を造らる。区画内に単節RL繩文を縦方向に施す。	灰褐色。胎土はやや粗く、1mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
64 JF25 41 - 64 20 - 1 - 64	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [5.7] —	頭部片。	内面は丁寧な焼き。表面は隣による区画を配する。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。	赤褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母をやや多く含む。焼成は良好。
65 JF26 41 - 65 20 - 1 - 65	加賀利E式	深鉢	3区 II c層	— [4.8] —	頭部片。	内面は未調整。表面は隣による区画を配する。区画内に單節RL繩文を縦方向に施す。	褐褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
66 JF27 41 - 66 20 - 1 - 66	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [5.7] —	頭部片。	内面はやや丁寧な焼き。表面は單節RL繩文が横方向に施された後、平行沈縛による区画を配する。	赤褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
67 JF28 41 - 67 20 - 1 - 67	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.1] —	頭部片。	両面ともやや粗い。表面は縦方向の隣縫間に沿って円錐穴吹きの施される。	黄褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
68 JF29 42 - 68 20 - 1 - 68	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [6.7] —	頭部片。	内面は丁寧な焼き。表面は單節RL繩文が縦方向に施された後、2本1組の沈縛による細文が施される。	灰褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
69 JF30 42 - 69 20 - 1 - 69	加賀利E式	深鉢	1区 II c層	— [5.8] —	頭部片。	内面は粗い。表面は單節RL繩文が縦方向に施された後、2本1組の沈縛による細文が施される。	褐褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
70 JF31 42 - 70 20 - 1 - 70	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [7.1] —	頭部片。	内面は粗い。表面は單節RL繩文が縦方向に施された後、隣部による曲線文が施される。	褐褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
71 JF32 42 - 71 20 - 1 - 71	加賀利E式	深鉢	1区 II c層	— [6.3] —	頭部片。	内面は粗い。表面は單節RL繩文が縦方向に施された後、隣部による曲線文が施される。	褐褐色。胎土はやや粗だが、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
72 JF33 42 - 72 20 - 1 - 72	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [5.8] —	頭部片。	内面は丁寧な焼き。表面は單節RL繩文が縦方向に施された後、隣部による細文が施される。	灰褐色。胎土はやや粗だが、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
73 JF34 42 - 73 20 - 1 - 73	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [5.0] —	頭部片。	内面はやや粗い。表面は單節方向に縫手状の凹部が施文される。	褐褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。
74 JF35 42 - 74 20 - 1 - 74	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [3.6] —	頭部片。	両面ともやや粗い。表面は縦方向のU字状弦文及び円錐穴吹きが施される。	黄褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
75 JF36 42 - 75 20 - 1 - 75	加賀利E式	深鉢	1区 II c層	— [5.7] —	頭部片。	両面ともやや粗い。表面は縦方向に單節RL繩文を施した後、隣部を縦方向に配する。	褐褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
76 JF37 42 - 76 20 - 1 - 76	加賀利E式	深鉢	5区~14 II c層	— [7.0] —	頭部片。	内面はやや粗い。表面は縦方向に單節RL繩文を施した後、隣部を縦方向に配する。	黄褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成はやや不良。
77 JF38 42 - 77 20 - 1 - 77	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [5.2] —	頭部片。	内面は丁寧な焼き。表面は縦方向に施し、斜めに沈縛を施す。	褐褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
78 JF39 42 - 78 20 - 1 - 78	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.9] —	底部片。	内面は丁寧な焼き。表面は縦方向に單節RL繩文を施した後、縦方向に2本1組の隣縫と波状の隙間を1本割り付ける。	褐褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
79 JF40 42 - 79 20 - 1 - 79	加賀利E式	深鉢	1区 II c層	— [4.5] —	口縫部片。	内面はやや丁寧な焼き。表面は単節RL繩文が縦方向に施された後、縦方向に2本1組の隣縫と波状の隙間を1本割り付ける。	褐褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
80 JF41 42 - 80 20 - 1 - 80	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.2] —	頭部片。	内面は粗い。表面は単節RL繩文を縦方向に施した後、隣部を縦方向に施す。	灰褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成はやや良好。
81 JF42 42 - 81 20 - 1 - 81	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [4.4] —	頭部片。	内面はやや粗い。表面は単節RL繩文を縦方向に施した後、隣部に沈縛が施される。	褐褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成はやや良好。
82 JF43 42 - 82 20 - 1 - 82	加賀利E式	深鉢	4区 II c層	— [3.9] —	頭部片。	内面は粗い。表面は単節RL繩文を縦方向に施した後、隣部による渦巻文が施される。	黑褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
83 JF44 42 - 83 20 - 1 - 83	加賀利E式	深鉢	5区~14 II c層	— [6.7] —	頭部片。	内面は粗い。表面は単節RL繩文を縦方向に施した後、周りを削り削して区画を描ぶ。	赤褐色。胎土は粗く、1~2mmの大粒砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。

第21表 遺構外出土繩文土器観察表(5)

遺物番号 同番号 同番号 同番号	型式	種別 器種	出土区・ 層位	口径 高さ 底径 (cm)	器形の特徴	成・形態の特徴	備考
84 JF45 42 - 84 20 - 1 - 84	加賀利E3式	深鉢	5区 - 12 II c層	— [6.2] —	側断片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は單面RL繩文を縦方向に施した後、2本1組の弦脚による無差文を施文し、沈縫間を削り消す。	灰褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を少量含む。燒成は良好。
85 JF46 42 - 85 20 - 1 - 85	加賀利E3式	深鉢	5区 - 33 II c層	— [4.0] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は單面RL繩文を縦方向に施した後、2本1組の弦脚による無差文を施文し、沈縫間を削り消す。	灰褐色。胎土はやや粗く、細砂粒を多く、雲母を少量含む。燒成は良好。
86 JF47 42 - 86 20 - 1 - 86	加賀利E3式	深鉢	1区 II c層	— [6.0] —	側断片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は單面RL繩文を縦方向に施した後、2本1組の弦脚による無差文を施文し、沈縫間を削り消す。	灰褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を少量含む。燒成は良好。
87 JF48 42 - 87 20 - 1 - 87	加賀利E3式	深鉢	4区 II c層	— [5.1] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は單面RL繩文を縦方向に施文した後、沈縫による無差文を施文し、沈縫間を削り消す。	赤褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少額含む。燒成は良好。
88 JF49 42 - 88 20 - 1 - 88	加賀利E3式	深鉢	3区 II c層	— [3.5] —	側断片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は單面RL繩文が縦方向に施された後、沈縫による無差文を施文し、沈縫間を削り消す。	赤褐色。胎土は粗く、1~2mmの大砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
89 JF50 42 - 89 20 - 1 - 89	加賀利E3式	深鉢	3区 II c層	— [5.1] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は沈縫による無差文が施される。	暗褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少額含む。燒成は良好。
90 JF51 42 - 90 20 - 1 - 90	加賀利E3式	深鉢	4区 II c層	— [5.5] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は沈縫と条縫による無差文が施される。	暗褐色。胎土は粗く、1~3mmの大砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
91 JF52 42 - 91 20 - 1 - 91	加賀利E3式	深鉢	3区 II c層	— [6.0] —	側断片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は沈縫による無差文が改文後に施された後、條縫を縦に取り付けた後縫隙を削り消す。	灰褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を少額含む。燒成は良好。
92 JF53 42 - 92 20 - 1 - 92	加賀利E3式	深鉢	1区 II c層	— [3.4] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は地文・單面RL繩文が縦方向に施された後、縦方向の沈縫による無差文と地文との施文が施される。区画内を削り消す。	灰褐色。胎土はやや粗く、1~3mmの大砂粒・雲母を少額含む。燒成は不良。
93 JF54 42 - 93 21 - 1 - 93	加賀利E3式か 曾利Ⅱ式	深鉢	5区 - 14 II c層	— [6.3] —	側断片。	内面はやや丁寧な磨き。表面は單面RL繩文が縦方向に施された後、縫隙を削り消して縦方向と横方向の隙縫によって文様を構成。一部端縫隙。	暗褐色。胎土はやや粗く、1mmの大砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成はやや不良。
94 JF55 42 - 94 21 - 1 - 94	曾利Ⅱ式	深鉢	1区 II c層	— [3.6] —	側断片。	内面はやや粗い磨き。表面は縦方向と縦方向の縫隙が施された後、粘土組を液状に貼り付ける。	灰褐色。胎土は粗く、1mmの大砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
95 JF56 42 - 95 21 - 1 - 95	曾利Ⅱ式	深鉢	4区 II c層	— [4.3] —	側断片。	内面は丁寧な磨き。表面は縫隙と粘土組液状に貼り付ける。	赤褐色。胎土は粗く、1mmの大砂粒を少額、雲母を微量に含む。燒成は良好。
96 JF57 42 - 96 21 - 1 - 96	曾利Ⅱ式	深鉢	4区 II c層	— [3.1] —	側断片。	内面ともやや粗い磨き。表面は斜めに沈縫が施された後、粘土組を液状に斜めに貼り付ける。	赤褐色。胎土は粗だが、1mmの大砂粒を少額、雲母を微量に含む。燒成は良好。
97 JF58 42 - 97 21 - 1 - 97	曾利Ⅱ式	深鉢	3区 II c層	— [3.4] —	側断片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に沈縫を施した後、縫隙を縦方向に貼り付ける。	暗褐色。胎土は粗だが、1mmの大砂粒を少額、雲母を微量に含む。燒成は良好。
98 JF59 42 - 98 21 - 1 - 98	曾利Ⅱ式	深鉢	4区 II c層	— [3.2] —	側断片。	内面とも粗い磨き。表面は縦方向に沈縫を施した後、縫隙工具による押さえを加えた隙縫を縦方向に配する。	暗褐色。胎土は粗だが、1mmの大砂粒を少額、雲母を微量に含む。燒成は良好。
99 JF60 42 - 99 21 - 1 - 99	曾利Ⅱ式	深鉢	4区 II c層	— [5.8] —	側断片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に沈縫を施した後、縫隙を縦方向に貼り付ける。	暗褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
100 JF61 42 - 100 21 - 1 - 100	曾利Ⅱ式	深鉢	3区 II c層	— [4.6] —	側断片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に沈縫を施す。	暗褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
101 JF62 42 - 101 21 - 1 - 101	曾利Ⅱ式	深鉢	4区 II c層	— [4.0] —	側断片。	内面は粗い磨き。表面は縦方向に沈縫を施す。	暗褐色。胎土は粗く、細砂粒を多く、雲母を微量に含む。燒成は良好。
102 JF63 42 - 102 21 - 1 - 102	中期	深鉢	4区 II c層	— [2.4] [0.1]	底部。	内面は粗い磨き。底面に側代瓶。	暗褐色。胎土は粗く、細砂粒・雲母を多く含む。燒成はやや不良。
103 JF64 42 - 103 21 - 1 - 103	中期	深鉢	4区 II c層	— [3.4] —	底部。	内面はやや粗い磨き。表面と底面は無文。	暗褐色。胎土は粗だが、細砂粒・雲母を少額含む。燒成は良好。

第22表 遺構外出土製品観察表

遺物番号 同番号 同番号 同番号	種別 器種	出土区・ 層位	重積 (g)	最大長・最大幅・最大厚 (cm)	薄板など	文様
104 DE01 42 - 104 21 - 1 - 104	土製片瀬	4区 表土	29	4.25・4.7・1.4	抉りが1カ所。片側破損。	沈縫文
105 DE02 42 - 105 21 - 1 - 105	土製円盤	4区 II c層	12	2.9・3.2・1.12	両面とも丁寧な磨き。	無文
106 DE03 42 - 106 21 - 1 - 106	土製円盤	5区 - 28 II c層	23	4.1・4.5・1.25	内面は未調整。	単面RL繩文

第23表 遺構外出土石器観察表(1)

遺物番号 回収番号 回収年月	遺物番号	出土剖位	出土区	遺物名	器種	石質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
107 AA01 43-107 21-1-107	2051	第Ⅱd層	3区		尖頭器	ホルンフェルス	11.93	3.71	1.57	64.4	未成品
108 AD02 43-108 21-1-108	466	第Ⅲ層	3区		スクレイパー	黒曜石	2.34	1.6	0.62	2.1	
109 AG01 43-109 21-1-109	697	第Ⅲ層	3区		打製石斧	ホルンフェルス	13.31	9	2.35	309	扇形
110 AG02 43-110 21-1-110	220	第Ⅲ層	1区		打製石斧	砂岩	10.28	7.61	2.9	286.5	扇形、上部欠損
111 AG03 44-111 22-1-111	3837	第Ⅲ層	4区		打製石斧	砂岩	12.25	5.29	2.19	150.9	扇形
112 AG04 44-112 22-1-112	5550	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	10.91	5.23	1.89	132.1	扇形、底部欠損
113 AG05 44-113 22-1-113	5656	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	13.85	6.26	2.39	206.5	扇形、上部・下部欠損、5657と併出
114 AG06 44-114 22-1-114	5657	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	8.62	3.19	0.96	36.8	扇形、刃部欠損、5656と併出
115 AG07 44-115 22-1-115	6531	第Ⅲ層	4区		打製石斧	砂岩	9.69	5.21	2.29	131.1	扇形、下部欠損
116 AG08 45-116 22-1-116	74	第Ⅲ層	1区		打製石斧	砂岩	10.79	5.7	1.42	109.8	扇形、底部・下部欠損
117 AG10 45-117 22-1-117	134	第Ⅲ層	1区		打製石斧	砂岩	9.75	4.86	1.9	121.4	扇形、刃部欠損
118 AG11 45-118 22-1-118	728	第Ⅲ層	3区		打製石斧	片麻岩	10	4.55	1.46	82.9	扇形、底部欠損?
119 AG13 45-119 22-1-119	221	第Ⅲ層	1区		打製石斧	ホルンフェルス	8.01	4.09	0.94	36.4	扇形、刃部欠損
120 AG14 45-120 23-1-120	3415	第Ⅲ層	4区		打製石斧	ホルンフェルス	8.3	3.75	1.86	69.5	扇形、刃部欠損
121 AG16 45-121 23-1-121	1055	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	10.4	4.74	2.01	144	扇形
122 AG17 46-122 23-1-122	769	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	9.37	6.65	2.89	216	扇形、上部・刃部欠損、再加工
123 AG18 46-123 23-1-123	648	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	8.96	4.56	1.57	90.5	扇形
124 AG19 46-124 23-1-124	75	第Ⅲ層	1区		打製石斧	砂岩	7.84	6.15	2.37	135.2	扇形、上半部欠損
125 AG20 46-125 23-1-125	456	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	8.16	4.75	1.8	92.7	扇形、上部欠損、スタンプ形石器に転用か
126 AG21 46-126 23-1-126	696	第Ⅲ層	3区		打製石斧	砂岩	9.71	5.68	1.84	142.1	扇形、部欠損
127 AG29 46-127 23-1-127	-	第Ⅲ層	5区-14		打製石斧	粘板岩	10.84	4.32	1.85	102.4	扇形
128 AG15 47-128 23-1-128	-	第Ⅲ層	5区-14		打製石斧	砂岩	8.38	5.18	1.27	71	扇形、上部・刃部欠損
129 AH01 47-129 24-1-129	870	第Ⅲ層	3区		磨製石斧	花崗岩	5.64	4.23	2.75	65.2	頭部破片
130 AJ01 47-130 24-1-130	3194	第Ⅲ層	4区		礫器	礫岩	9.71	8.4	3.29	310.4	両面礫器
131 AJ02 47-131 24-1-131	872	第Ⅲ層	3区		礫器	ホルンフェルス	9	8.48	4.73	451.9	片面礫器
132 AN01 48-132 24-1-132	892	第Ⅲ層	3区		スタンプ形石器	砂岩	9.99	8.38	4.32	597.5	

第24表 遺構外出土石器観察表(2)

遺物番号 同版番号 同版番号	遺物番号 同版番号 同版番号	層位	出土区	遺構名	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
133 AN02 48-133 24-1-133	3175	第Ⅲ層	4区		スタンプ形石器	閃綠岩	7.13	10.24	4.68	529.5	上部欠損
134 AN03 49-134 24-1-134	3371	第Ⅲ層	4区		スタンプ形石器	砂岩	7.5	11.15	4.24	550.9	上部欠損
135 AL02 49-135 24-1-135	4848	第Ⅲ層	4区		磨石	泥岩	5.82	4.72	4.1	98.5	部分破片
136 AK01 49-136 24-1-136	3283	第Ⅲ層	4区		敲石	砂岩	11.41	3.82	2.2	161	
137 AK02 49-137 25-1-137	3323	第Ⅲ層	4区		敲石	粘板岩	8.89	2.54	2.51	71.8	
138 AK03 49-138 25-1-138	4488	第Ⅲ層	4区		敲石	チャート	6.09	4.92	2.65	97.8	
139 AQ01 50-139 25-1-139	3284	第Ⅲ層	4区		敲石	砂岩	26.35	19.6	10.62	6900	
140 AO01 49-140 25-1-140	6578	第Ⅲ層	4区		石鍛	粘板岩	5.97	7.09	2.52	120.1	

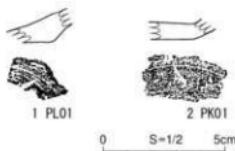
第3節 奈良・平安時代

奈良・平安時代に属すると見られる遺物が4点出土した(第52図)。いずれも表土層(盛土)または中世以降の遺構覆土より検出されたものである。本項では表土出土の2点を図示する(第51図、第25表、図版25-2)。遺構出土の資料は各遺構の項で図示し、説明する。尚、奈良・平安時代の遺構は見つかっていない。

1は土師質土器の小破片で、环の底部である。3区中央部より单独出土した。遺構は伴わない。糸切り痕が見られるが、その後の調整は加えていない。

2は須恵器の环の底部破片である。4区東部の出土で、遺構を伴わない。ロクロ成形され、糸切り後に外周にヘラケズリを施す。外面はやや明るい色調を呈し、表面が脆くなっていることから、二次的な被熱が想定される。

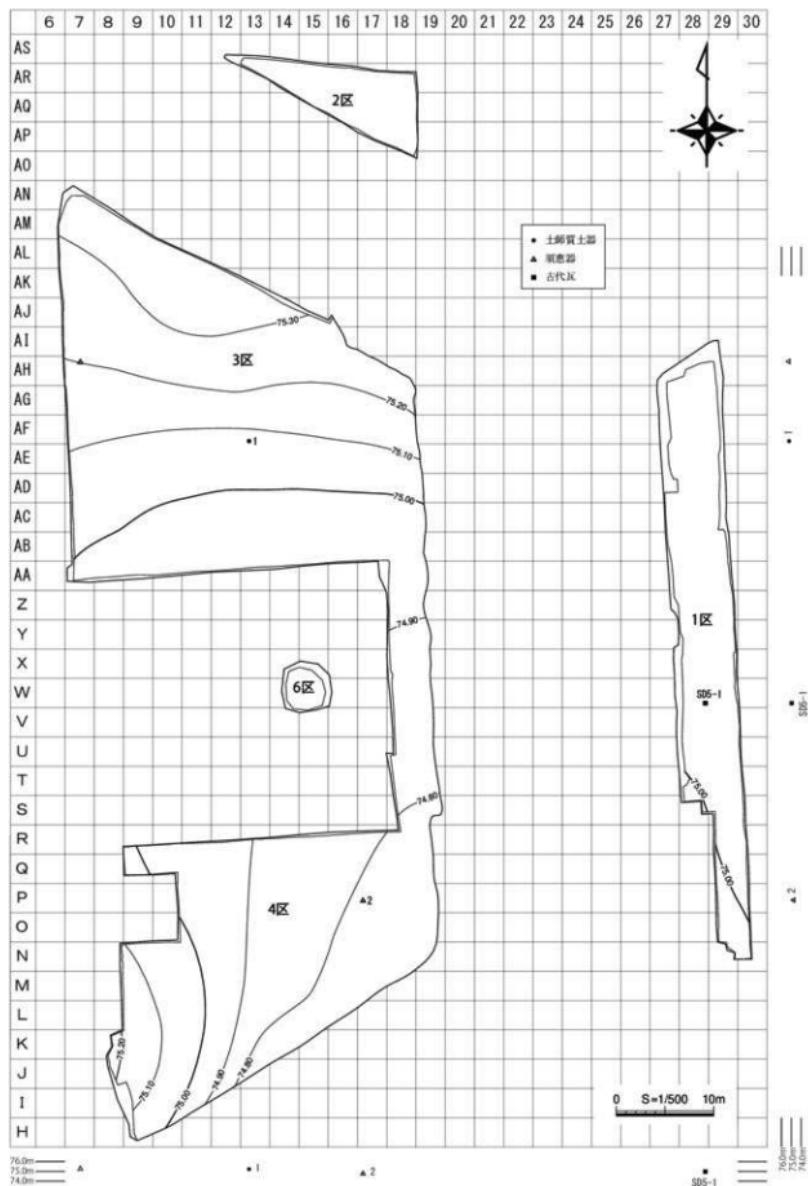
尚、3区西部で表土から須恵器の小片が得られている。蓋の一部と考えられる。S D 5溝状遺構の覆土からは女瓦の破片が出土している(第54・57図)



第51図 奈良・平安時代遺構外出土遺物

第25表 遺構外出土土器観察表

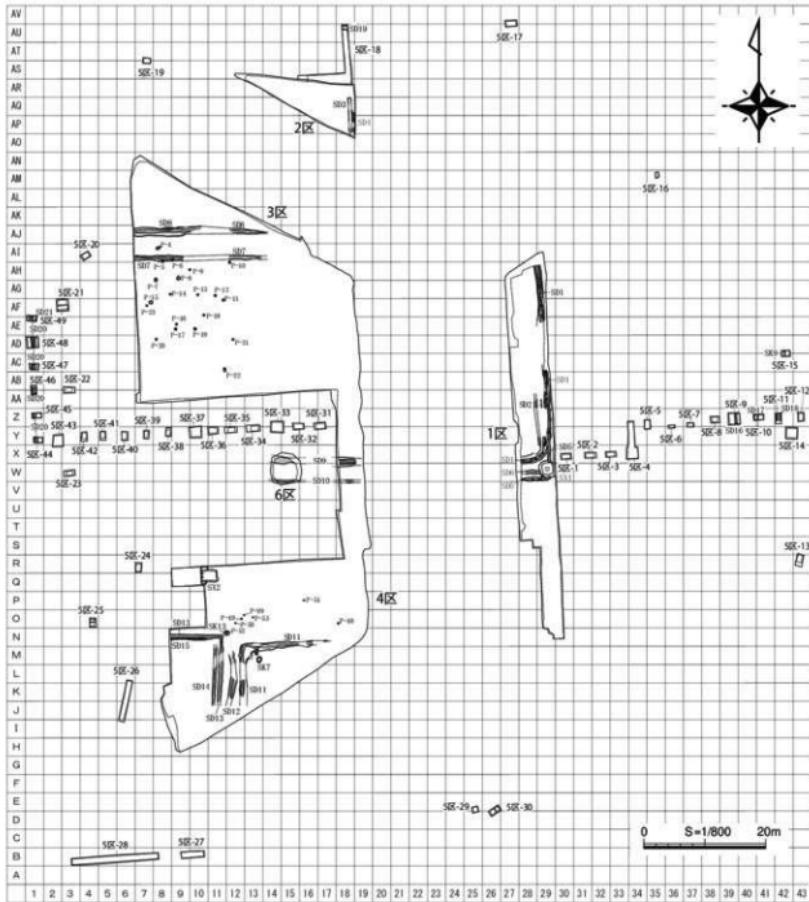
遺物番号 同版番号 同版番号	種別 器形	出土区・ 層位	口径 都高 底径	遺存度	成形・調整	胎土	色調	備考
1 PL01 51-1 25-2-1	土師質土器 环	3区 盛土	— [1.4] —	少	底部糸切り後、無調整	細砂、黑色粉 赤褐色粉、小石	外面：棕色 内面：棕色	
2 PK01 51-2 25-2-2	須恵器 环	4区 盛土	— [1.3] —	少	ロクロ成形、底部糸切り後、 外周回転ヘラケズリ	細砂、白色粉 黒褐色粉、小石	外面：にぶい棕色～明 褐色 内面：明褐色	二次的に熱を受け、表面 黒化



第52図 奈良・平安時代遺物分布図

第4節 中世以降

今回の調査では、中世以降の所属と思われる遺構・遺物が出土している。遺構は時期の特定できな
い溝状遺構21条、土坑3基、不明土坑2基（うち1基は井戸?）及び小穴26基を確認した。以下に各遺構について図示し、説明する。尚、各遺構の出土遺物は遺構毎にまとめて記載した。



第53図 中世以降遺構配置図

1. 遺構

(1) 溝状遺構

SD 1~21溝状遺構（第54~63図、図版12~14）

調査区各区より出土した21条の溝状遺構は様々な幅・深さ・断面形状を見せるが、概して正確に東西または南北方向に延びており、それ以外の方向を向くものは皆無である。このことから、水路にせよ、境界溝や根切り溝にせよ、いずれも耕作や地割りに関わる遺構である可能性が極めて高い。底部に長期にわたって水が流れた形跡を示す溝がない事から、水路というより畠地の境界と根切り及び一時的な排水機能を兼ね合わせたものではないかと考えられる。

特に注目されるのは1区や3区で見られる直角に曲がる溝である。SD 1溝状遺構はなだらかに弧を描いて曲がるが、SD 5・11・13溝状遺構は90度に近い明確な角をもつ。水流よりも境界を意識した形態と思われる。

また確証はないものの、1区のSD 1・5溝状遺構と4区・6区に垣間見えるSD 9・10溝状遺構は位置的に対応し、規模や断面形態も似ており、一続きの溝と見て良さそうである。

覆土には繩文土器・石器・礫・古代瓦・中世陶器等、多様な遺物が含まれていた。主要なものについては、各遺構の説明と共に述べる。

溝状遺構群の正確な所属時期は不明であるが、いずれも表土や耕作土の下に確認面があることから、近代以前の所産であることは疑いない。

SD 1溝状遺構（第54・56図、第26・27表、図版11-1~3・6・25-3・27-1）

1区東部を北端より南下し、途中攢乱によって失われるが、調査区中央部で大きく西へ曲がる。全長約35m、幅140cm、深さ50~90cmで、断面は東壁に段をもち、西壁は上部で斜面となる。底部は場所によって2条または3条に分岐するが、境壁は低く、別の溝とは考えられない。底部には鍛跡が連続して見られるが、北半と南半では向きが逆転する。北部は北から、南部は南から掘削したと思われる。個々の鍛跡の間隔は、比較できる程の規則性をもたない。

覆土より繩文土器・石器（第56図）、礫、時期不明の土器・土器、および近世平瓦の破片と鉄製品（釘）（図版27-1）が出土した。繩文土器は加曾利E式の深鉢胴部破片が主体である。

1・2は深鉢胴部片である。1は加曾利E2式で、単節RL繩文を横方向に施文後、平行沈線による懸垂文と縦方向の波状文を配する。2は単節RL繩文を縦方向に施文する。

3は繩文時代の所産と思われるスクレイバーで、透明度の高い黒曜石の纏長刺片を素材とし、左側縁から表面に向けて連続した調整を施し刃部とする。

SD 2溝状遺構（第54図、図版11-4・6）

1区南部でSD 1溝状遺構の西側に作られた小規模な溝である。1区北部では認められない。攢乱のため一部しか確認できず、1号溝に切られているため詳細は不明であるが、幅40~50cm、深さ20cm程の、底部が緩やかに湾曲する小溝である。SD 1溝状遺構の屈曲部で消滅する。

SD 5溝状遺構（第54・57図、第28表、図版11-3・5・7・25-4・27-2）

1区中央部で、SD 1溝状遺構の屈曲部から更に南へ延び、6m程でやはり西に向かって折れ曲がる溝である。全長約10.7m、幅64cm、深さ60cm程で断面はV字状を呈する。底部には鍛跡が見られ、西側から掘削されたもようである。1号溝との切り合い関係は明確でなく、屈曲部をSX 1不明遺構によつて破壊されているため、隣接するSD 6溝状遺構との関連も定かでない。SD 1溝状遺構の延長のようにも見受けられるが、少なくともSD 1溝状遺構より新しいことが推察されるのみで、詳細は不明である。

覆土より古代の瓦が1点（第57図）と近代の磁器碗1点が出土した（図版27-2）。1は暗灰色の布目瓦で、瓦瓦の小破片である。凸面には縄目の叩き痕が見られ、側端面にはヘラケズリが施される。

SD 6溝状遺構（第54図、図版11-3・8）

SD 5溝状遺構の北側に平行して設けられた浅い溝である。東部をSX 1不明遺構によって破壊されており、SD 5溝状遺構との関連は判らない。幅70cm、深さ50cm程で、底部は緩やかに湾曲する。縄文土器片が1点出土した。

SD 11溝状遺構（第55・58図、第29・30表、図版12-1・2・4・25-5）

4区南半で東に14m、南に8m程延びる、L字状に屈曲した浅めの溝である。幅約1m、深さ40cmで断面は下部で角張るが上部は緩やかに開く。屈曲部では上部の幅が広がり、2mを越える。鍛跡の残る底部は、屈曲部を頂点に東と南へ緩やかに下る傾斜を示すが、水流の痕跡は見られない。屈曲部の東側に、南へ70cm程張り出した部分がある。

覆土より縄文土器片を再利用した土製円盤1点と、中世の常滑の甕と目される陶器片1点が得られた（第58図）。

SD 12溝状遺構（第55図、図版12-1・3・4）

SD 11溝状遺構の西側にほぼ平行して設けられた浅い溝である。長さ7.5m、幅約1m、深さ20cm程で、断面は不整な皿状である。底部に鍛跡があり、北から掘削されたものようである。水流の痕跡はない。北端は搅乱によって破壊されるが、そこから更に北に延びる形跡はなく、搅乱内で途切れるものと思われる。

SD 13溝状遺構（第55図、図版12-1・5～7・27-3）

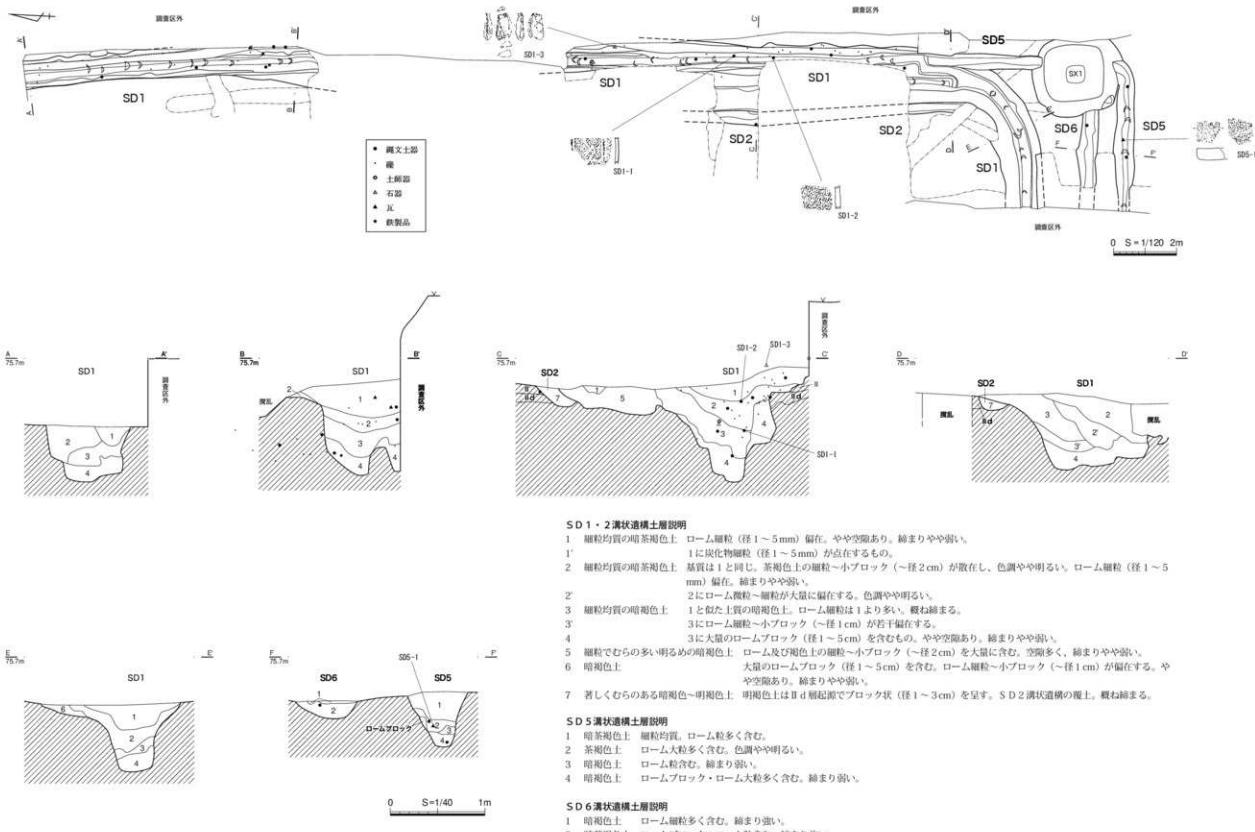
4区南半で西に8m、南に11m程延びる、L字状に屈曲した深い溝である。幅50cm、深さ90cm程で、東西部分の断面は両壁の垂直に切り立った矩形を呈す。南壁中部には段が見られるが、屈曲部に近づくに連れて消失する。南北部分には段がなく、断面は上部がわずかに開く形状となる。底部に鍛跡を残すが、傾斜も水流の痕跡もない。覆土より近代と見られる瓦片が5点（瓦当部が外れた軒丸瓦1点、袖瓦1点、平瓦3点、図版27-3）出土した。

SD 14溝状遺構（第55図、図版12-1・5・6・8）

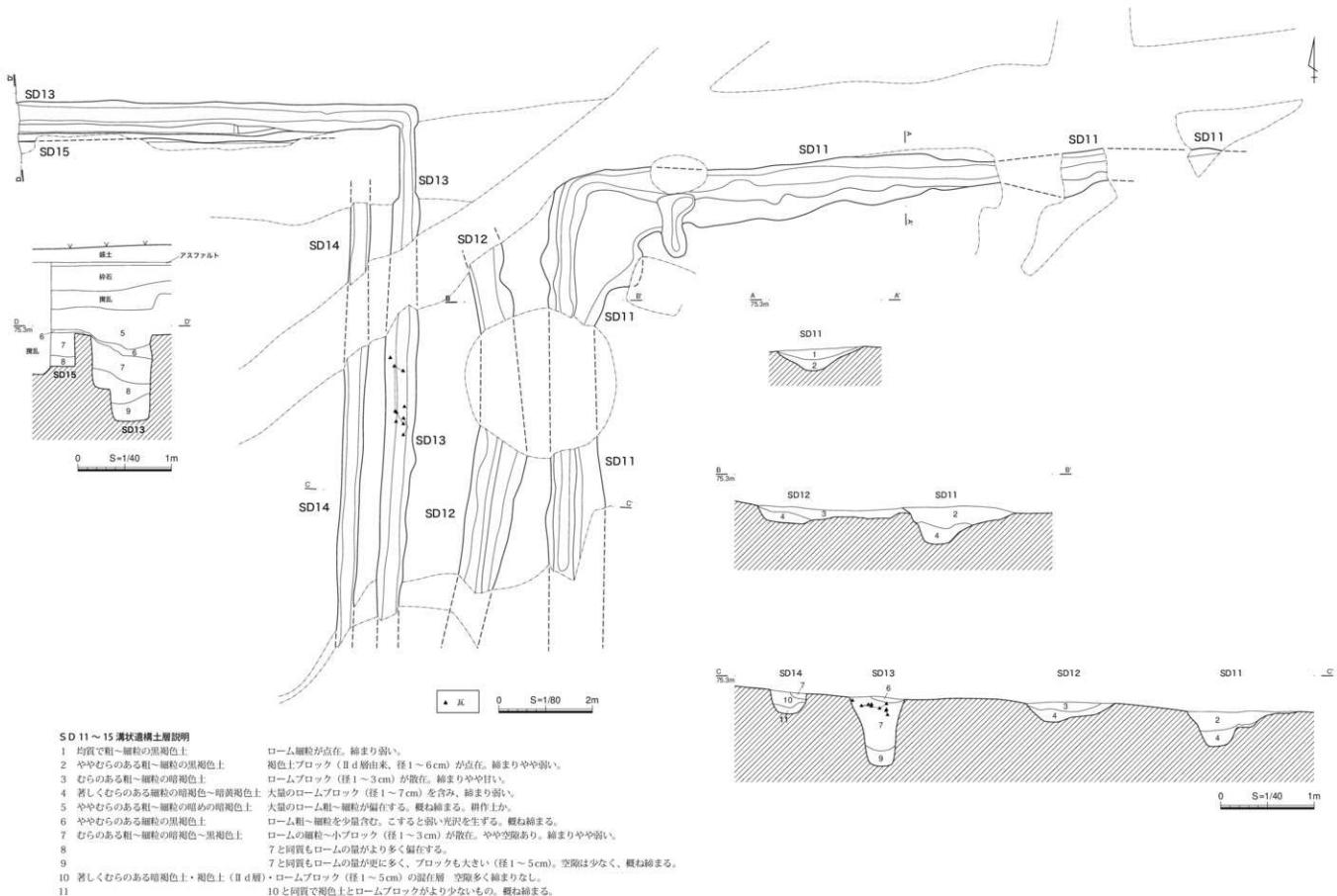
SD 13溝状遺構の南北部分の西側に平行して設けられた浅い溝である。長さ9.5m、幅35cm、深さ34cmで断面は底の湾曲した矩形である。底部に鍛跡があり、北へわずかに下る傾斜を見せるが、水流の痕跡は見られない。北端は搅乱によって破壊されるが、SD 15溝状遺構と規模・深さ・断面形態が近似であることから、おそらくSD 13溝状遺構に平行したL字状の溝としてSD 15溝状遺構に統くものと思われる。

SD 15溝状遺構（第55図、図版12-1・5～7）

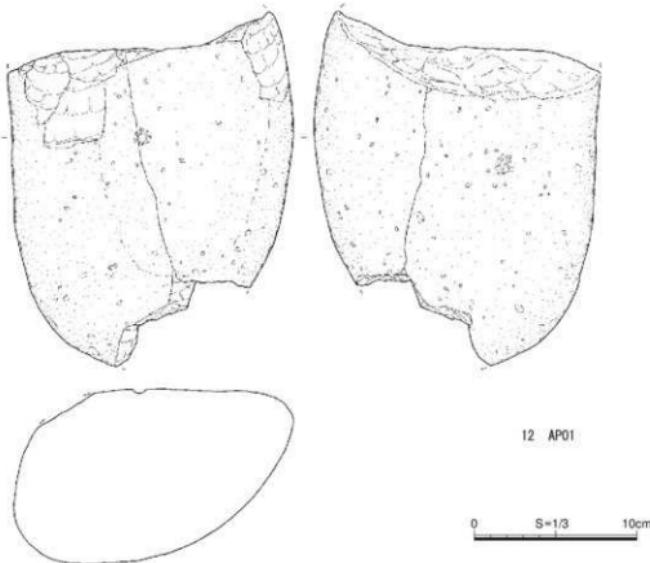
SD 13溝状遺構の東西部部分の南側に平行して掘られた浅い溝である。長さ6m、深さ35cmで断面は角の立った矩形をなすが、搅乱によって大半を破壊されているため幅が不明である。SD 13号溝状遺構との間隔はわずか20cmしかない。底部には工具痕がなく、傾斜も見られない。SD 14溝状遺構と断面形状がやや異なるが、搅乱部付近で底部の標高差が2cm程である事から、同一の溝と考えて良かろう。



第54図 SD 1・2・5・6溝状造構



第55図 SD11~15溝状遺構



第67図 SX1不明遺構出土縄文土器（2）

第31表 SX1不明遺構出土縄文土器観察表

遺物番号 四面番号 四隅番号	型式	縄文 器種	出土層位	LH 器高 底径 (cm)	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
1 JF67 66 - 1 25 - 6 - 1	加賀利E3式	深鉢	覆土上層	[6.7] —	口縁部片。 口内部をやや肥厚させ内傾する。	内部はやや丁寧な磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、沈縫による口縁区画を配する。	赤褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの砂粒と雲母を少量含む。焼成は良好。
2 JF68 66 - 2 25 - 6 - 2	加賀利E3式	深鉢	覆土上層	[8.2] —	口縁部片。 口内部をやや肥厚させ内傾する。	内部はやや丁寧な磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、沈縫による口縁区画を配する。	暗褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの砂粒と雲母を少量含む。焼成は良好。
3 JF69 66 - 3 25 - 6 - 3	加賀利E3式	深鉢	覆土上層	[6.8] —	口縁部片。 口内部をやや肥厚させ内傾する。	内部はやや丁寧な磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、沈縫による口縁区画を配する。	暗褐色。胎土は黒。砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
4 JF70 66 - 4 25 - 6 - 4	加賀利E3式	深鉢	覆土上層	[6.0] —	口縁部片。 口内部をやや肥厚させ内傾する。波状口縁。	内部ともやや丁寧な磨き。表面は縦方向の条綱を施文する。	暗褐色。胎土は黒。細砂粒を少量、雲母を多く含む。焼成は良好。
5 JF71 66 - 5 25 - 6 - 5	加賀利E式	浅鉢	覆土上層	[7.5] —	口縁部片。 口内部をやや肥厚させ、くす字状に崩し外反する。	内部はやや丁寧な磨き。表面は丁寧な磨き。	赤褐色。胎土は黒だが、1mmの大砂粒と雲母を少量含む。焼成は良好。
6 JF72 66 - 6 25 - 6 - 6	加賀利E3式	深鉢	覆土上層	[7.5] —	輪郭片。 キャリバー形を呈する。	内部はやや丁寧な磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、沈縫による懸垂文と縦方向の波状文を配する。そのなかに割り入る。	暗褐色。胎土は黒。細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
7 JF73 66 - 7 25 - 6 - 7	加賀利E2~3式	深鉢	覆土上層	[4.4] —	輪郭片。	内部はやや粗い磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、平行波状による懸垂文と縦方向の波状文を配する。	赤褐色。胎土は黒で、細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。
8 JF74 66 - 8 25 - 6 - 8	加賀利E2~3式	深鉢	覆土上層	[7.0] —	底部に近い口縁部片。	内部はやや丁寧な磨き。表面は單面RL縄文を縦方向に施文した後、沈縫による区画を配する。	暗褐色。胎土はやや粗く、1~2mmの砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。

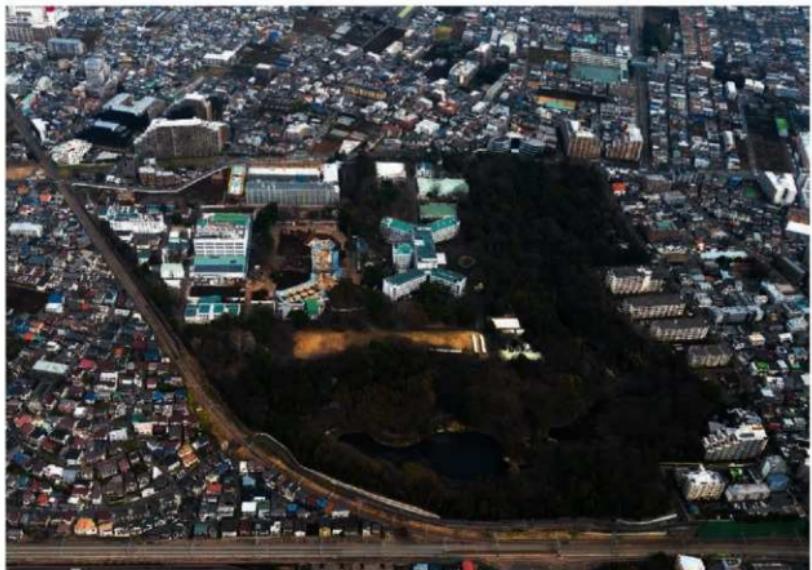
第32表 SX1不明遺構出土陶器観察表

遺物番号 四面番号 四隅番号	出土層位	材質	器種	遺存度	釉色 / 粗細	法量 (cm)			重量 (g)	主な文様 / 形態	備考	産地
						口径	底径	器高				
9 - PT02 66 - 9 25 - 6 - 9	覆土上層	陶器	甌	器部片	外面：自然釉・内面：無釉	—	—	[7.1]	—	63.9		輪轍み。胎土色：灰色

写 真 図 版



図版 2



2-1 調査区遠景（南から）



2-2 調査区遠景（北西から）



3-1 1区北側全景（北から）



3-2 1区南側全景（北から）



3-3 2区奈良・平安確認面全景（東から）



3-4 2区縄文確認面全景（東から）



3-5 3区奈良・平安確認面全景（北から）



3-6 3区縄文確認面全景（北西から）



3-7 3区旧石器調査完了全景（北西から）



3-8 4区奈良・平安確認面全景（南西から）

図版 4



4-1 4区縄文確認面全景（南西から）



4-2 4区旧石器調査完了全景（南西から）



4-3 5区-14 トレンチ全景（北から）



4-4 6区遺構検出状況（西から）



4-5 基本層序 5区-28 トレンチ北壁（南から）



4-6 SK 8 P完掘状況（南から）



4-7 No. 1 (ナイフ形石器) 出土状況（西から）



4-8 No. 1 (ナイフ形石器) 出土状況近景（西から）



5-1 S11J住居完掘状況（東から）



5-2 S11J住居土層断面A（東から）



5-3 S11J住居土層断面B（南から）



5-4 S11J住居P-1完掘状況（北から）



5-5 S11J住居P-2完掘状況（北から）



5-6 S11J住居P-3完掘状況（西から）



5-7 S11J住居炉完掘状況（北から）



5-8 S11J住居炉土層断面（北から）

図版 6



6-1 SS 1・2集石土坑検出状況（西から）



6-2 SS 1・2集石土坑完掘状況（西から）



6-3 SS 1集石土坑検出状況（西から）



6-4 SS 1集石土坑土層断面（北から）



6-5 SS 2集石土坑検出状況（東から）



6-6 SS 2集石土坑土層断面（東から）



6-7 SS 3・4集石土坑検出状況（東から）



6-8 SS 3・4集石土坑完掘状況（東から）



7-1 SS 3集石土坑検出状況（東から）



7-2 SS 3集石土坑土層断面（東から）



7-3 SS 4集石土坑検出状況（東から）



7-4 SS 4集石土坑土層断面（東から）



7-5 SK 3J陥し穴完掘状況（北から）



7-6 SK 3J陥し穴土層断面（北西から）



7-7 SK 4J陥し穴完掘状況（北から）



7-8 SK 4J陥し穴土層断面（北東から）

図版 8



8-1 SK 6 J 陥し穴完掘状況（東から）



8-2 SK 6 J 陥し穴土層断面（南から）



8-3 SK 1 J 土坑完掘状況（北から）



8-4 SK 1 J 土坑土層断面（北から）



8-5 SK 2 J 土坑遺物出土状況（北から）



8-6 SK 2 J 土坑完掘状況（北から）



8-7 SK 2 J 土坑土層断面（北から）



8-8 SK 10 J 土坑完掘状況（南から）



9-1 SK 10 J 土坑土層断面（南から）



9-2 SK 11 J 土坑完掘状況（南から）



9-3 SK 11 J 土坑土層断面（南から）



9-4 SK 12 J 土坑完掘状況（南から）



9-5 SK 12 J 土坑土層断面（南から）



9-6 SK 12 J 土坑遺物出土状況（南から）



9-7 SK 14 J 土坑完掘状況（南から）



9-8 SK 14 J 土坑土層断面（南から）

図版 10



10-1 4区包含層 No. 1 出土状況（東から）



10-2 1区包含層 No. 1 出土状況（西から）



10-3 1区包含層 No. 1 出土状況（北から）



10-4 3区包含層 No. 107 出土状況（東から）



10-5 3区包含層 No. 113・114 出土状況（東から）



10-6 3区包含層 No. 113 出土状況（南から）



10-7 3区包含層 No. 114 出土状況（東から）



10-8 1区包含層 No. 117 出土状況（南から）



11-1 SD 1 溝状遺構北側完掘状況（南から）



11-2 SD 1 溝状遺構中央完掘状況（南から）



11-3 SD 1 南側・5・6 溝状遺構・
SX 1 不明遺構完掘状況（西から）



11-4 SD 2 溝状遺構完掘状況（東から）



11-5 SD 5 溝状遺構遺物（瓦）出土状況（東から）



11-6 SD 1・2 溝状遺構土層断面C（南から）



11-7 SD 5 溝状遺構土層断面F（西から）



11-8 SD 6 溝状遺構土層断面F（西から）

図版 12



12-1 SD 11～15 溝状遺構完掘状況（北西から）



12-2 SD 11 溝状遺構完掘状況（北から）



12-3 SD 12 溝状遺構完掘状況（南から）



12-4 SD 11・12 溝状遺構土層断面B（南から）



12-5 SD 13～15 溝状遺構完掘状況（北東から）



12-6 SD 13～15 溝状遺構完掘状況（南から）



12-7 SD 13・15 溝状遺構土層断面D（東から）



12-8 SD 14 溝状遺構土層断面C（南から）



13-1 SD 3・4溝状遺構完掘状況（南から）



13-2 SD 3・4溝状遺構土層断面B（北から）



13-3 SD 7・8溝状遺構完掘状況（西から）



13-4 SD 7溝状遺構土層断面（東から）



13-5 SD 8溝状遺構土層断面（東から）



13-6 SD 9溝状遺構完掘状況（東から）



13-7 SD 9溝状遺構土層断面（東から）



13-8 SD 10溝状遺構完掘状況（東から）

図版 14



14-1 SD 10 溝状遺構土層断面（西から）



14-2 SD 16 溝状遺構完掘状況（南から）



14-3 SD 17 溝状遺構完掘（北から）



14-4 SD 18 溝状遺構完掘状況（南から）



14-5 SD 19 溝状遺構完掘状況（北から）



14-6 SD 20 溝状遺構(5区-44)完掘状況(南から)



14-7 SD 20・21 溝状遺構(5区-48)完掘状況(東から)



14-8 SD 20・21 溝状遺構土層断面B（南から）



15-1 SK 7 土坑完掘状況（西から）



15-2 SK 7 土坑遺物出土状況（西から）



15-3 SK 9 土坑完掘状況（西から）



15-4 SK 9 土坑土層断面（東から）



15-5 SK 13 土坑完掘状況（東から）



15-6 SK 13 土坑土層断面（東から）



15-7 SX 1 不明遺構上部完掘状況（東から）



15-8 SX 1 不明遺構上部断面（東から）

図版 16



16-1 SX 1 不明遺構下部断面（東から）



16-2 SX 1 不明遺構下部完掘状況（西から）



16-3 SX 1 不明遺構東壁近景（西から）



16-4 SX 2 不明遺構完掘状況（東から）



16-5 SX 2 不明遺構P-1・2完掘状況（東から）



16-6 SX 2 不明遺構北側階段状張り出し（南東から）



16-7 作業風景



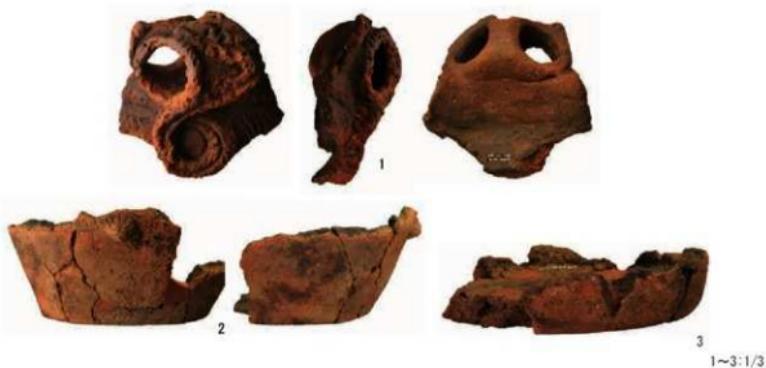
16-8 作業風景



17-1 旧石器時代出土遺物



17-2 S I 1 J 住居出土遺物



17-3 SK 12 J 土坑出土遺物



17-4 小穴出土遺物



18-1 繩文時代遺構外出土遺物（1）

1:1/3



19-1 繩文時代遺構外出土遺物（2）

2~53:1/3



20-1 繩文時代遺構外出土遺物（3）

54~92:1/3



93~106:1/3



107・109・110:1/2
108:1/1



22-1 繩文時代遺構外出土遺物（5）

111~119:1/2



120~128:1/2

23-1 繩文時代遺構外出土遺物（6）



129



130



131



132



133



135



134



136

129~136:1/2



137 · 138 · 140: 1/2
139: 1/3

25-1 繩文時代遺構外出土遺物 (8)



25-2 奈良・平安時代
遺構外出土遺物



25-3 SD 1溝状遺構出土遺物

1 · 2:1/3
3:1/1



25-4 SD 5溝状遺構出土遺物



25-5 SD 11溝状遺構出土遺物



25-6 SX 1不明遺構出土遺物 (1)

1~9:1/3

図版 26



26-1 SX 1 不明遺構出土遺物 (2)

10・11:1/2
12:1/3



26-2 SX 2 不明遺構出土遺物

1・2:1/3

26-3 近代以降遺構外出土遺物

1・2:1/3



27-1 SD 1溝状遺構出土遺物



27-2 SD 5溝状遺構出土遺物



27-3 SD 13溝状遺構出土遺物



27-4 SK 7土坑出土遺物



27-5 SK 9土坑出土遺物



27-6 表土出土遺物(近世以降)

報告書抄録

羽根沢遺跡発掘調査報告書 第9・10次調査
—「(仮称)日立製作所中央研究所新棟計画」工事に伴う調査—

発行日 平成30(2018)年4月27日

編集 共和開発株式会社

発行 共和開発株式会社

印刷 明誠企画株式会社

令和3年（2021）9月8日 デジタル版作成
表紙・裏表紙省略